様式（文部科学省ガイドライン準拠版）

平成２９年度

自 己 評 価 報 告 書

平成３０年４月２７日

学校法人国際学園　九州医療スポーツ専門学校

【評定の基準】

4:
適切に対応している。課題の発見に積極的で今後さらに向上させるための意欲がある。

3:
ほぼ適切に対応しているが課題があり、改善方策への一層の取組みが期待される。

2:
対応が十分でなく、やや不適切で課題が多い。課題の抽出と改善方策へ取り組む必要がある。

1:
全く対応しておらず不適切。学校の方針から見直す必要がある。

１．学校の理念・教育目標

教育理念	教育目標
「士魂医才」（しこんいさい） 　菅原道真の「和魂漢才」から渋沢栄一の「士魂商才」へ、そしてこれからの時代に求められるのは「士魂医才」である。つまり、豊かな教養とプロフェッショナルな医療人としての技術を持ち、愛情と誇りを持って、日本国民の真の健康に寄与し、社会に貢献できる人材の育成を目指す。	「挨拶」「感謝」「感動」「責任」を重んじる教育の推進により、豊かな教養とプロフェッショナルな医療人としての技術を持ち、誇りを持って国民の真の健康に寄与できる人材の育成 １　人格の完成 （１）他者への思いやりと自分の可能性最大に伸長しようとする謙虚さと誠実さを涵養する。 （２）校内外のさまざまな場面において、自らの素養を高めようとする向上心を育む。 ２　施術者・トレーナーとしての資質能力の育成 （１）入学者全員の卒業と資格試験合格を達成する。 （２）主体的に臨床的な基礎研究に取り組む場の提供と、知識・技能の定着を図る。 （３）地域との連携を深め、社会に貢献できる人材を育成する。

記載責任者　職・氏名	校　長　　中　村　　潤

２．本年度の重点目標と取組方法およびその結果

平成２９年度重点目標	達成計画・取組方法とその結果
1　入学生確保のための広報活動の改善と充実 2　授業改善のための授業研究会の実施 3　資格試験全員合格に向けた組織的対策の実施 4　卒業後の進路指導の一環としての企業説明会の改善実施 5　地域と連携した各種イベント等への積極的参加	1　広報部を中心とした県内外の広報活動の推進を図り、高校卒業生の減少が進む中で入学生の確保が進められた。校内におけるオープンキャンパスに対する教員・学生の協力体制が構築され、参加者への広報を推進できた。 2　主体的な授業研究会を複数の学科が実施し、学科内外の多くの教員が参加した。それぞれの授業の現状と課題を共有して改善の方向性が明確になった。 3　資格試験に向かって、各学科ともに組織的な対策を講じた。試験の傾向を分析し、対策を計画的に進められた。 4　キャリアサポートセンターを中心とした企業説明会の企画・運営が行われ、学生の積極的参加につながった。 5　北九州市をはじめとする各団体との連携により、各種イベントへの教員・学生の積極的参加と協力体制が構築された。

記載責任者　職・氏名	校　長　　中　村　　潤

基準１　教育理念・目的・育成人材像　【平均評価：４．０】

総括と課題	今後の改善策	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
教育理念と目標、ビジョンに関して、常日頃から目にする、耳にするなど、教職員も学生も意識するような環境づくりを行っている。課題としてあげるならば、それをどう行動に結びつけ、達成していこうとするのかを導きだしていくことではないかと考える。	具体的な行動まで落とし込み、全員が一丸となって取り組む環境づくりをおこなうこと。	なし。

記載責任者　職・氏名	校　長　　中　村　　潤

１－１　理念・目的・育成人材送

小項目	チェック項目	評定	現状の取組状況	課　　題	今後の改善方策	参考資料
1-1-1 理念・目的・育成人材像は、定められているか。	理念に沿った目的･育成人材像になっているか。	4	行事等で常に理念、目標の伝達を行っている。	なし	なし	
	理念等は文書化するなど明確に定めているか。		教室掲示などに努めている。	なし	なし	
	理念等において専門分野の特性は明確になっているか。		本校の専門である医療の特性について明確に定めている。	なし	なし	
	理念等に応じた課程（学科）を設置しているか。		設置している。	なし	なし	
	理念等を実現するための具体的な目標・計画・方法を定めているか。		各学科目標を掲げ取り組んでいる。	なし	なし	

	理念等を学生・保護者、関連業界等に周知しているか。		式典等でも理念の公表、広報活動においても理念の伝達に努めている。	なし	なし	
	理念等の浸透度を確認しているか。		確認している	なし	なし	
	理念等を社会等の要請に的確に対応させるため、適宜、見直しを行っているか。		行っている	なし	なし	

1-1-2 育成人材像は専門分野に関連する業界等の人材ニーズに適合しているか。	課程（学科）毎に関連業界等が求める知識・技術・技能・人間性等人材要件を明確にしているか。	4	明確にしている	なし	なし	
	教育課程、授業計画（シラバス）等の策定において関連業界等からの協力を得ているか。		協力を得ている	なし	なし	
	専任・兼任（非常勤）にかかわらず教員採用において関連業界等からの協力を得ているか。		協力を得ている	なし	なし	
	学内外にかかわらず、実習の実施にあたって、関連業界等からの協力を得ているか。		協力を得ている	なし	なし	
	教材等の開発において、関連業界等からの協力を得ているか。		協力を得ている	なし	なし	

1-1-3 理念等の達成に向け特色ある教育活動に取組	理念等の達成に向け特色ある教育活動に取組んでいるか。	4	取り組んでいる	なし	なし	

んでいるか。	特色ある職業実践教育に取組んでいるか。		取り組んでいる	なし	なし	

1-1-4 社会のニーズ等を踏まえた将来構想を抱いているか。	中期的（3～5 年程度）視点で、学校の将来構想を定めているか。	4	定めている	なし	なし	
	学校の将来構想を教職員に周知しているか。		周知している	なし	なし	
	学校の将来構想を学生・保護者・関連業界等に周知しているか。		周知している	周知しきれているかは不明	保護者会や学園祭などを活用し、周知していく	

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
理念やビジョンを策定し、教職員だけでなく学生に共有できるように、イベントや行事でも常に伝達することを心がけ、一体となって達成に向かっていくスタンスでおこなっている。短期目標だけでなく中長期的な視点で見据え、今後どのように発展していくかを多く検討しているところである。	

記載責任者　職・氏名	校　長　　中　村　　潤

基準２　学校運営　【平均評価：３．４】

総括と課題	今後の改善策	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
毎朝の職員朝礼による情報の共有、報連相の徹底など、毎日を滞りなく運営していくための施策、また、月に二回行う管理者会議及び教職員会議による情報の共有などを通し、非常事態がないように体制を整えている。また、日報制度により、日々の学生の様	運営において重要なのは、質はもちろん、スピードが大切である。スピードがあがる仕組みを作り、情報がもっと早く、正確に回るような仕組みづくりをおこなっていく。	

子や教職員の様子を各部署の長がとりまとめ、校長が吸い上げるような仕組みとしている。		

記載責任者　職・氏名	校　長　　中　村　　潤

２－２　運営方針

小項目	チェック項目	評定	現状の取組状況	課　　題	今後の改善方策	参考資料
2-2-1 理念等に沿った運営方針を定めているか。	運営方針を文書化するなど明確に定めているか。	4	定めている	なし	なし	
	運営方針は理念等、目標、事業計画を踏まえ定めているか。		定めている	なし	なし	
	運営方針を教職員等に周知しているか。		周知している	なし	なし	
	運営方針の組織内の浸透度を確認しているか。		確認している	なし	なし	

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
学校の教育理念だけでなく、法人の理念も周知し、理念に沿った行動ができるように努めている。	

記載責任者　職・氏名	校　長　　中　村　　潤

２－３　事業計画

小項目	チェック項目	評定	現状の取組状況	課　　題	今後の改善方策	参考資料
2-3-1	中期計画（3～5 年程度）	4	定めている	なし	なし	

理念等を達成するための事業計画を定めているか。	を定めているか。					
	□単年度の事業計画を定めているか。		定めている	なし	なし	
	□事業計画に予算、事業目標等を明示しているか。		明示している	なし	なし	
	□事業計画の執行体制、業務分担等を明確にしているか。		明確にしている	なし	なし	
	□事業計画の執行・進捗管理状況及び見直しの時期・内容を明確にしているか。		明確にしている	なし	なし	

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
毎年、事業計画を見直し、策定している。また、予算に関しても常に 3 年先まで見据えた予算書を作成している。	

記載責任者　職・氏名	校　長　　中　村　　潤

２－４　運営組織

小項目	チェック項目	評定	現状の取組状況	課　　題	今後の改善方策	参考資料
2-4-1 設置法人は組織運営を適切に行っているか。	理事会、評議員会は、寄附行為に基づき適切に開催しているか。	4	定期的に開催している	なし	なし	
	理事会等は必要な審議を行い、適切に議事録を作成しているか。		適切に作成している	なし	なし	
	寄附行為は、必要に応じて適正な手続きを経て改正しているか。		改正している	なし	なし	

2-4-2 学校運営のための組織を整備しているか。	学校運営に必要な事務及び教学組織を整備しているか。	4	整備している	なし	なし	
	現状の組織を体系化した組織規程、組織図等を整備しているか。		整備している	なし	なし	
	各部署の役割分担、組織目標等を規程等で明確にしているか。		明確にしている	なし	なし	
	会議、委員会等の決定権限、委員構成等を規程等で明確にしているか。		明確にしている	なし	なし	
	会議、委員会等の議事録（記録）は、開催毎に作成しているか。		作成している	なし	なし	
	組織運営のための規則・規程等を整備しているか。		整備している	なし	なし	
	規則・規程等は、必要に応じて適正な手続きを経て改正しているか。		改正している	なし	なし	
	学校の組織運営に携わる事務職員の意欲及び資質の向上への取組みを行っているか。		行っている	なし	なし	

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
規程や規則等は作成しており、なおかつ更新していくようにしている。また、理事会・評議員会等も定期的に開催しており、滞りなくおこなっている。	

記載責任者　職・氏名	事務局長　　西　田　真　紀

２－５　人事・給与制度

小項目	チェック項目	評定	現状の取組状況	課　　題	今後の改善方策	参考資料
2-5-1 人事･給与に関する制度を整備しているか。	採用基準･採用手続きについて規程等で明確化し､適切に運用しているか。	3	適切に運用している	なし	なし	
	適切な採用広報を行い、必要な人材を確保しているか。		確保している	なし	なし	
	給与支給等に関する基準・規程を整備し、適切に運用しているか。		運用している	なし	なし	
	昇任・昇給の基準を規程等で明確化し、適切に運用しているか。		適切に運用している	なし	なし	
	人事考課制度を規程等で明確化し､適切に運用しているか。		運用している	なし	人事考課制度に関して再検討し、現在にふさわしいものを制定する	

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
人事考課に関して、毎年より良いものを更新している。	

記載責任者　職・氏名	事務局長　　西　田　真　紀

２－６　意思決定システム

小項目	チェック項目	評定	現状の取組状況	課　　題	今後の改善方策	参考資料
2-6-1 意思決定システムを整備しているか。	教務･財務等の業務処理において､意思決定システムを整備しているか。	3	整備している。	特になし	特になし	

	意思決定システムにおいて、意思決定の権限等を明確にしているか。		明確となっている。	特になし	特になし	
	意思決定システムは、規則・規程等で明確にしているか。		規則・規程に規定していない。	意思決定システムについて規則・規程を整備する必要がある。	意思決定システムにかかる規則・規程の整備。	

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
教務および財務にかかる意思決定システムは構築されているものの、これを規則や規程において規定する必要がある。	

記載責任者　職・氏名	教務部長　　味　村　吉　浩

２－７　情報システム

小項目	チェック項目	評定	現状の取組状況	課　　題	今後の改善方策	参考資料
2-7-1 情報システム化に取組み、業務の効率化を図っているか。	学生に関する情報管理システム、業務処理に関するシステムを構築しているか。	2	情報管理システムを構築してリアルタイムに管理を行っている。	特になし	特になし	
	情報システムを活用し、タイムリーな情報提供、意思決定が行われているか。		情報管理システムによる管理を行っている。	特になし	特になし	
	学生指導において、適切に学生情報管理システムを活用しているか。		各学科において紙媒体による記録を採用している。	特に問題は生じていない。	業務に支障を来さない限り、現行制度を継続する。	
	データの更新等を適切に行い、最新の情報を蓄積しているか。		各校舎をVPN接続し、サーバルーム内に大型ファイルサーバを設置した上で情報の一括管理を行っている。	ファイルサーバのバックアップ増加対策と保存期間の選定	クラウド等のVPSサーバをバックアップサーバとし、天変地異や大災害発生時でもデータの素早い復旧を行う	

	システムのメンテナンス及びセキュリティー管理を適切に行っているか。		教職員用クライアントのカード認証によるログイン。 資産管理システムによる操作ログを管理。 ファイアウォールによりアクセス制限とIDS、IPSの実施。 学生向け Free-Spot とはVLANを使用。	各管理サーバーのアップデート体制とログの保管期間の調整。	サーバーの管理一部をベンダーへ依頼。	

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
構内クライアント使用におけるセキュリティポリシーの見直し	・教職員のパスワード管理を廃止し、すべてカード認証へ移行を行う。 ・各管理系サーバはvmwareを使用しHA構成としており障害発生時でも運用を続けられる体制を整えている。 ・各フロアLAN配線は二重化を行い、安定性・高速化を実現している。 ・各フロア・すべての教室に無線LANアクセスポイント・LANコンセントを設置し、学内インフラへの柔軟なアクセス体制を整えている。

記載責任者　職・氏名	IT管理課　　高　嶋　健太郎

基準３　教育活動　【平均評価：２．７】

３－８　目標の設定

３－８－１

１）柔道整復学科（昼間部）

小項目	チェック項目	評定	現状の取組状況	課　　題	今後の改善方策	参考資料
3-8-1	教育課程の編成方針、実	4	教育課程の編成方針、	早急に方針を定め、文	前後期、四半期ごとの	教育課程編成委員会議

理念等に沿った教育課程の編成方針、実施方針を定めているか。	施方針を文書化するなど明確に定めているか。		実施方針は文書化されていない。	書化する必要がある。	方向達成を検証していく	事録 職業実践専門課程規定
	職業教育に関する方針を定めているか。		方針は明確に定められていない。	早急に方針を定め、文書化する必要がある。	積極的に地域へのかかわりを広くしていく。	
				記載責任者　職・氏名	学科長　　桑　野　幸　仁	

２）柔道整復学科（夜間部）

小項目	チェック項目	評定	現状の取組状況	課　　題	今後の改善方策	参考資料
3-8-1 理念等に沿った教育課程の編成方針、実施方針を定めているか。	教育課程の編成方針、実施方針を文書化するなど明確に定めているか。	4	教育課程の編成方針、実施方針は文書化されていない。	早急に方針を定め、文書化する必要がある。	前後期、四半期ごとの方向達成を検証していく	教育課程編成委員会議事録 職業実践専門課程規定
	職業教育に関する方針を定めているか。		方針は明確に定められていない。	早急に方針を定め、文書化する必要がある。	積極的に地域へのかかわりを広くしていく。	
				記載責任者　職・氏名	学科長　　桑　野　幸　仁	

３）鍼灸学科（昼間部）

小項目	チェック項目	評定	現状の取組状況	課　　題	今後の改善方策	参考資料
3-8-1 理念等に沿った教育課程の編成方針、実施方針を定めているか。	教育課程の編成方針、実施方針を文書化するなど明確に定めているか。	2	学生便覧、シラバスにおいて明確に定めている	学生に対して公表しているが、保護者および関係業界等には公表できていない	保護者および関係業界等には公表する場の検討	学生便覧 シラバス
	職業教育に関する方針を定めているか。		上記に明記していない	文書化	文書化	
				記載責任者　職・氏名	学科長　　堀之内　貴　一	

４）スポーツ鍼灸学科

小項目	チェック項目	評定	現状の取組状況	課　　題	今後の改善方策	参考資料
3-8-1 理念等に沿った教育課程の編成方針、実施方針を定めているか。	教育課程の編成方針、実施方針を文書化するなど明確に定めているか。	2	学生便覧、シラバスにおいて明確に定めている	学生に対して公表しているが、保護者および関係業界等には公表できていない	保護者および関係業界等には公表する場の検討	学生便覧 シラバス

	職業教育に関する方針を定めているか。		上記に明記していない	文書化	文書化	
				記載責任者　職・氏名	学科長　　松　波　　賢	

５）理学療法学科

小項目	チェック項目	評定	現状の取組状況	課　　題	今後の改善方策	参考資料
3-8-1 理念等に沿った教育課程の編成方針、実施方針を定めているか。	教育課程の編成方針、実施方針を文書化するなど明確に定めているか。	2	授業シラバスを作成している	教員間での方針の共有	授業シラバスの共有化を図る	
	職業教育に関する方針を定めているか。		授業実施にあたり方針を口頭にて伝えている	文書化する	授業シラバスに反映する	
				記載責任者　職・氏名	学科長補佐　　永　野　　忍	

６）作業療法学科

小項目	チェック項目	評定	現状の取組状況	課　　題	今後の改善方策	参考資料
3-8-1 理念等に沿った教育課程の編成方針、実施方針を定めているか。	教育課程の編成方針、実施方針を文書化するなど明確に定めているか。	4	カリキュラムポリシーを文書化している。	指定規則カリキュラム改正内容に対する整合性の検討。	学科内での定期的見直しと情報共有化を図る。	・作業療法学科のアドミッション、カリキュラム、ディプロマポリシー ・臨床実習マニュアル
	職業教育に関する方針を定めているか。		カリキュラムポリシーに対応する診療参加型実習による臨床教育マニュアルを作成している。	診療参加型臨床教育方法論に関する学科内専任教員間の習熟度および統一性。	学科専任教員内での臨床教育方法論に関する共有化を図る。併せて臨床実習登録施設との情報共有化を図る。	
				記載責任者　職・氏名	学科教員　　中　山　　仁	

７）看護学科

小項目	チェック項目	評定	現状の取組状況	課　　題	今後の改善方策	参考資料
3-8-1 理念等に沿った教育課程の編成方針、実施方針を定めているか。	教育課程の編成方針、実施方針を文書化するなど明確に定めているか。	2	看護学科の教育理念を踏まえて、カリキュラム作成における基本概念（教育、看護、人間、	編成方針、実施方針として、明確に文章化する必要がある。	教育課程編成委員会を開催し、明文化していく。	教育理念 教育目的 教育目標 カリキュラムの基本概

			健康、環境）からカリキュラムの構造、構築の考え方を明記しており、編成方針、実施方針の基盤はできている。			念 各学年の到達目標
	職業教育に関する方針を定めているか。		職業教育については、専門職業人としての育成は明記されているが、職業教育即ち看護師を養成する学校であるということの明記は弱い。	各学年の到達目標において、専門職業教育としての各学年での到達目標を行動レベルで明記する必要がある。	来年度が完成年度となるため、平成31年度からは、各学年の到達目標の変更ができるようになるので、事前に到達目標を検討し、改善を図る。	
				記載責任者　職・氏名	学科長　　村　山　由起子	

８）歯科衛生学科

小項目	チェック項目	評定	現状の取組状況	課　　題	今後の改善方策	参考資料
3-8-1 理念等に沿った教育課程の編成方針、実施方針を定めているか。	教育課程の編成方針、実施方針を文書化するなど明確に定めているか。	3	特になし	特になし	特になし	特になし
	職業教育に関する方針を定めているか。		特になし	特になし	特になし	
				記載責任者　職・氏名	学科長　　藤　　幸　枝	

９）生涯スポーツトレーナー介護福祉学科

小項目	チェック項目	評定	現状の取組状況	課　　題	今後の改善方策	参考資料
3-8-1 理念等に沿った教育課程の編成方針、実施方針を定めているか。	教育課程の編成方針、実施方針を文書化するなど明確に定めているか。	3	求められる介護福祉士像を共有するために、教育方針として文章化している。	開設年度のために特になし。	今年度の状況を踏まえて検討する。	入学案内など
	職業教育に関する方針を定めているか。		介護福祉士養成教育に関する方針を定めている。	教員間の認識に差がある。	教員の研修を実施する。	
				記載責任者　職・氏名	学科長　　井　上　由紀子	

10）アスレティックリハビリテーション・スポーツトレーナー学科						
小項目	チェック項目	評定	現状の取組状況	課　　題	今後の改善方策	参考資料
3-8-1 理念等に沿った教育課程の編成方針、実施方針を定めているか。	教育課程の編成方針、実施方針を文書化するなど明確に定めているか。	2	教育課程表の作成、シラバスの作成をしている。	学生への周知徹底。	学生に対し、詳細なシラバスの配付を行う。	学生便覧
	職業教育に関する方針を定めているか。		学校教育目標に沿った学生指導を実施している。	業界のニーズに沿った人材の育成。	卒業生を招いてのセミナーを企画していく予定。	
				記載責任者　職・氏名	学科長　　寺　本　敦　司	

11）整体セラピスト学科						
小項目	チェック項目	評定	現状の取組状況	課　　題	今後の改善方策	参考資料
3-8-1 理念等に沿った教育課程の編成方針、実施方針を定めているか。	教育課程の編成方針、実施方針を文書化するなど明確に定めているか。	3	多くの資格取得を目標としている	なし	なし	なし
	職業教育に関する方針を定めているか。		就職に向け、一年で多くの資格取得を目標としている	なし	なし	
				記載責任者　職・氏名	学科長　　蓑　田　のり子	

12）日本語学科						
小項目	チェック項目	評定	現状の取組状況	課　　題	今後の改善方策	参考資料
3-8-1 理念等に沿った教育課程の編成方針、実施方針を定めているか。	教育課程の編成方針、実施方針を文書化するなど明確に定めているか。	3	科目ごとのカリキュラムに到達目標と時間数を定めている。	カリキュラムと実際の到達度が一致しない場合がある。	学生の能力、ニーズに応えられる柔軟なカリキュラムを作成する。	なし
	職業教育に関する方針を定めているか。		該当しない			
				記載責任者　職・氏名	学科長　　阿　野　由利子	

３－８－２

１）柔道整復学科（昼間部）						
小項目	チェック項目	評定	現状の取組状況	課　　題	今後の改善方策	参考資料
3-8-2 学科毎に修業年限に応じた教育到達レベルを明確にしているか。	学科毎に目標とする教育到達レベルを明示しているか。	4	学科毎に教育到達レベルを明示している。	学生の到達レベルの差をどうするか。	目標の為に今なすことを自覚させる。	学生便覧 学則別表授業科目一覧
	教育到達レベルは、理念等に適合しているか。		教育到達レベルは理念で設定されている。	理念との整合性をどうするか。	理念の到達レベル目標は変えない。	
	資格・免許の取得を目指す学科において、取得の意義及び取得指導・支援体制を明確にしているか。		取得意義はボランティアへの参加を促し、機会を与え個人に支援を行っている。	免許取得の意義をどう伝えるか。	学業の達成度に考慮して支援を企図することが大切になる。	
	資格・免許取得を教育到達レベルとしている学科では、取得指導・支援体制を整備しているか。		免許取得指導、支援体制は教育到達レベルに合わせ実技を含め指導している。	早い時期から免許取得の為に学業のレベルアップをどうするか。	本人のレベルを考慮しつつ自ら学ぶ支援体制を構築したい。	
				記載責任者　職・氏名	学科長　　桑　野　幸　仁	

２）柔道整復学科（夜間部）						
小項目	チェック項目	評定	現状の取組状況	課　　題	今後の改善方策	参考資料
3-8-2 学科毎に修業年限に応じた教育到達レベルを明確にしているか。	学科毎に目標とする教育到達レベルを明示しているか。	4	教育到達レベルを授業科目一覧（単位数）で明示している。	なし。	科目の履修年度が適切か検証することも必要である。	学生便覧 学則別表授業科目一覧
	教育到達レベルは、理念等に適合しているか。		適合している。	なし。	なし。	
	資格・免許の取得を目指す学科において、取得の意義及び取得指導・支援体制を明確にしているか。		国家資格（免許）の取得にあたり、授業以外に補講を含めた支援体制をとっている。	なし。	なし。	
	資格・免許取得を教育到達レベルとしている学科では、取得指導・支援体		補講を行い、習熟度に応じたクラス分けをし	なし。	なし。	

	制を整備しているか。		て底上げを図っている。			
				記載責任者　職・氏名	学科長　　桑　野　幸　仁	

３）鍼灸学科（昼間部）						
小項目	チェック項目	評定	現状の取組状況	課　　題	今後の改善方策	参考資料
3-8-2 学科毎に修業年限に応じた教育到達レベルを明確にしているか。	学科毎に目標とする教育到達レベルを明示しているか。	3	シラバスの科目ごとの到達レベルを明示。	各科目だけでなく、総合して到達レベルに達しているか不明。	シラバス作成前に到達レベルを周知する。	シラバス
	教育到達レベルは、理念等に適合しているか。		シラバスにより科目別の到達レベルを明示している	シラバスの作成だけにとどまっている	理念の周知	
	資格・免許の取得を目指す学科において、取得の意義及び取得指導・支援体制を明確にしているか。		資格取得のために授業時間外に国家試験対策などを実施。	学生間での学力差が生じ、到達レベルが個人によって異なる。	学力が及ばない学生に対しては個別に対応する。	
	資格・免許取得を教育到達レベルとしている学科では、取得指導・支援体制を整備しているか。		資格取得のために授業時間外に国家試験対策などを実施	学生間での学力差が生じ、到達レベルが個人によって異なる。	学力が及ばない学生に対しては個別に対応する。	
				記載責任者　職・氏名	学科長　　堀之内　貴　一	

４）スポーツ鍼灸学科						
小項目	チェック項目	評定	現状の取組状況	課　　題	今後の改善方策	参考資料
3-8-2 学科毎に修業年限に応じた教育到達レベルを明確にしているか。	学科毎に目標とする教育到達レベルを明示しているか。	3	シラバスにより科目別の到達レベルを明示している	シラバスの作成だけにとどまっている	浸透させるための仕組み作りをしていく	シラバス 入学パンフレット
	教育到達レベルは、理念等に適合しているか。		理念に基づきシラバスの作成を行っている	シラバスの作成だけにとどまっている	浸透させるための仕組み作りをしていく	
	資格・免許の取得を目指す学科において、取得の意義及び取得指導・支援		支援体制は学校独自のサポートを設けている	在学中のサポートの管理部署が一括されていない	連絡系統がしっかりするように仕組みづくりをする	

	体制を明確にしているか。					
	資格･免許取得を教育到達レベルとしている学科では、取得指導･支援体制を整備しているか。		支援体制は学校独自のサポートを設けている	在学中のサポートの管理部署が一括されていない	連絡系統がしっかりするように仕組みづくりをする	
				記載責任者　職・氏名	学科長　　松　波　　賢	

５）理学療法学科

小項目	チェック項目	評定	現状の取組状況	課　　題	今後の改善方策	参考資料
3-8-2 学科毎に修業年限に応じた教育到達レベルを明確にしているか。	学科毎に目標とする教育到達レベルを明示しているか。	3	学年の進級にあたり試験を実施している	試験における合格基準を明確にする	学年毎の到達レベルを設定する	
	教育到達レベルは、理念等に適合しているか。		授業や実習において専門的知識・技術のみならず倫理教育を行っている	倫理における適合基準を明確にする	学年毎の適合を確認する。	
	資格･免許の取得を目指す学科において、取得の意義及び取得指導･支援体制を明確にしているか。		授業において教授している	理学療法士関連情報を把握する	理学療法士関連団体との連携を行う。	
	資格･免許取得を教育到達レベルとしている学科では、取得指導･支援体制を整備しているか。		授業において教授している	学生の到達レベルを把握する	学生へ意識調査を行う。	
				記載責任者　職・氏名	学科長補佐　　永　野　　忍	

６）作業療法学科

小項目	チェック項目	評定	現状の取組状況	課　　題	今後の改善方策	参考資料
3-8-2 学科毎に修業年限に応じた教育到達レベルを明確にしているか。	学科毎に目標とする教育到達レベルを明示しているか。	3	カリキュラム、ディプロマポリシーを文書化している。また、進級・卒業要件を学生便覧に	仮進級判定となった学生の未履修科目に対する対応方法。	学科内での協議を定期的に実施し見解をまとめる。	・アドミッション、カリキュラム、ディプロマポリシー（作業療法学科）

			明示している。			・学生便覧 ・平成 29 年度時間割（作業療法学科） ・カリキュラム（作業療法学科） ・臨床実習登録施設リスト（作業療法学科）
	教育到達レベルは、理念等に適合しているか。		理念に基づいたディプロマポリシーを策定している。	完成年度を迎えていないため、理念と教育到達レベルの整合性が現状では確認できない。	ディプロマポリシーについて学科内で定期的に情報を共有化し、理念との適合性を協議する。	
	資格・免許の取得を目指す学科において、取得の意義及び取得指導・支援体制を明確にしているか。		学生の過度の負担とならない時間割の調整と掲示を行っている。各授業科目のシラバスは開示し、学年担任・副担任制を導入し学修支援を行っている。	個別性の高い学習支援体制、方法論の構築が急務である。	学科内での協議を定期的に実施し、個別支援を試行する。	
	資格・免許取得を教育到達レベルとしている学科では、取得指導・支援体制を整備しているか。		国家試験対策に対応する授業科目を各年次に編成している。また、臨床実習施設は学科の臨床教育方針に同意を示し、かつ、学生に物理的負担の少ない施設の確保に努めている。	完成年度を迎えていないため、免許取得と教育到達レベルの整合性が現状では確認できない。	既設の他養成施設の指導体制などについての情報収集を行い、資格・免許取得と教育到達レベルの整備について協議を実施する。	
				記載責任者　職・氏名	学科教員　　中　山　　仁	

7）看護学科

小項目	チェック項目	評定	現状の取組状況	課　　題	今後の改善方策	参考資料
3-8-2 学科毎に修業年限に応じた教育到達レベルを明確にしているか。	学科毎に目標とする教育到達レベルを明示しているか。	3	各学年の到達目標は、明らかにしている。	各学年の到達目標の改善を図る必要がある。	各学年の到達目標を検討し、変更・修正する。	教育理念 各学年の到達目標
	教育到達レベルは、理念等に適合しているか。		教育理念は、人間の尊厳を基盤に豊かな人間性を育み、看護に必要な責任感と誇りを持たせ、探求心をもって、社会の養成に対応しうる看護の専門職を育成す	教育到達レベルが理念に適合しているか検討する。	各学年の到達目標の内容を吟味し、修業年限に応じた教育到達レベルになっているか明らかにする。	

			ることであり、それに適合するように各学年の到達目標に明記している。			
	資格・免許の取得を目指す学科において、取得の意義及び取得指導・支援体制を明確にしているか。		明文化したものはない。	取得の意義及び取得指導・支援体制を明確にする。	取得の意義及び取得指導・支援体制について明文化する。	
	資格・免許取得を教育到達レベルとしている学科では、取得指導・支援体制を整備しているか。		国試担当、就職担当の役割を設けるとともに、3年生では、ゼミ制度を作り、取得指導・支援体制を整備している。	取得指導・支援体制を明文化する。	取得指導・支援体制について、評価項目を作成し、評価できるようにする。	
				記載責任者　職・氏名	学科長　　村山由起子	

８）歯科衛生学科

小項目	チェック項目	評定	現状の取組状況	課　　題	今後の改善方策	参考資料
3-8-2 学科毎に修業年限に応じた教育到達レベルを明確にしているか。	学科毎に目標とする教育到達レベルを明示しているか。	4	特になし	特になし	特になし	特になし
	教育到達レベルは、理念等に適合しているか。		特になし	特になし	特になし	
	資格・免許の取得を目指す学科において、取得の意義及び取得指導・支援体制を明確にしているか。		特になし	特になし	特になし	
	資格・免許取得を教育到達レベルとしている学科では、取得指導・支援体制を整備しているか。		特になし	特になし	特になし	
				記載責任者　職・氏名	学科長　　藤　　幸　枝	

９）生涯スポーツトレーナー介護福祉学科						
小項目	チェック項目	評定	現状の取組状況	課　　題	今後の改善方策	参考資料
3-8-2 学科毎に修業年限に応じた教育到達レベルを明確にしているか。	学科毎に目標とする教育到達レベルを明示しているか。	3	シラバスや授業開始時のシラバス説明において明示している。	留学生が理解できないことがある。	留学生に分かりやすい表現や説明で複数回の実施が必要。	シラバス
	教育到達レベルは、理念等に適合しているか。		到達レベルは理念等に適合している。	留学生が目標到達できる授業の進め方。	授業内容や方法について研究する。	
	資格・免許の取得を目指す学科において、取得の意義及び取得指導・支援体制を明確にしているか。		オリエンテーションや各科目において、取得意義を説明している。又授業時間内に達成できなかった技術の習得には補習授業を実施している。	留学生が理解できる表現や方法が課題である。	日本語力を高める授業を別途実施したり、授業の進度を保障する体制をつくる。	
	資格・免許取得を教育到達レベルとしている学科では、取得指導・支援体制を整備しているか。		開設年度で１年生のみの在籍なので、取得へ向けた学ぶ姿勢を高めたり、授業の進度を保障することにとどまっている。	具体的な取得指導・支援体制は検討中。	次年度国家試験受験のための指導・支援体制を構築する。	
				記載責任者　職・氏名	学科長　　井　上　由紀子	

10）アスレティックリハビリテーション・スポーツトレーナー学科						
小項目	チェック項目	評定	現状の取組状況	課　　題	今後の改善方策	参考資料
3-8-2 学科毎に修業年限に応じた教育到達レベルを明確にしているか。	学科毎に目標とする教育到達レベルを明示しているか。	3	教育到達レベルはシラバスに明記している。	学生への周知徹底が不十分である。	１講目で担当講師より説明を行う。	学生便覧 シラバス
	教育到達レベルは、理念等に適合しているか。		本校理念に基づいての学生指導は出来ている。	社会の現状や変化を踏まえたカリキュラムの作成。	業界団体との意見交換が必要と考える。	
	資格・免許の取得を目指す学科において、取得の		各学年で実施されるオリエンテーション内に	学生への周知徹底が不十分である。	ホームルームなどを実施し、そこでの周知徹	

	意義及び取得指導・支援体制を明確にしているか。		て説明している。		底を行う。	
	資格・免許取得を教育到達レベルとしている学科では、取得指導・支援体制を整備しているか。		資格取得指導、支援体制は、整っている。	学力不足の学生に対しての対応。	学力不足の学生に対してのフォローアップ。	
				記載責任者　職・氏名	学科長　　寺　本　敦　司	

11）整体セラピスト学科

小項目	チェック項目	評定	現状の取組状況	課　　題	今後の改善方策	参考資料
3-8-2 学科毎に修業年限に応じた教育到達レベルを明確にしているか。	学科毎に目標とする教育到達レベルを明示しているか。	3	多くの資格取得を目標としている	時代のニーズに合ったものを提供する	**担当教員との密な報連相**	なし
	教育到達レベルは、理念等に適合しているか。		チームとしての目標を数値化したものにし達成させる	なし	なし	
	資格・免許の取得を目指す学科において、取得の意義及び取得指導・支援体制を明確にしているか。		基礎と専門分野の担当教員で連携を取っている	なし	なし	
	資格・免許取得を教育到達レベルとしている学科では、取得指導・支援体制を整備しているか。		基礎と専門分野の担当教員で連携を取っている	なし	なし	
				記載責任者　職・氏名	学科長　　蓑　田　のり子	

12）日本語学科

小項目	チェック項目	評定	現状の取組状況	課　　題	今後の改善方策	参考資料
3-8-2 学科毎に修業年限に応じた教育到達レベルを	学科毎に目標とする教育到達レベルを明示しているか。	3	進学に向けて到達レベルを設定している。	科目により達成が難しいものがある。	授業内容の見直し	なし

明確にしているか。	教育到達レベルは、理念等に適合しているか。		留学生受入れ、進学させることによって理念を実践している。	なし	なし	
	資格・免許の取得を目指す学科において、取得の意義及び取得指導・支援体制を明確にしているか。		各種日本語試験の受験を奨励し、対策授業を行っている。	資格取得に対する意識が低い。	資格取得の意義を認識させ意識を徹底させる。	
	資格・免許取得を教育到達レベルとしている学科では、取得指導・支援体制を整備しているか。		該当しない			
				記載責任者　職・氏名	学科長　　阿　野　由利子	

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
学校理念の達成に沿って、各学科において教育課程を作成に努めている。教育到達レベルの把握は学科によってさまざまであるが、数値化するなどしてこれを把握できるようにする必要がある。	

記載責任者　職・氏名	教務部長　　味　村　吉　浩

３－９　教育方法・評価等

３－９－１

１）柔道整復学科（昼間部）

小項目	チェック項目	評定	現状の取組状況	課　　題	今後の改善方策	参考資料
3-9-1 教育目的・目標に沿った教育課程を編成してい	教育課程を編成する体制は、規程等で明確にしているか。	3	教育課程の編成体制は規定されていない	常に教育課程の編成体制に留意しているか	課程の目標を意識しそれに添った授業をする。	教育課程編成委員会議事録 学生便覧

るか。	議事録を作成するなど教育課程の編成過程を明確にしているか。		議事録作成により課程の編成は明確に規定されている。	適正な議事録とともに編成過程を検証していく	教育課程の編成を守るよう留意する。	学則別表授業科目一覧 職業実践専門課程規定
	授業科目の開設において、専門科目、一般科目を適切に配分しているか。		科目の開設における門科目、一般選択科目とも適切に配分している。	科目の開設では規定に添い専門科目、一般科目に配分されているか。	専門科目、一般科目とも適切な配分を検証する。	
	授業科目の開設において、必修科目・選択科目を適切に配分しているか。		科目の開設においては必修科目、選択科目とも適切に配分している。	授業においての必修科目、選択科目とも適切に配分されたか留意	常に配分に留意する。	
	修了に係る授業時数、単位数を明示しているか。		終了に係る授業時数、単位数は明示されている（学生便覧）	授業時数、単位数は入学に際し提示、周知している。	単位数は進級、卒業に係るので常に点検を入れる。	
	授業科目の目標に照らし、適切な教育内容を提供しているか。		常に科目の目標に留意し適切な教育内容は提供されている	教育内容に不備がない様に年度初めに確認を要する。	授業科目の目標を常に常に意識し実行する。	
	授業科目の目標に照らし、講義・演習・実習等、適切な授業形態を選択しているか。		科目の目標に沿い実習を含め適切な授業形態は 選択されている。	特に演習、実習等においては教育しても１回ではレベルに達しないことが多い。	常に達成レベルに留意し繰り返し、教育を行い確認する。	
	授業科目の目標に照らし、授業内容、授業方法を工夫するなど学習指導は充実しているか。		授業科目の目標に照らし授業内容、方法に工夫を入れ飽きさせない（画像、模型）	授業が単調にならないよう工夫を要する。	適宜に板書、図を用い実践的に進める。	
	職業実践教育の視点で、科目内容に応じ、講義・演習・実習等を適切に配分しているか。		適切に配分されている。	現状のまま実施する。	適宜に点検をしていく。	
	職業実践教育の視点で教育内容・教育方法・教材等について工夫しているか。		職業実践教育の視点では教育内容、方法ともなお改善点がある。	教科書を基準に進めるがそれだけでは足りず、	板書とともに図、フリントなどを用い工夫が必要。	
	単位制の学科において、履修科目の登録につい		適切な指導はなお十分とはいえない。	指導を適切に行う。	適切な指導を行っていく。	

	て適切な指導を行っているか。					
	授業科目について授業計画（シラバス・コマシラバス）を作成しているか。		授業科目につて授業計画は作成されている。	シラバス、コマシラバスとも計画通り振興しているか。	計画通りの進行か常に確認していく。	
	教育課程は、定期的に見直し、改定を行っているか。		教育課程の定期的な見直し改定は確立されていない。	定期的な見直しをどの時点で導入できるか。	適宜に実行できるようにする。	
				記載責任者　職・氏名	学科長　　桑　野　幸　仁	

２）柔道整復学科（夜間部）

小項目	チェック項目	評定	現状の取組状況	課　　題	今後の改善方策	参考資料
3-9-1 教育目的・目標に沿った教育課程を編成しているか。	教育課程を編成する体制は、規程等で明確にしているか。	3	教育課程編成委員会により、明確にしている。	委員会の意見や状況を現場の教員全ては把握していない。	現場の教員一人ひとりに文書化し周知徹底を図る。	教育課程編成委員会議事録 学生便覧 学則別表授業科目一覧 職業実践専門課程規定
	議事録を作成するなど教育課程の編成過程を明確にしているか。		議事録を作成し、明確にしている。	現場の教員全てには開示されていない。	現場の教員が、いつでも閲覧できるようにする。	
	授業科目の開設において、専門科目、一般科目を適切に配分しているか。		基礎分野・専門基礎分野・専門分野の３つの科目区分で適切に配分している。	なし。	なし。	
	授業科目の開設において、必修科目・選択科目を適切に配分しているか。		選択科目はない。	なし。	なし。	
	修了に係る授業時数、単位数を明示しているか。		学生便覧および授業科目一覧にて明示している。	なし。	なし。	
	授業科目の目標に照らし、適切な教育内容を提供しているか。		適切な教育内容を提供している。	年度毎しか見直しされていない。	半期毎に検証し、必要に応じて見直しを行う。	
	授業科目の目標に照らし、講義・演習・実習等、		講義・演習・実技・実習の４つの授業形態で適	年度毎しか見直されていない。	半期毎に検証し、必要に応じて見直しを行	

	適切な授業形態を選択しているか。		切に配分している。		う。	
	授業科目の目標に照らし、授業内容、授業方法を工夫するなど学習指導は充実しているか。		教科書以外に、模型や画像を用いて立体的に捉えられるよう工夫している。	模型の数が少なく、学生全てが触れて確認し理解を深めるのに時間がかかる。	模型や標本の数を増やすべく購入を検討する。	
	職業実践教育の視点で、科目内容に応じ、講義・演習・実習等を適切に配分しているか。		講義・演習・実技・実習の４つの授業形態で適切に配分している。	附属施術所の容量が限られており、学生一人当たりの実習時間が少ない。	時には、実技室を模様替えし、現場実習のシミュレーションができるようにする。	
	職業実践教育の視点で教育内容・教育方法・教材等について工夫しているか。		教科書以外に、模型や画像を用いて立体的に捉えられるよう工夫している。	模型の数が少なく、学生全てが触れて確認し理解を深めるのに時間がかかる。	模型や標本の数を増やすべく購入を検討する。	
	単位制の学科において、履修科目の登録について適切な指導を行っているか。		各年度での履修科目は決まっているし、年度初めに学生便覧で学生に周知している。	なし。	なし。	
	授業科目について授業計画（シラバス・コマシラバス）を作成しているか。		授業計画（シラバス）を作成している。	なし。	学生の理解度を確認し、必要に応じて項目の時数を検討し、再計画を立てる。	
	教育課程は、定期的に見直し、改定を行っているか。		年度毎に見直しを行っている。	年度毎しか見直されていない。	半期又は年度毎に検証し、必要に応じて見直し、改定を行う。	
				記載責任者　職・氏名	学科長　　桑　野　幸　仁	

３）鍼灸学科（昼間部）

小項目	チェック項目	評定	現状の取組状況	課　　題	今後の改善方策	参考資料
3-9-1 教育目的・目標に沿った教育課程を編成しているか。	教育課程を編成する体制は、規程等で明確にしているか。	2	理念に基づいて規程を明確している	なし	なし	学生便覧 シラバス
	議事録を作成するなど教育課程の編成過程を明確にしているか。		会議ごとに議事録を作成している。	なし	なし	

	授業科目の開設において、専門科目、一般科目を適切に配分しているか。		はり師・きゅう師学校養成施設指定規則に準じて行っている。	なし	なし	
	授業科目の開設において、必修科目・選択科目を適切に配分しているか。		全て必修科目であり、選択科目はない。	なし	なし	
	修了に係る授業時数、単位数を明示しているか。		学生便覧に記載されてある。	なし	なし	
	授業科目の目標に照らし、適切な教育内容を提供しているか。		到達レベルを設定し、教育内容を設定している。	業界のニーズに合っているかどうか。	業界の方に意見を賜る。	
	授業科目の目標に照らし、講義・演習・実習等、適切な授業形態を選択しているか。		到達レベルを設定し、教育内容を設定している。	業界のニーズに合っているかどうか。	業界の方に意見を賜る。	
	授業科目の目標に照らし、授業内容、授業方法を工夫するなど学習指導は充実しているか。		到達レベルを設定し、教育内容を設定している。	業界のニーズに合っているかどうか。	業界の方に意見を賜る。	
	職業実践教育の視点で、科目内容に応じ、講義・演習・実習等を適切に配分しているか。		定期的な会議にて意見を頂き、反映させようとしている。			
	職業実践教育の視点で教育内容・教育方法・教材等について工夫しているか。		定期的な会議にて意見を頂き、反映させようとしており、今年度は注目を浴びている美容鍼灸の先生をお招きした。	業界のニーズに合っているかどうか。	業界の方に意見を賜る。	
	単位制の学科において、履修科目の登録について適切な指導を行っているか。		行えている。			

	授業科目について授業計画（シラバス・コマシラバス）を作成しているか。		科目ごとにシラバスを作成している。	科目間の連携。	定期的に会議等を実施し、把握する。	
	教育課程は、定期的に見直し、改定を行っているか。		定期的に会議を行っている。	カリキュラムにどのように反映させるか。	来年度からカリキュラム変更に伴い、内容を加える。	
					学科長　　堀之内　貴　一	

４）スポーツ鍼灸学科

小項目	チェック項目	評定	現状の取組状況	課　　題	今後の改善方策	参考資料
3-9-1 教育目的・目標に沿った教育課程を編成しているか。	教育課程を編成する体制は、規程等で明確にしているか。	2	理念に基づいて規程を明確している	時勢にあったものか常に見定める必要がある	定期的な会議を通じて現状報告を行い、記録に残す	学生便覧 シラバス
	議事録を作成するなど教育課程の編成過程を明確にしているか。		定期的な会議を実施しカリキュラムに反映させようとしている	来年度からカリキュラム改正を行い、今後に反映させていく必要がある	定期的な会議を通じて現状報告を行い、記録に残す	
	授業科目の開設において、専門科目、一般科目を適切に配分しているか。		定期的な会議を実施しカリキュラムに反映させようとしている	来年度からカリキュラム改正を行い、今後に反映させていく必要がある	定期的な会議を通じて現状報告を行い、記録に残す	
	授業科目の開設において、必修科目・選択科目を適切に配分しているか。		定期的な会議を実施しカリキュラムに反映させようとしている	来年度からカリキュラム改正を行い、今後に反映させていく必要がある	定期的な会議を通じて現状報告を行い、記録に残す	
	修了に係る授業時数、単位数を明示しているか。		学生便覧に定めてある	入学前段階の個別対応で知る機会があるが効率が良くない	入学前段階で広く伝えられるような仕組みづくりを検討	
	授業科目の目標に照らし、適切な教育内容を提供しているか。		卒業時の到達レベルに目標をおいて教育内容の設定を行っている	教員が安定せずに浸透度合いの差がみられる。	定期的な会議、授業見学などを通じて浸透を図っていく	
	授業科目の目標に照らし、講義・演習・実習等、適切な授業形態を選択		卒業時の到達レベルに目標をおいて教育内容の設定を行っている	教員が安定せずに浸透度合いの差がみられる。	定期的な会議、授業見学などを通じて浸透を図っていく	

	しているか。					
	授業科目の目標に照らし、授業内容、授業方法を工夫するなど学習指導は充実しているか。		卒業時の到達レベルに目標をおいて教育内容の設定を行っている	教員が安定せずに浸透度合いの差がみられる。	定期的な会議、授業見学などを通じて浸透を図っていく	
	職業実践教育の視点で、科目内容に応じ、講義・演習・実習等を適切に配分しているか。		定期的な会議を実施しカリキュラムに反映させようとしている	来年度からカリキュラム改正を行い、今後に反映させていく必要がある	定期的な会議を通じて現状報告を行い、記録に残す	
	職業実践教育の視点で教育内容・教育方法・教材等について工夫しているか。		定期的な会議を実施しカリキュラムに反映させようとしている	来年度からカリキュラム改正を行い、今後に反映させていく必要がある	定期的な会議を通じて現状報告を行い、記録に残す	
	単位制の学科において、履修科目の登録について適切な指導を行っているか。		指導は行えている	未収得単位の勉強意欲だけになってしまい、全体の習熟度が低下している	全体の習熟度を上げるために個別面談を行う	
	授業科目について授業計画（シラバス・コマシラバス）を作成しているか。		全体のシラバス作成は年度初めに完成している	コマシラバスの作成を個々の教員に一任しており一貫していない	コマシラバスに関しては学科内会議によってどうするか検討する	
	教育課程は、定期的に見直し、改定を行っているか。		定期的な会議を実施しカリキュラムに反映させようとしている	来年度からカリキュラム改正を行い、今後に反映させていく必要がある	定期的な会議を通じて現状報告を行い、記録に残す	
				記載責任者　職・氏名	学科長　　松　波　　賢	

５）理学療法学科

小項目	チェック項目	評定	現状の取組状況	課　　題	今後の改善方策	参考資料
3-9-1 教育目的・目標に沿った教育課程を編成しているか。	教育課程を編成する体制は、規程等で明確にしているか。	3	会議等を行い、情報共有を図っている	議事録等の作成の充実を図る	議事録等の作成、管理を行う	
	議事録を作成するなど教育課程の編成過程を明確にしているか。		会議等を行い、情報共有を図っている	議事録等の作成の充実を図る	議事録等の作成、管理を行う	

	授業科目の開設において、専門科目、一般科目を適切に配分しているか。		基礎科目・専門基礎科目・専門科目に分配している	一般科目の時間数の充実を図る	倫理教育の授業実数を増やす	
	授業科目の開設において、必修科目・選択科目を適切に配分しているか。		全科目必須科目である	なし	なし	
	修了に係る授業時数、単位数を明示しているか。		授業シラバス明示している	授業時数の妥当性を向上する	基礎科目・専門基礎科目・専門科目における授業時数の見直しをおこなう	
	授業科目の目標に照らし、適切な教育内容を提供しているか。		授業シラバスに則って授業を実施している	教育内容の精度の確認を図る	授業評価を授業に反映する。	
	授業科目の目標に照らし、講義・演習・実習等、適切な授業形態を選択しているか。		授業シラバスに則って授業を実施している	教育内容の精度の確認を図る	授業評価を授業に反映する。	
	授業科目の目標に照らし、授業内容、授業方法を工夫するなど学習指導は充実しているか。		授業シラバスに則って授業を実施している	教育内容の精度の確認を図る	授業評価を授業に反映する。	
	職業実践教育の視点で、科目内容に応じ、講義・演習・実習等を適切に配分しているか。		授業シラバスに則って授業を実施している	教育内容の精度の確認を図る	授業における演習・実習等の時間数を見直す	
	職業実践教育の視点で教育内容・教育方法・教材等について工夫しているか。		授業シラバスに則って授業を実施している	教育内容の精度の確認を図る	授業評価を授業に反映する。	
	単位制の学科において、履修科目の登録について適切な指導を行っているか。		授業シラバスを配布して学生と供覧し説明している	学生の理解度の把握を図る	学生へ意識調査を行う	
	授業科目について授業		授業シラバスを作成し	学生の理解度の把握を	学生へ意識調査を行う	

	計画（シラバス・コマシラバス）を作成しているか。		ている	図る		
	教育課程は、定期的に見直し、改定を行っているか。		理学療法士作業療法士指定規則に則って校正をしている	教育課程の定期的な見直しを行う	指定規則に則り従業科目及び実数の見直しを行う	
				記載責任者　職・氏名	学科長補佐　永　野　　忍	

６）作業療法学科

小項目	チェック項目	評定	現状の取組状況	課　　題	今後の改善方策	参考資料
3-9-1 教育目的・目標に沿った教育課程を編成しているか。	教育課程を編成する体制は、規程等で明確にしているか。	3	学生便覧に教育課程を明示している。	指定規則カリキュラム改正に伴う、教育課程の再編成が課題である。	指定規則カリキュラム改正内容を学科内で共有し、教育目的・目標に沿った教育課程再編成の検討および協議を実施する。	・学生便覧 ・シラバス（平成 29 年度作業療法学科開講科目） ・教職員による授業参観アンケート用紙
	議事録を作成するなど教育課程の編成過程を明確にしているか。		教育課程編成に関する協議は学科会議にて行い、議事録を作成している。	教育課程編成委員会の開催に向けた計画立案が課題である。	教育課程編成委員会の開催に向けた詳細について定期的に検討する。	
	授業科目の開設において、専門科目、一般科目を適切に配分しているか。		指定規則に基づいて、基礎科目、専門基礎科目、専門科目の 3 分野に大別し、科目を配分している。	指定規則カリキュラム改正に伴う、教育課程の再編成が課題である。	指定規則カリキュラム改正内容を学科内で共有し、教育目的・目標に沿った教育課程再編成の検討および協議を実施する。	
	授業科目の開設において、必修科目・選択科目を適切に配分しているか。		指定規則に基づいて、必修科目を配分している。	現行の教育課程に選択科目を配分していないのが課題である。	指定規則カリキュラム改正内容を学科内で共有し、理念、教育目的・目標、職業実践教育の視点、到達レベルといった多様な観点から教育課程再編成の検討および協議を実施する。	
	修了に係る授業時数、		授業時数、単位数を科	指定規則カリキュラム	教育課程再編成の検討	

	単位数を明示しているか。		目ごとに教育課程に明示している。	改正に伴う、教育課程の再編成が課題である。	および協議において授業時数や単位数も考慮して実施する。	
	授業科目の目標に照らし、適切な教育内容を提供しているか。		授業科目ごとにシラバスを作成、開示している。また、教職員による授業参観および評価を実施している。	学生による授業評価、教職員による授業参観および評価が教育内容に反映されているかの定期的なモニタリングが未実施である。	学生および教職員による授業評価結果の共有化と教職員による授業参観および評価をモニタリングも含めて継続して実施する。	
	授業科目の目標に照らし、講義・演習・実習等、適切な授業形態を選択しているか。		カリキュラムポリシーおよび指定規則に基づいて、授業科目の授業形態を編成している。	学生による授業評価、教職員による授業参観および評価が適切な授業形態の選択に反映されているかの定期的なモニタリングが未実施である。	学生および教職員による授業評価結果の共有化と教職員による授業参観および評価をモニタリングも含めて継続して実施する。	
	授業科目の目標に照らし、授業内容、授業方法を工夫するなど学習指導は充実しているか。		教職員による授業参観および評価を実施し、授業科目担当教員が授業内容、方法の見直しと工夫を行っている。	学生による授業評価、教職員による授業参観および評価が適切な授業内容や方法の工夫に反映されているかの定期的なモニタリングが未実施である。	学生および教職員による授業評価結果の共有化と教職員による授業参観および評価をモニタリングも含めて継続して実施する。また、専任教員が教育研究・研修に携わる機会を充実させる。	
	職業実践教育の視点で、科目内容に応じ、講義・演習・実習等を適切に配分しているか。		カリキュラムポリシーおよび指定規則に基づいて、授業科目の授業形態を選択し編成している。	指定規則カリキュラム改正に伴う、教育課程の再編成が課題である。	指定規則カリキュラム改正内容を学科内で共有し、職業実践教育の視点で教育課程再編成の検討および協議を実施する。	
	職業実践教育の視点で教育内容・教育方法・教材等について工夫しているか。		国家試験と臨床技能の両者の観点から、教育内容や方法を学科会議等で検討している。	臨床現場等の作業療法士からの教育内容や教育方法に関する意見交換や情報の共有化を図る機会が乏しい。	臨床教育者会議等を通じて、臨床現場等の作業療法士からの教育内容や教育方法に関する意見や情報を収集す	

					る。	
	単位制の学科において、履修科目の登録について適切な指導を行っているか。		年度、学期ごとにオリエンテーションを実施し、開講科目の履修および試験に関する指導を行っている。	選択科目を配分した場合、履修登録システムの構築が必要である。	教育課程再編成に対する検討では、履修登録システムの構築も含めて協議する。	
	授業科目について授業計画（シラバス・コマシラバス）を作成しているか。		すべての授業科目において、担当教員がシラバスを作成している。	コマシラバスの作成は学科方針として統一されていない。	シラバス・コマシラバスの作成に関する情報収集と共有化を学科教員間で図る。	
	教育課程は、定期的に見直し、改定を行っているか。		学科会議等で教育課程に関する検討を定期的に行っている。	指定規則カリキュラム改正に対応した教育課程の再編成が課題である。	指定規則カリキュラム改正内容を学科内で共有し、教育課程再編成の検討および協議を実施する。	
				記載責任者　職・氏名	学科教員　　中　山　　仁	

7）看護学科

小項目	チェック項目	評定	現状の取組状況	課　　題	今後の改善方策	参考資料
3-9-1 教育目的・目標に沿った教育課程を編成しているか。	教育課程を編成する体制は、規程等で明確にしているか。	2	教育課程を編成する体制としては、教員の役割の中で明記されているが、規程はとしては、作成されていない。	教育課程を編成する体制を規程等で明確にする。	教育課程を編成するための委員を決定し、検討する。	
	議事録を作成するなど教育課程の編成過程を明確にしているか。		学科会議上の議事録では、教育課程に関する検討、作成等の議事録はあるが、編成過程は議事録等で明確になっていない。	教育課程の編成過程の議事録を作成する。	教育課程の編成に関する会議を定期的に開催し、議事録作成を図る。	
	授業科目の開設において、専門科目、一般科目を適切に配分しているか。		指定規則に基づいて配分している。	科目の進路を検討する。	各科目の担当者の定期的な検討会を設け、改善を図る。	
	授業科目の開設におい		科目はすべて必修科目	選択科目が開設されて	科目の進度を検討し、	

	て、必修科目・選択科目を適切に配分しているか。		であり、選択科目がない。	いない。	改善する。	
	修了に係る授業時数、単位数を明示しているか。		している。	なし	なし	
	授業科目の目標に照らし、適切な教育内容を提供しているか。		提示している。	適切な教育内容かどうか明らかにする。	1 コマごとの内容について、適切かどうかの評価を考える。	
	授業科目の目標に照らし、講義・演習・実習等、適切な授業形態を選択しているか。		選択している。	講義・演習・実習の関連性を明らかにする。	各領域について、講義・演習・実習のマトリックスを作成する。	
	授業科目の目標に照らし、授業内容、授業方法を工夫するなど学習指導は充実しているか。		学習指導は充実していない。	新人の教員に対する指導を行う。	授業の狙い、目標、教育内容について、検討会を定期的に行う。	
	職業実践教育の視点で、科目内容に応じ、講義・演習・実習等を適切に配分しているか。		配分している。	当校の学生に応じた時間配分を検討する。	科目担当者が、講義・演習・実習の教育内容を精選し、決定する。	
	職業実践教育の視点で教育内容・教育方法・教材等について工夫しているか。		一応工夫はしているが、不十分である。	教育内容・方法・教材について、定期的に改善する。	教育内容・方法・教材について、定期的に評価する。	
	単位制の学科において、履修科目の登録について適切な指導を行っているか。		履修科目の説明はしている。	単位の取れていない科目について、早期に知らせる。	履修科目の評価を早期に返却する。	
	授業科目について授業計画（シラバス・コマシラバス）を作成しているか。		シラバスを作成している。	シラバスの教育内容が改善する。	単元ごとの教育内容を一コマごとの教育内容に変更する。	
	教育課程は、定期的に見直し、改定を行っているか。		開校して2年目であり、見直しは行っているが、改定はできない。	なし	なし	

	記載責任者　職・氏名	学科長　　村　山　由起子

８）歯科衛生学科

小項目	チェック項目	評定	現状の取組状況	課　　題	今後の改善方策	参考資料
3-9-1 教育目的・目標に沿った教育課程を編成しているか。	教育課程を編成する体制は、規程等で明確にしているか。	4	特になし	特になし	特になし	特になし
	議事録を作成するなど教育課程の編成過程を明確にしているか。		特になし	特になし	特になし	
	授業科目の開設において、専門科目、一般科目を適切に配分しているか。		特になし	特になし	特になし	
	授業科目の開設において、必修科目・選択科目を適切に配分しているか。		特になし	特になし	特になし	
	修了に係る授業時数、単位数を明示しているか。		特になし	特になし	特になし	
	授業科目の目標に照らし、適切な教育内容を提供しているか。		特になし	特になし	特になし	
	授業科目の目標に照らし、講義・演習・実習等、適切な授業形態を選択しているか。		特になし	特になし	特になし	
	授業科目の目標に照らし、授業内容、授業方法を工夫するなど学習指導は充実しているか。		特になし	特になし	特になし	
	職業実践教育の視点で、科目内容に応じ、講義・演習・実習等を適切に配		特になし	特になし	特になし	

	分しているか。					
	職業実践教育の視点で教育内容・教育方法・教材等について工夫しているか。		特になし	特になし	特になし	
	単位制の学科において、履修科目の登録について適切な指導を行っているか。		特になし	特になし	特になし	
	授業科目について授業計画（シラバス・コマシラバス）を作成しているか。		特になし	特になし	特になし	
	教育課程は、定期的に見直し、改定を行っているか。		特になし	特になし	特になし	
				記載責任者　職・氏名	学科長　　藤　　幸　枝	

９）生涯スポーツトレーナー介護福祉学科						
小項目	チェック項目	評定	現状の取組状況	課　　題	今後の改善方策	参考資料
3-9-1 教育目的・目標に沿った教育課程を編成しているか。	教育課程を編成する体制は、規程等で明確にしているか。	3	開設年度であるので、教育課程を編成する体制はまだ設置されていない。	完成年度以降の教育課程を編成する体制の整備が課題である。	教育課程編成を検討する組織を立ち上げる。	学生便覧
	議事録を作成するなど教育課程の編成過程を明確にしているか。		学科における検討課題については、学科会議の議事録に記載している。	開設年度であるので特になし	完成年度以降の改正を目指して、科目や時間数などの検討をしている。	
	授業科目の開設において、専門科目、一般科目を適切に配分しているか。		指定養成施設の基準に則って、科目は全てを専門科目として設置している。	指定科目以外も専門科目として配置している。	指定科目とそれ以外の科目を分けて配置する。	
	授業科目の開設において、必修科目・選択科目を適切に配分している		現状では選択科目を配置しておらず、すべて必修科目となってい	専門科目だけで専門性が担保できるか。	専門科目を補強する選択科目の設置を検討する。	

	か。		る。			
	修了に係る授業時数、単位数を明示しているか。		学則として学生便覧に明示している。	学生への周知徹底が課題である。	オリエンテーションやガイダンスを複数回実施するなどして学生の理解を深める。	
	授業科目の目標に照らし、適切な教育内容を提供しているか。		授業計画を立てて授業を行うようにしているが教員によって差がある。	教員の力量を高める。	公開授業を行うなど、授業方法を工夫する。また研修するなど専門性を高める。	
	授業科目の目標に照らし、講義・演習・実習等、適切な授業形態を選択しているか。		授業形態の選択をしている。	留学生が多いために科目によっては演習などが困難な場合がある。	授業形態と時間数を検討する。	
	授業科目の目標に照らし、授業内容、授業方法を工夫するなど学習指導は充実しているか。		留学生に対応するために授業については、各教員が様々な工夫をして試行錯誤している。	教育経験の有無によって、授業内容や方法の工夫に差がある。	各教員の工夫や方法を共有する。又外部の研修システムを活用する。	
	職業実践教育の視点で、科目内容に応じ、講義・演習・実習等を適切に配分しているか。		指定規則に則って、講義・演習・実習等の配分をしている。	留学生への教授という観点から目標達成が課題	留学生への教授という観点から方法内容を検討する。	
	職業実践教育の視点で教育内容・教育方法・教材等について工夫しているか。		先行的な取り組みを体験したり、実践現場を知るなど体験的な授業を積極的に取り入れている。	体験的授業は効果が期待できるが、実施時間の確保が難しい。	職業実践につながる施設職員や利用者との交流や視聴覚機材の活用を図る。	
	単位制の学科において、履修科目の登録について適切な指導を行っているか。		単位制をとっているが開設科目はすべて必修なので、登録制度はとっていない。	現行では履修登録制ではないので、指導上の課題はない。	今後教育課程の見直しによって選択科目を設定することになれば指導体制を整える。	
	授業科目について授業計画（シラバス・コマシラバス）を作成しているか。		シラバスは作成しているがコマシラバスは教員によって異なる。	留学生への配慮が必要なために、シラバス通りに進まない。	実情を踏まえた対応を総合的に検討する。	
	教育課程は、定期的に見直し、改定を行っている		開設年度であるために完成年度以降でなけれ	なし	なし	

	か。		ば改定はできない。			
				記載責任者　職・氏名	学科長　　井　上　由紀子	

10）アスレティックリハビリテーション・スポーツトレーナー学科						
小項目	チェック項目	評定	現状の取組状況	課　　題	今後の改善方策	参考資料
3-9-1 教育目的・目標に沿った教育課程を編成しているか。	教育課程を編成する体制は、規程等で明確にしているか。	2	学生便覧に記載されている。	特になし。	特になし。	学生便覧 教育課程編成委員会議事録
	議事録を作成するなど教育課程の編成過程を明確にしているか。		議事録の作成は行っている。	教育課程編成委員会との連携が必要である。	特になし。	
	授業科目の開設において、専門科目、一般科目を適切に配分しているか。		指導者となる基礎知識、専門的知識を習得できるカリキュラムとなっている。	資格取得に必要なカリキュラムをもとに配分されている。	特になし。	
	授業科目の開設において、必修科目・選択科目を適切に配分しているか。		本学科では、すべて必修科目となっている。	特になし。	特になし。	
	修了に係る授業時数、単位数を明示しているか。		単位数以外については、明示されていない。	学生への周知徹底が不十分である。	学生に対し、シラバス配布をしていく。	
	授業科目の目標に照らし、適切な教育内容を提供しているか。		資格取得に定められた授業科目を実施している。	特になし	特になし	
	授業科目の目標に照らし、講義・演習・実習等、適切な授業形態を選択しているか。		資格取得の要件に合わせた、授業形態を実施している。	特になし	特になし	
	授業科目の目標に照らし、授業内容、授業方法を工夫するなど学習指導は充実しているか。		資格取得を目指した授業運営を実施している。	学生の習熟度の差を埋めていかなければならない。	学生に能力・特性に応じた指導方法の検討をする必要がある。	
	職業実践教育の視点で、科目内容に応じ、講義・		資格取得に偏っている授業形態を採用してい	実習では、人に指導する時間が不足している	教育編成会議委員会からの指摘を反映させ、	

	演習・実習等を適切に配分しているか。		る。	と考える。	カリキュラムの見直しが必要となる。	
	職業実践教育の視点で教育内容・教育方法・教材等について工夫しているか。		資格取得に偏っている教授方法を採用している。	指導者になるべき経験が不足している。	学生らの模擬指導をしていく機会を設けるカリキュラムの作成が必要となる。	
	単位制の学科において、履修科目の登録について適切な指導を行っているか。		本学科は単位制を採用していない。	特になし	特になし	
	授業科目について授業計画（シラバス・コマシラバス）を作成しているか。		シラバスは作成している。	各科目間との連携を図る必要がある	科目コーディネーター制度を採用していく。	
	教育課程は、定期的に見直し、改定を行っているか。		年度末に教育課程の見直しは実施している。	外部団体との連携を図ることが必要である。	教育課程編成委員会との連携を図る。	
				記載責任者　職・氏名	学科長　　寺　本　敦　司	

11）整体セラピスト学科

小項目	チェック項目	評定	現状の取組状況	課　　題	今後の改善方策	参考資料
3-9-1 教育目的・目標に沿った教育課程を編成しているか。	教育課程を編成する体制は、規程等で明確にしているか。	3	なし	なし	なし	なし
	議事録を作成するなど教育課程の編成過程を明確にしているか。		なし	なし	なし	
	授業科目の開設において、専門科目、一般科目を適切に配分しているか。		配分している	なし	なし	
	授業科目の開設において、必修科目・選択科目を適切に配分しているか。		全て必修であり、選択科目はない	なし	なし	

	修了に係る授業時数、単位数を明示しているか。		学生便覧で明示している	なし	なし	
	授業科目の目標に照らし、適切な教育内容を提供しているか。		しているが、改善は必要と思われる	時代のニーズに合ったものを提供する	担当教員との密な報連相	
	授業科目の目標に照らし、講義・演習・実習等、適切な授業形態を選択しているか。		課外活動での実習を行っている	なし	なし	
	授業科目の目標に照らし、授業内容、授業方法を工夫するなど学習指導は充実しているか。		充実しているが、改善は必要と思われる	沢山の手技を同時に学ぶため、日々の反復の練習とそのチェック体制	担当教員との密な報連相	
	職業実践教育の視点で、科目内容に応じ、講義・演習・実習等を適切に配分しているか。		配分している	なし	なし	
	職業実践教育の視点で教育内容・教育方法・教材等について工夫しているか。		教育内容には改善が必要と思われる	技術を増やすことで、「ありがとう」と言われる経験を積む	課外実習の場で、それぞれが考え、チームとして行動できるよう工夫する	
	単位制の学科において、履修科目の登録について適切な指導を行っているか。		行っている	なし	なし	
	授業科目について授業計画（シラバス・コマシラバス）を作成しているか。		作成している	なし	なし	
	教育課程は、定期的に見直し、改定を行っているか。		行っている	なし	なし	
				記載責任者　職・氏名	学科長　　蓑　田　のり子	

12）日本語学科						
小項目	チェック項目	評定	現状の取組状況	課　　題	今後の改善方策	参考資料
3-9-1 教育目的・目標に沿った教育課程を編成しているか。	教育課程を編成する体制は、規程等で明確にしているか。	3	カリキュラムを作成している。	なし	なし	なし
	議事録を作成するなど教育課程の編成過程を明確にしているか。		議事録は作成していない。	話し合いによって作成していたので記録がない。	今後、議事録を作成する。	
	授業科目の開設において、専門科目、一般科目を適切に配分しているか。		該当しない			
	授業科目の開設において、必修科目・選択科目を適切に配分しているか。		該当しない			
	修了に係る授業時数、単位数を明示しているか。		該しない			
	授業科目の目標に照らし、適切な教育内容を提供しているか。		カリキュラムに従い、教育内容を提供している。	なし	なし	
	授業科目の目標に照らし、講義・演習・実習等、適切な授業形態を選択しているか。		該当しない			
	授業科目の目標に照らし、授業内容、授業方法を工夫するなど学習指導は充実しているか。		目標達成にふさわしい授業方法を考え実践している。	学習者によって能力差が大きいので目標設定どおりにいかないことが多い。	学習者に応じた対応がとれるよう更に細かい対応が必要。	
	職業実践教育の視点で、科目内容に応じ、講義・演習・実習等を適切に配分しているか。		該当しない			
	職業実践教育の視点で教育内容・教育方法・教		該当しない			

	材等について工夫しているか。					
	単位制の学科において、履修科目の登録について適切な指導を行っているか。		該当しない			
	授業科目について授業計画（シラバス・コマシラバス）を作成しているか。		科目ごとに進度表を作成し、適時見直している。	なし	なし	
	教育課程は、定期的に見直し、改定を行っているか。		半期ごとに見直しを行っている。	なし	なし	
				記載責任者　職・氏名	学科長　　阿　野　由利子	

３－９－２

１）柔道整復学科（昼間部）

小項目	チェック項目	評定	現状の取組状況	課　　題	今後の改善方策	参考資料
3-9-2 教育課程について外部の意見を反映しているか。	教育課程の編成及び改定において、在校生・卒業生の意見聴取や評価を行っているか。	1	教育課程の編成において、在校生、卒業生の意見聴取は行っていない。	在校生、卒業生の意見が必要か。	意見聴取が必要か検討する。	教育課程編成委員会議事録
	教育課程の編成及び改定において、関連する業界・機関等の意見聴取や評価を行っているか。		教育編成会議において評価は行っている。	なし	現状で実施する。	
	職業実践教育の効果について、卒業生・就職先等の意見聴取や評価を行っているか。		評価は行っている。	なし	現状で実施する。	
				記載責任者　職・氏名	学科長　　桑　野　幸　仁	

２）柔道整復学科（夜間部）						
小項目	チェック項目	評定	現状の取組状況	課　　題	今後の改善方策	参考資料
3-9-2 教育課程について外部の意見を反映しているか。	教育課程の編成及び改定において、在校生・卒業生の意見聴取や評価を行っているか。	1	外部の者による教育課程編成委員会を設置し、在校、卒業生の意見聴取を行っている。	なし。	なし。	教育課程編成委員会議事録
	教育課程の編成及び改定において、関連する業界・機関等の意見聴取や評価を行っているか。		外部の者による教育課程編成委員会を設置し、意見聴取および評価を行っている。	なし。	なし。	
	職業実践教育の効果について、卒業生・就職先等の意見聴取や評価を行っているか。		行なっていない。	その効果の検証が行われていない。	卒業生の就職先に意見聴取を行い、効果を客観的評価に基づいて行う。	
				記載責任者　職・氏名	学科長　　桑　野　幸　仁	

３）鍼灸学科（昼間部）						
小項目	チェック項目	評定	現状の取組状況	課　　題	今後の改善方策	参考資料
3-9-2 教育課程について外部の意見を反映しているか。	教育課程の編成及び改定において、在校生・卒業生の意見聴取や評価を行っているか。	3	年 1 回授業評価アンケートを実施している。	教員の総合評価であり、科目別にできていない。	アンケート用紙を授業ごとに変更する。	
	教育課程の編成及び改定において、関連する業界・機関等の意見聴取や評価を行っているか。		定期的な会議を実施し業界・機関等との意見交換などを行っている	来年度以降のカリキュラムにどう反映させるか。	会議を通じ、意見交換を行う。	
	職業実践教育の効果について、卒業生・就職先等の意見聴取や評価を行っているか。		卒業生の就職先を聴くだけにとどまっている	意見を聞く場所を設ける	企業説明会の際に就職した卒業生の話を聴く	
				記載責任者　職・氏名	学科長　　堀之内　貴　一	

４）スポーツ鍼灸学科

小項目	チェック項目	評定	現状の取組状況	課　　題	今後の改善方策	参考資料
3-9-2 教育課程について外部の意見を反映しているか。	教育課程の編成及び改定において、在校生・卒業生の意見聴取や評価を行っているか。	2	授業アンケートを実施している	総合で判断しているため個々の授業評価がわからない	在校生だけになっており、同窓会なども通じて卒業生を意見も聴取する	授業アンケート
	教育課程の編成及び改定において、関連する業界・機関等の意見聴取や評価を行っているか。		定期的な会議を実施し業界・機関等の意見聴取を行っている	来年度からカリキュラム改正を行い、今後に反映させていく必要がある	定期的な会議を通じて現状報告を行い、記録に残す	
	職業実践教育の効果について、卒業生・就職先等の意見聴取や評価を行っているか。		卒業生の就職先を聴くだけにとどまっている	意見を聞く場所を設ける	企業説明会の際に就職した卒業生の話を聴く	
				記載責任者　職・氏名	学科長　　松　波　　賢	

５）理学療法学科

小項目	チェック項目	評定	現状の取組状況	課　　題	今後の改善方策	参考資料
3-9-2 教育課程について外部の意見を反映しているか。	教育課程の編成及び改定において、在校生・卒業生の意見聴取や評価を行っているか。	2	行っていない	教育課程の編成及び改定において、在校生・卒業生の意見聴取や評価を行う	卒業生への意見聴取を行う	
	教育課程の編成及び改定において、関連する業界・機関等の意見聴取や評価を行っているか。		教育課程編成委員会にて意見聴取や評価を行っている	教育課程編成委員会にて意見聴取や評価を反映する	教育課程編成委員会にて意見聴取や評価をもとに教育課程を見直す	
	職業実践教育の効果について、卒業生・就職先等の意見聴取や評価を行っているか。		卒業生より意見聴取を行っている	臨床実習における教育の充実	臨床実習指導者会議において指導者との連携を図る	
				記載責任者　職・氏名	学科長補佐　永　野　　忍	

６）作業療法学科

小項目	チェック項目	評定	現状の取組状況	課　　題	今後の改善方策	参考資料

3-9-2 教育課程について外部の意見を反映しているか。	教育課程の編成及び改定において、在校生・卒業生の意見聴取や評価を行っているか。	2	在校生による授業評価、教職員による授業参観・評価を行っている。	授業評価等の結果を踏まえた教育課程再編成に関する協議の場が不足している。	授業評価等の結果をもとに教育課程編成について協議する。	
	教育課程の編成及び改定において、関連する業界・機関等の意見聴取や評価を行っているか。		非公式ではあるが、学科設置申請時において外部（協会、臨床現場の作業療法士等）からの意見を聴取し、教育課程を編成した。 本校理学療法学科での教育課程の取り組みや資料を参考に、作業療法学科での編成や改訂を実施。また、教員の取り組みを評価する授業参観のような形で、実践方法についてのアンケートや直接フィードバックする機会を設けている。	外部（協会、臨床現場の作業療法士等）からの意見聴取、情報収集を行う公式な場の未設定。 教員に対する授業参観は、定期的な取り組みとして未確立なため、OT 学科以外の方から意見を集約し、今後のカリキュラムに反映することが必要。	教育課程編成委員会開催に向けた計画立案を協議する。また、臨床教育者会議では臨床実習施設からの意見や情報収集を行えるよう会議内容の計画立案を行う。	
	職業実践教育の効果について、卒業生・就職先等の意見聴取や評価を行っているか。		医療保健福祉機関からの求人に関する対応を通して、求められている作業療法士像の情報を収集している。	完成年度を迎えていないため、卒業生および就職先等の対象が存在しない。	卒業生輩出後の職業実践教育の効果についての意見聴取や評価のための情報収集等の具体的な方法論について検討し、計画立案する。	
				記載責任者　職・氏名	学科教員　　中　山　　仁	

7）看護学科						
小項目	チェック項目	評定	現状の取組状況	課　　題	今後の改善方策	参考資料
3-9-2 教育課程について外部の意見を反映しているか。	教育課程の編成及び改定において、在校生・卒業生の意見聴取や評価を行っているか。	1	開校して2年目であり、卒業生はまだ出ていない。在校生については、行っていない。	来年度で、3か年が揃うことから、31年度に向けて、教育課程の編成及び改定に対する意見	31年度に向けて、教育課程の編成及び改定に対する意見聴取や評価の項目を検討し、原案	シラバス

				聴取や評価をできるように準備する。	を作成する。	
	教育課程の編成及び改定において、関連する業界・機関等の意見聴取や評価を行っているか。		行っていない。	教育課程の編成及び改定において、関連する業界・機関等の意見聴取や評価ができるように準備する。		
	職業実践教育の効果について、卒業生・就職先等の意見聴取や評価を行っているか。		卒業生が出ていないので、意見聴取や評価はできない。	意見聴取や評価が行えるように準備する。		
				記載責任者　職・氏名	学科長　　村　山　由起子	

８）歯科衛生学科

小項目	チェック項目	評定	現状の取組状況	課　　題	今後の改善方策	参考資料
3-9-2 教育課程について外部の意見を反映しているか。	教育課程の編成及び改定において、在校生・卒業生の意見聴取や評価を行っているか。	4	在校生の面談により意見を聴取している 卒業生はまだ輩出していない	特になし	特になし	特になし
	教育課程の編成及び改定において、関連する業界・機関等の意見聴取や評価を行っているか。		九州地区で行われる会議に参加して意見を聴取している	評価を行うようにする	評価まで行う	
	職業実践教育の効果について、卒業生・就職先等の意見聴取や評価を行っているか。		卒業生を輩出していない	特になし	特になし	
				記載責任者　職・氏名	学科長　　藤　　幸　枝	

９）生涯スポーツトレーナー介護福祉学科

小項目	チェック項目	評定	現状の取組状況	課　　題	今後の改善方策	参考資料
3-9-2 教育課程について外部	教育課程の編成及び改定において、在校生・卒	3	開設年度であるために卒業生はいないが、在	完成年度以降でなければ教育課程の改定はで	完成年度以降の改訂にあたって聞き取った意	特になし

の意見を反映しているか。	業生の意見聴取や評価を行っているか。		校生の意見聞き取りは行っている。	きない。	見を反映させる。	
	教育課程の編成及び改定において、関連する業界・機関等の意見聴取や評価を行っているか。		開設年度であるため改定はできないが職能団体や学会等の意見を収集している。	完成年度を過ぎるまで改訂できない。	改訂にあたっては職能団体や業界団体、学会等から聞き取った意見を踏まえて実施する。	
	職業実践教育の効果について、卒業生・就職先等の意見聴取や評価を行っているか。		開設年度であるため卒業生を輩出していない。	特になし	特になし	
				記載責任者　職・氏名	学科長　　井　上　由紀子	

10）アスレティックリハビリテーション・スポーツトレーナー学科

小項目	チェック項目	評定	現状の取組状況	課　　題	今後の改善方策	参考資料
3-9-2 教育課程について外部の意見を反映しているか。	教育課程の編成及び改定において、在校生・卒業生の意見聴取や評価を行っているか。	3	学校関係者評価委員会が実施されている。	意見聴取、評価を速やかに反映させていくシステムの作成	卒業生との情報交換会などの運営を検討していく。	教育課程編成委員会議議事録 学校関係者評価委員会
	教育課程の編成及び改定において、関連する業界・機関等の意見聴取や評価を行っているか。		教育課程編成委員から意見聴取、評価をおこなっている。	意見聴取、評価を速やかに反映させていくシステムの作成	幅広い業界団体からの意見を取り入れていく。	
	職業実践教育の効果について、卒業生・就職先等の意見聴取や評価を行っているか。		卒業生への意見聴取に関しては、実施している。	特定の卒業生に限定されている。	特定の卒業生に偏らない意見聴取が必要である。	
				記載責任者　職・氏名	学科長　　寺　本　敦　司	

11）整体セラピスト学科

小項目	チェック項目	評定	現状の取組状況	課　　題	今後の改善方策	参考資料
3-9-2 教育課程について外部の意見を反映している	教育課程の編成及び改定において、在校生・卒業生の意見聴取や評価	3	行っている	なし	なし	なし

か。	を行っているか。					
	教育課程の編成及び改定において、関連する業界・機関等の意見聴取や評価を行っているか。		行っている	なし	なし	
	職業実践教育の効果について、卒業生・就職先等の意見聴取や評価を行っているか。		行っている	なし	なし	
				記載責任者　職・氏名	学科長　　蓑　田　のり子	

12）日本語学科

小項目	チェック項目	評定	現状の取組状況	課　　題	今後の改善方策	参考資料
3-9-2 教育課程について外部の意見を反映しているか。	教育課程の編成及び改定において、在校生・卒業生の意見聴取や評価を行っているか。	－	該当しない			
	教育課程の編成及び改定において、関連する業界・機関等の意見聴取や評価を行っているか。		該当しない			
	職業実践教育の効果について、卒業生・就職先等の意見聴取や評価を行っているか。		該当しない			
				記載責任者　職・氏名	学科長　　阿　野　由利子	

３－９－３

１）柔道整復学科（昼間部）

小項目	チェック項目	評定	現状の取組状況	課　　題	今後の改善方策	参考資料
3-9-3	キャリア教育の実施に	2	定まっていない	キャリア教育をどのよ	実技の中でキャリア教	

キャリア教育を実施しているか。	あたって、意義・指導方法等に関する方針を定めているか。			うに行うか。	育を行うようにする。	
	キャリア教育を行うための教育内容・教育方法・教材等について工夫しているか。		キャリア教育（職業―）については実技を通して人間としての対応力を養うようにしている。	特になし	実技の中でキャリア教育の実践力を養うという方向が最も適している。	
	キャリア教育の効果について、卒業生・就職先等の意見聴取や評価を行っているか。		教育の効果につて卒業生に意見聴取を行っていない。	特になし	特になし	
				記載責任者　職・氏名	学科長　　桑　野　幸　仁	

２）柔道整復学科（夜間部）

小項目	チェック項目	評定	現状の取組状況	課　　題	今後の改善方策	参考資料
3-9-3 キャリア教育を実施しているか。	キャリア教育の実施にあたって、意義・指導方法等に関する方針を定めているか。	2	定めていない。	キャリア教育ができていない。	キャリア教育の実施に向け、指導方針を作成することを検討する。	臨床実習講義記録
	キャリア教育を行うための教育内容・教育方法・教材等について工夫しているか。		附属施術所での臨床実習を通して、卒業後に現場で即実践できるよう指導している。	なし。	なし。	
	キャリア教育の効果について、卒業生・就職先等の意見聴取や評価を行っているか。		行なっていない。	その効果の検証が行われていない。	卒業生の就職先に意見聴取を行い、効果を客観的評価に基づいて行う。	
				記載責任者　職・氏名	学科長　　桑　野　幸　仁	

３）鍼灸学科（昼間部）

小項目	チェック項目	評定	現状の取組状況	課　　題	今後の改善方策	参考資料
3-9-3 キャリア教育を実施し	キャリア教育の実施にあたって、意義・指導方	1	していない	方針を定める。	会議等を実施。	

ているか。	法等に関する方針を定めているか。					
	キャリア教育を行うための教育内容・教育方法･教材等について工夫しているか。		今年度は業界のニーズも高い、美容鍼灸の先生をお招きし、授業を実施。	業界のニーズに合っているか。	業界の方に意見を賜る。	
	キャリア教育の効果について、卒業生・就職先等の意見聴取や評価を行っているか。		していない	意見を聴取する場などがない。	意見聴取できる場を設ける。	
				記載責任者　職・氏名	学科長　　堀之内　貴　一	

4）スポーツ鍼灸学科						
小項目	チェック項目	評定	現状の取組状況	課　　題	今後の改善方策	参考資料
3-9-3 キャリア教育を実施しているか。	キャリア教育の実施にあたって、意義・指導方法等に関する方針を定めているか。	1	働く人などが通いやすいように最低限の単位で行っているのでキャリア教育はカリキュラム以外のセミナーで実施している	来年度からカリキュラム改正を行い、今後に反映させていく必要がある	定期的な会議を通じて現状報告を行い、記録に残す	シラバス
	キャリア教育を行うための教育内容・教育方法･教材等について工夫しているか。		働く人などが通いやすいように最低限の単位で行っているのでキャリア教育はカリキュラム以外のセミナーで実施している	来年度からカリキュラム改正を行い、今後に反映させていく必要がある	定期的な会議を通じて現状報告を行い、記録に残す	
	キャリア教育の効果について、卒業生・就職先等の意見聴取や評価を行っているか。		卒業生は今年度輩出	今後卒業生と連絡を取っていく必要がある	どういった方法や内容で連絡をとってつなげていくか検討	
				記載責任者　職・氏名	学科長　　松　波　　賢	

5）理学療法学科

小項目	チェック項目	評定	現状の取組状況	課　　題	今後の改善方策	参考資料
3-9-3 キャリア教育を実施しているか。	キャリア教育の実施にあたって、意義・指導方法等に関する方針を定めているか。	3	本学科におけるキャリア教育とは臨床実習がそれに該当する．この実習にあたっては実習開始前に臨床実習指導者らと臨床実習指導者会議を通して，実習の意義や指導方法等を協議している．	本学科が提唱する臨床参加型実習の徹底を図る	臨床実習指導者会議を利用して臨床参加型実習の実践報告会を積み重ね，全臨床実習先に導入してもらう．	臨床実習指導要綱 臨床経験報告書 臨床経験チェックシート
	キャリア教育を行うための教育内容・教育方法･教材等について工夫しているか。		授業シラバスに則って授業を実施しており，特に臨床経験チェックシートを使って，教育内容や指導方法などを把握している	教育内容の精度の確認を図り，次の実習先への伝達を徹底する．	教員側で臨床経験チェックシートの内容を確実に確認し，必要に応じて次の実習指導者へ伝達する．	
	キャリア教育の効果について、卒業生・就職先等の意見聴取や評価を行っているか。		学生及び臨床実習指導者より意見聴取を行っている．	教育効果に疑問を感じる事柄の一掃を協議しなければならない．	実習先への教員訪問や臨床実習指導者会議において課題解決を図る．	
				記載責任者　職・氏名	学科長補佐　永　野　　忍	

６）作業療法学科

小項目	チェック項目	評定	現状の取組状況	課　　題	今後の改善方策	参考資料
3-9-3 キャリア教育を実施しているか。	キャリア教育の実施にあたって、意義・指導方法等に関する方針を定めているか。	2	カリキュラム・ディプロマポリシーに基づいて、キャリア教育に該当する授業科目を編成している。	キャリア教育の意義、指導方法等に関する学科内における情報の共有化および知識水準。	カリキュラム・ディプロマポリシーに基づいた教育課程とキャリア教育の関連性および意義、指導方針等について学科会議等を通して情報共有化を図る。	
	キャリア教育を行うための教育内容・教育方法･教材等について工夫		授業科目「医療コミュニケーション学」を１年次に開講し、コミュニ	学科専任教員のキャリア教育に関連する知識、技能の水準。	専任教員がキャリア教育に関する研修を受ける機会の設定や充実を	

	しているか。		ケーションとマナーに関する教育を実践している。		図る。	
	キャリア教育の効果について、卒業生・就職先等の意見聴取や評価を行っているか。		完成年度を迎えていないため、卒業生・就職先等の意見聴取や評価は行っていない。	キャリア教育の効果の指標、検討方法について現状では計画されていない。	キャリア教育の効果検証のための情報収集および分析についての計画立案を協議する。	
				記載責任者　職・氏名	学科教員　　中　山　　仁	

7）看護学科						
小項目	チェック項目	評定	現状の取組状況	課　　題	今後の改善方策	参考資料
3-9-3 キャリア教育を実施しているか。	キャリア教育の実施にあたって、意義・指導方法等に関する方針を定めているか。	1	キャリア教育の実施の一環として、3 年生には、ゼミ制度を設け、2 名の教員で、10～11 名の学生に対する指導の充実を図れるように計画している。	キャリア教育の実施にあたって、意義・指導方法等に関する方針を検討する。	キャリア教育の実施にあたって、意義・指導方法等に関する方針について、不十分なため、具体的に定める。	看護学科シラバス
	キャリア教育を行うための教育内容・教育方法・教材等について工夫しているか。		各教員の専門性を活かして、視覚教材等を活用し、わかりやすい授業ができるように工夫を図っている。	教育内容・教育方法・教材等について、客観的に評価できるようにする。	教員の授業に対して、学科内・学内等の他者評価を受ける。	
	キャリア教育の効果について、卒業生・就職先等の意見聴取や評価を行っているか。		卒業生が出ていないので、意見聴取や評価はできない。	キャリア教育の効果について、卒業生・就職先等の意見聴取や評価ができるように準備する。		
				記載責任者　職・氏名	学科長　　村　山　由起子	

8）歯科衛生学科						
小項目	チェック項目	評定	現状の取組状況	課　　題	今後の改善方策	参考資料
3-9-3	キャリア教育の実施に	3	特になし	特になし	特になし	特になし

キャリア教育を実施しているか。	あたって、意義・指導方法等に関する方針を定めているか。					
	キャリア教育を行うための教育内容・教育方法・教材等について工夫しているか。		特になし	特になし	特になし	
	キャリア教育の効果について、卒業生・就職先等の意見聴取や評価を行っているか。		卒業生を輩出していない	特になし	特になし	
				記載責任者　職・氏名	学科長　　藤　　幸　枝	

９）生涯スポーツトレーナー介護福祉学科						
小項目	チェック項目	評定	現状の取組状況	課　　題	今後の改善方策	参考資料
3-9-3 キャリア教育を実施しているか。	キャリア教育の実施にあたって、意義・指導方法等に関する方針を定めているか。	4	開設年度であるため現在実施していない。	特になし	特になし	特になし
	キャリア教育を行うための教育内容・教育方法・教材等について工夫しているか。		開設年度であるため現在は実施していない。	特になし	特になし	
	キャリア教育の効果について、卒業生・就職先等の意見聴取や評価を行っているか。		卒業生を輩出していない。	特になし	特になし	
				記載責任者　職・氏名	学科長　　井　上　由紀子	

10）アスレティックリハビリテーション・スポーツトレーナー学科						
小項目	チェック項目	評定	現状の取組状況	課　　題	今後の改善方策	参考資料
3-9-3 キャリア教育を実施し	キャリア教育の実施にあたって、意義・指導方	3	実習前の心得を作成し、学生への周知徹底	学生への指導が不十分である。	普段の学校生活全般を踏まえての指導が必要	学科実習心得

ているか。	法等に関する方針を定めているか。		をしている。		である。	
	キャリア教育を行うための教育内容・教育方法･教材等について工夫しているか。		実習のねらい・目的を説明し、実習終了後にレポートを提出させている。	学生への実習のねらい・目的を明確に伝えきれていない。	よりよい実習の実施、レポート作成能力の向上を目指していく。	
	キャリア教育の効果について、卒業生･就職先等の意見聴取や評価を行っているか。		キャリア教育の意見聴取については、実施している。	実習先との情報共有が必要である。	定期的な意見聴取、評価が必要である。	
				記載責任者　職・氏名	学科長　　寺　本　敦　司	

11）整体セラピスト学科

小項目	チェック項目	評定	現状の取組状況	課　　題	今後の改善方策	参考資料
3-9-3 キャリア教育を実施しているか。	キャリア教育の実施にあたって、意義･指導方法等に関する方針を定めているか。	3	定めている	時代に沿った社会的･職業的自立に向け、再検討する	担当教員との密な報連相	なし
	キャリア教育を行うための教育内容・教育方法･教材等について工夫しているか。		している	生涯スポーツトレーナーとしての課外活動の経験を増やす	担当教員との密な報連相	
	キャリア教育の効果について、卒業生･就職先等の意見聴取や評価を行っているか。		行っている	なし	なし	
				記載責任者　職・氏名	学科長　　蓑　田　のり子	

12）日本語学科

小項目	チェック項目	評定	現状の取組状況	課　　題	今後の改善方策	参考資料
3-9-3 キャリア教育を実施しているか。	キャリア教育の実施にあたって、意義･指導方法等に関する方針を定	1	方針は現状ではない。	大卒者が入った場合必要となる。	キャリア教育を実施するチームを編成予定。	なし

	めているか。					
	キャリア教育を行うための教育内容・教育方法･教材等について工夫しているか。		現状ではない。	今後必要となる。	キャリアチームを中心として実施する。	
	キャリア教育の効果について、卒業生・就職先等の意見聴取や評価を行っているか。		該当しない			
				記載責任者　職・氏名	学科長　　阿　野　由利子	

３－９－４

１）柔道整復学科（昼間部）

小項目	チェック項目	評定	現状の取組状況	課　　題	今後の改善方策	参考資料
3-9-4 授業評価を実施しているか。	授業評価を実施する体制を整備しているか。	3	授業評価を実施し課題を把握している。	把握して問題点が正当なものか考える必要がある。	問題点の最良の解決策を考える。	授業評価アンケート
	学生に対するアンケート等の実施など､授業評価を行っているか。		授業評価アンケートを学生に対し実施している。	授業評価を前向きにとらえる必要がある。	今後も正当な評価をしやすいような説明、意義を伝えていく。	
	授業評価の実施において､関連業界等との協力体制はあるか。		授業評価の実施では学生と教員の資質の向上を目標としている。	学校の目標は国民の健康の増進であり、その為にあるべき事を考える。	現在行政側とも住民の健康増進のためにトレーナー活動、運動補助などで協力している。	
	教員にフィードバックする等､授業評価結果を授業改善に活用しているか。		授業評価結果を教員に伝え授業改善に活用している。	常に正当な評価なのかわ考える必要がある。	改善点を的確に実行していくことで信頼意欲向上に資する。	
				記載責任者　職・氏名	学科長　　桑　野　幸　仁	

２）柔道整復学科（夜間部）

小項目	チェック項目	評定	現状の取組状況	課　　題	今後の改善方策	参考資料

3-9-4 授業評価を実施しているか。	授業評価を実施する体制を整備しているか。	3	整備している。	なし。	なし。	授業評価アンケート
	学生に対するアンケート等の実施など、授業評価を行っているか。		年１回、授業評価アンケートを実施している。	半期毎に見直す機会がある方が望ましい。	前期と後期の年２回の実施を検討する。	
	授業評価の実施において、関連業界等との協力体制はあるか。		ない。	視野の狭い評価項目に陥る可能性がある。	他校とも連携し、幅広いチェック項目から内容の充実を図る。	
	教員にフィードバックする等、授業評価結果を授業改善に活用しているか。		教員にフィードバックし、今後の課題を記入させ授業改善に活用している。	なし。	なし。	
				記載責任者　職・氏名	学科長　　桑　野　幸　仁	

３）鍼灸学科（昼間部）

小項目	チェック項目	評定	現状の取組状況	課　　題	今後の改善方策	参考資料
3-9-4 授業評価を実施しているか。	授業評価を実施する体制を整備しているか。	2	年に１回授業評価を実施している。	基本的に前期までの科目に限られる。	内容・日程などを再検討する。	
	学生に対するアンケート等の実施など、授業評価を行っているか。		年に１回授業評価を実施している。	基本的に前期までの科目に限られる。	内容・日程などを再検討する。	
	授業評価の実施において、関連業界等との協力体制はあるか。		なし			
	教員にフィードバックする等、授業評価結果を授業改善に活用しているか。		評価実施後、面談を行っている。	授業ごとではないため、科目ごとに改善策を見出せない。	科目ごとに評価を実施する。	
				記載責任者　職・氏名	学科長　　堀之内　貴　一	

４）スポーツ鍼灸学科

小項目	チェック項目	評定	現状の取組状況	課　　題	今後の改善方策	参考資料
3-9-4	授業評価を実施する体	2	年に一度授業アンケー	授業アンケートをスケ	授業アンケート実施日	授業アンケート

授業評価を実施しているか。	制を整備しているか。		トを実施している	ジュール調整に追われることがまだある	や内容に関しても事前に計画を立てておく	
	学生に対するアンケート等の実施など、授業評価を行っているか。		授業アンケートを実施している	総合で判断しているため個々の授業評価がわからない	個々の授業評価をうけられるようにシステムの見直しを図る	
	授業評価の実施において、関連業界等との協力体制はあるか。		他の学科間での意見交換をしている	第３者機関の協力体制は整っていない	第３者機関のことも踏まえて検討	
	教員にフィードバックする等、授業評価結果を授業改善に活用しているか。		授業アンケート実施後に各教員と面談を行っている。	総合で判断しているため、個々の授業評価を伸ばせないでいる	個々の授業評価をうけられるようにシステムの見直しを図る	
				記載責任者　職・氏名	学科長　　松　波　　賢	

５）理学療法学科

小項目	チェック項目	評定	現状の取組状況	課　　題	今後の改善方策	参考資料
3-9-4 授業評価を実施しているか。	授業評価を実施する体制を整備しているか。	3	授業終了に伴い教務部が実施している	なし	なし	
	学生に対するアンケート等の実施など、授業評価を行っているか。		授業終了に伴い教務部が実施している	なし	なし	
	授業評価の実施において、関連業界等との協力体制はあるか。		関連業界と関連する授業科目は臨床実習であるが，実習終了後に実習指導者による自由記載での意見等を寄せてもらっている.	なし	なし	
	教員にフィードバックする等、授業評価結果を授業改善に活用しているか。		授業評価の結果を担当教員が確認している.	授業改善の状況確認	他の教員による授業参観の導入	
				記載責任者　職・氏名	学科長　　永　野　　忍	

６）作業療法学科						
小項目	チェック項目	評定	現状の取組状況	課　　題	今後の改善方策	参考資料
3-9-4 授業評価を実施しているか。	授業評価を実施する体制を整備しているか。	2	教務部との連携による授業評価の体制を整備している。	授業評価の実施時期および評価内容の分析過程。	授業評価の効果的かつ効率的な体制づくりに関して教務部と連携を強化する。	・学生授業評価 ・教職員による授業参観アンケート
	学生に対するアンケート等の実施など、授業評価を行っているか。		学生による授業評価、教職員による授業参観・評価を実施している。	教職員による授業参観・評価におけるアンケート項目の修正。	教職員による授業参観・評価におけるアンケート項目の修正を含めた計画立案について協議する。	
	授業評価の実施において、関連業界等との協力体制はあるか。		県協会や臨床実習施設との協力体制は構築されている。	臨床実習に対する授業評価の在り方。	臨床実習に対する授業評価に関して学科会議等で協議する。	
	教員にフィードバックする等、授業評価結果を授業改善に活用しているか。		授業評価結果は教員にフィードバックされ、授業改善に活用されている。	授業評価結果の授業改善への活用に関する計画と実践の把握。	授業計画に関する計画と実践の把握	
				記載責任者　職・氏名	学科教員　中　山　　仁	

７）看護学科						
小項目	チェック項目	評定	現状の取組状況	課　　題	今後の改善方策	参考資料
3-9-4 授業評価を実施しているか。	授業評価を実施する体制を整備しているか。	3	整備している。	授業評価の項目を検討する。	事前に教員・学生よりどのような項目が必要か情報収集する。	授業評価アンケート集計結果（教務部） 実習評価表
	学生に対するアンケート等の実施など、授業評価を行っているか。		授業評価についてアンケートを取っている。	定期的に行う。	前期後期で実施する。	
	授業評価の実施において、関連業界等との協力体制はあるか。		実習での評価は、臨床の指導者等と協力して実施している。	評価項目の妥当性を検討する。	実習評価表の評価内容を改善・修正する。	
	教員にフィードバックする等、授業評価結果を授業改善に活用してい		活用している。	授業評価のアンケートの集計結果を受けて、担当授業科目のフィー	フィードバック・改善点を実施する。	

	るか。			ドバック・改善点を明記する。		
				記載責任者　職・氏名	学科長　　村　山　由起子	

８）歯科衛生学科						
小項目	チェック項目	評定	現状の取組状況	課　　題	今後の改善方策	参考資料
3-9-4 授業評価を実施しているか。	授業評価を実施する体制を整備しているか。	4	特になし	実習を深いものにしたい	実習は教員２人体制で行う	特になし
	学生に対するアンケート等の実施など、授業評価を行っているか。		特になし	特になし	特になし	
	授業評価の実施において、関連業界等との協力体制はあるか。		特になし	特になし	特になし	
	教員にフィードバックする等、授業評価結果を授業改善に活用しているか。		特になし	特になし	特になし	
				記載責任者　職・氏名	学科長　　藤　　幸　枝	

９）生涯スポーツトレーナー介護福祉学科						
小項目	チェック項目	評定	現状の取組状況	課　　題	今後の改善方策	参考資料
3-9-4 授業評価を実施しているか。	授業評価を実施する体制を整備しているか。	4	授業評価を実施する体制が整備されている。	留学生に従来の方法では実施が困難。	留学生に対応できる実施方法を検討する。	
	学生に対するアンケート等の実施など、授業評価を行っているか。		授業評価を実施している。	留学生がほとんどであるために、教務部による聞き取りで実施している。	学生の語学力に対応できる評価用紙の作成と実施。	
	授業評価の実施において、関連業界等との協力体制はあるか。		開設年度であるため現在関連業界との協力体制はない。	特になし	特になし	
	教員にフィードバックする等、授業評価結果を		非常勤も含め、結果をフィードバックし、改	学生の要望に違いがあり、相反するニーズに	授業のねらいや目標を時間をかけて説明した	

	授業改善に活用しているか。		善に取り組んでいる。	なっている。	りコマシラバスを作成する。	
				記載責任者　職・氏名	学科長　　井　上　由紀子	

10）アスレティックリハビリテーション・スポーツトレーナー学科

小項目	チェック項目	評定	現状の取組状況	課　　題	今後の改善方策	参考資料
3-9-4 授業評価を実施しているか。	授業評価を実施する体制を整備しているか。	2	整備している。	実施時期の検討。	年間計画に組み込む必要がある。	授業アンケート結果
	学生に対するアンケート等の実施など、授業評価を行っているか。		学生に対し、授業アンケートを実施している。	評価項目の検討。	目的を明確化したアンケートの実施が必要である。	
	授業評価の実施において、関連業界等との協力体制はあるか。		実施していない。	どのように協力体制を確立していくか検討が必要である。	業界団体との連携が必要となる。	
	教員にフィードバックする等、授業評価結果を授業改善に活用しているか。		授業評価をもとに振り返りシートを作成している。	振り返りシート提出のみなので、授業改善に効果的なのかが不明である。	振り返りシートだけではなく、学科内での研修会などを実施していく。	
				記載責任者　職・氏名	学科長　　寺　本　敦　司	

11）整体セラピスト学科

小項目	チェック項目	評定	現状の取組状況	課　　題	今後の改善方策	参考資料
3-9-4 授業評価を実施しているか。	授業評価を実施する体制を整備しているか。	4	整備している	なし	なし	なし
	学生に対するアンケート等の実施など、授業評価を行っているか。		行っている	なし	なし	
	授業評価の実施において、関連業界等との協力体制はあるか。		ない	なし	なし	
	教員にフィードバックする等、授業評価結果を授業改善に活用してい		活用している	なし	なし	

	るか。					
				記載責任者　職・氏名	学科長　　蓑　田　のり子	

12）日本語学科

小項目	チェック項目	評定	現状の取組状況	課　　題	今後の改善方策	参考資料
3-9-4 授業評価を実施しているか。	授業評価を実施する体制を整備しているか。	3	学校が行っている。	なし	なし	なし
	学生に対するアンケート等の実施など、授業評価を行っているか。		学校が行っている。	なし	なし	
	授業評価の実施において、関連業界等との協力体制はあるか。		該当しない			
	教員にフィードバックする等、授業評価結果を授業改善に活用しているか。		各自活用している。	なし	なし	
				記載責任者　職・氏名	学科長　　阿　野　由利子	

３－９　教育方法・評価等

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
教育課程は法令に基づいて学科単位で編成しているが、編成体制等についての規程が整備されていない。また、教育課程編成委員会を組織した学科においては業界関係者をはじめとする外部の意見を聴取して編成しているが、同委員会を組織していない学科については学科会議による編成にとどまっている。	柔道整復学科（昼間部）、柔道整復学科（夜間部）、鍼灸学科（昼間部）、スポーツ鍼灸学科、理学療法学科およびアスレティックリハビリテーション・スポーツトレーナー学科の 6 学科においては教育課程編成委員会を設置して、教育課程の編成に際して業界関係者をはじめとする外部の意見を反映させている。

記載責任者　職・氏名	教務部長　　味　村　吉　浩

３－10　成績評価・単位認定等

３－10－１

１）柔道整復学科（昼間部）

小項目	チェック項目	評定	現状の取組状況	課　　題	今後の改善方策	参考資料
3-10-1 成績評価・修了認定基準を明確化し、適切に運用しているか。	成績評価の基準について、学則等に規定するなど明確にし、かつ、学生等に明示しているか。	4	成績評価の基準については学則等で規定されているし学生便覧に明示されている。	なし	なし	学生便覧
	成績評価の基準を適切に運用するため、会議等を開くなど客観性・統一性の確保に取組んでいるか。		成績評価の運用は客観性、統一性の確保に取り組んでいる。	なし	なし	
	入学前の履修、他の教育機関の履修の認定について、学則等に規定し、適切に運用しているか。		適切に運用されている。（既修得単位認定制度）	なし	なし	
				記載責任者　職・氏名	学科長　　桑　野　幸　仁	

２）柔道整復学科（夜間部）

小項目	チェック項目	評定	現状の取組状況	課　　題	今後の改善方策	参考資料
3-10-1 成績評価・修了認定基準を明確化し、適切に運用しているか。	成績評価の基準について、学則等に規定するなど明確にし、かつ、学生等に明示しているか。	4	明示している。	なし。	なし。	学生便覧
	成績評価の基準を適切に運用するため、会議等を開くなど客観性・統一性の確保に取組んでい		学科会議を開き、その確保に取組んでいる。	なし。	なし。	

	るか。					
	入学前の履修、他の教育機関の履修の認定について、学則等に規定し、適切に運用しているか。		既修得単位認定制度を導入・運用している。	養成施設によっては単位数が違い、認定判断に苦慮することがある。	同一科目については、単位を認定するよう検討する。	
				記載責任者　職・氏名	学科長　　桑　野　幸　仁	

３）鍼灸学科（昼間部）

小項目	チェック項目	評定	現状の取組状況	課　　題	今後の改善方策	参考資料
3-10-1 成績評価・修了認定基準を明確化し、適切に運用しているか。	成績評価の基準について、学則等に規定するなど明確にし、かつ、学生等に明示しているか。	2	学生便覧に明記している	実技系科目などは評価が異なる可能性がある。	統一した評価ができるよう会議や打ち合わせを実施する。	
	成績評価の基準を適切に運用するため、会議等を開くなど客観性・統一性の確保に取組んでいるか。		評価基準は学科内で統一し、試験後のフィードバック期間を設けている	評価方法は単位認定者に委ねており、客観性に欠ける部分がでてくる	各学期前に面談を行い、評価に客観性が保たれているかを確認する	
	入学前の履修、他の教育機関の履修の認定について、学則等に規定し、適切に運用しているか。		既修得単位認定制度を設け、説明会も実施している。	なし	なし	
				記載責任者　職・氏名	学科長　　堀之内　貴　一	

４）スポーツ鍼灸学科

小項目	チェック項目	評定	現状の取組状況	課　　題	今後の改善方策	参考資料
3-10-1 成績評価・修了認定基準を明確化し、適切に運用しているか。	成績評価の基準について、学則等に規定するなど明確にし、かつ、学生等に明示しているか。	2	学生便覧に明記している	オリエンテーションの際に説明しているがどこまで理解しているかを把握できていない	全体のオリエンテーションだけではなく、個々の学生面談において対応する	学生便覧 シラバス 既修得認定資料
	成績評価の基準を適切に運用するため、会議等を開くなど客観性・統一		評価基準は学科内で統一し、試験後のフィードバック期間を設けて	評価方法は単位認定者に委ねており、客観性に欠ける部分がでてく	各学期前に面談を行い、評価に客観性が保たれているかを確認す	

	性の確保に取組んでいるか。		いる	る	る	
	入学前の履修、他の教育機関の履修の認定について、学則等に規定し、適切に運用しているか。		既修得単位に関しては新年度前に説明会を行っている	特になし	特になし	
				記載責任者　職・氏名	学科長　　松　波　　賢	

５）理学療法学科

小項目	チェック項目	評定	現状の取組状況	課　　題	今後の改善方策	参考資料
3-10-1 成績評価・修了認定基準を明確化し、適切に運用しているか。	成績評価の基準について、学則等に規定するなど明確にし、かつ、学生等に明示しているか。	3	学生に配布する学生便覧に学則や成績評価の基準等は明示している	明示をしているが，普段から意識させておくことが重要	重要な条項の確認	学生便覧
	成績評価の基準を適切に運用するため、会議等を開くなど客観性・統一性の確保に取組んでいるか。		学科内にて会議等を行っている	客観性・統一性の確保を図る	議事録等の供覧や管理を行う	
	入学前の履修、他の教育機関の履修の認定について、学則等に規定し、適切に運用しているか。		学則に明示し、申請に対して教育課程及び授業シラバスとの適合性の確認を行っている	学科内における申請内容の共有を図る	議事録等の供覧や管理を行う	
				記載責任者　職・氏名	学科長　　永　野　　忍	

６）作業療法学科

小項目	チェック項目	評定	現状の取組状況	課　　題	今後の改善方策	参考資料
3-10-1 成績評価・修了認定基準を明確化し、適切に運用しているか。	成績評価の基準について、学則等に規定するなど明確にし、かつ、学生等に明示しているか。	3	成績評価、進級要件、卒業要件の基準は学生便覧に明示されている。	学生の成績評価基準等の理解度。	学生の成績評価基準に対する理解度促進のための方法論を協議する（特に臨床実習）。	・学則 ・成績評価基準 ・既修得単位認定に関する規程 ・入学前学習課題
	成績評価の基準を適切に運用するため、会議等		学科会議、進級判定会議を開催し、成績評価	不合格となった科目の再履修要件についての	学科会議等において不合格科目の再履修要件	

	を開くなど客観性･統一性の確保に取組んでいるか。		基準の客観性・統一性の確保に取組んでいる。	検討。	について協議し、学科内にて統一見解を共有する。	
	入学前の履修、他の教育機関の履修の認定について、学則等に規定し、適切に運用しているか。		新入生には入学前学習課題を課し、既修得単位認定の案内および認定の実施等を行っている。	入学前学習課題遂行状況と入学後成績の関連性。指定規則改正に伴う教育課程再編成と既修得単位認定科目の整合性。	入学前学習課題遂行状況と入学後成績の関連性に関する調査計画、教育課程再編成に伴う既修得単位認定科目の科目選定などについて協議する。	
				記載責任者　職・氏名	学科教員　　中　山　　仁	

7）看護学科

小項目	チェック項目	評定	現状の取組状況	課　　題	今後の改善方策	参考資料
3-10-1 成績評価･修了認定基準を明確化し、適切に運用しているか。	成績評価の基準について、学則等に規定するなど明確にし、かつ、学生等に明示しているか。	2	学則に規定されており、学生便覧学生へは説明・配布している。	成績評価・修了認定を適切な時期に行う。	学生への伝達・報告の方法を工夫する。	学則 細則
	成績評価の基準を適切に運用するため、会議等を開くなど客観性･統一性の確保に取組んでいるか。		成績判定会議を開いて、客観性･統一性の確保に取組んでいる。	成績判定会議を適切な時期に行う。	試験の時期の検討をする。	
	入学前の履修、他の教育機関の履修の認定について、学則等に規定し、適切に運用しているか。		学則に規定されており、適切に運用されている。	履修科目の精選を図る。	互換性を明確にする。	既修得単位認定制度のしおり
				記載責任者　職・氏名	学科長　　村　山　由起子	

8）歯科衛生学科

小項目	チェック項目	評定	現状の取組状況	課　　題	今後の改善方策	参考資料
3-10-1 成績評価･修了認定基準	成績評価の基準について、学則等に規定するな	4	特になし	特になし	特になし	特になし

を明確化し、適切に運用しているか。	ど明確にし、かつ、学生等に明示しているか。					
	成績評価の基準を適切に運用するため、会議等を開くなど客観性・統一性の確保に取組んでいるか。		特になし	特になし	特になし	
	入学前の履修、他の教育機関の履修の認定について、学則等に規定し、適切に運用しているか。		特になし	特になし	特になし	
				記載責任者　職・氏名	学科長　　藤　　幸　枝	

9）生涯スポーツトレーナー介護福祉学科						
小項目	チェック項目	評定	現状の取組状況	課　　題	今後の改善方策	参考資料
3-10-1 成績評価・修了認定基準を明確化し、適切に運用しているか。	成績評価の基準について、学則等に規定するなど明確にし、かつ、学生等に明示しているか。	3	成績評価の基準については、学生便覧やシラバスなどに明示し、学生に説明している。	留学生が殆どであるので、科目によって評価の仕方が異なることが理解できていない。	オリエンテーションや授業など何回かに分けて説明する。	学生便覧
	成績評価の基準を適切に運用するため、会議等を開くなど客観性・統一性の確保に取組んでいるか。		成績評価にあたっては、学科内会議で話し合い持っている。	科目によって教員によって評価に違いがある。	専門職に対する共通認識と各授業の位置づけを理解し、専門教育の質を担保できるようにする。	
	入学前の履修、他の教育機関の履修の認定について、学則等に規定し、適切に運用しているか。		現在この適用はないが、学則に規定しており、入学予定者にも周知徹底させている。	特になし	特になし	
				記載責任者　職・氏名	学科長　　井　上　由紀子	

10）アスレティックリハビリテーション・スポーツトレーナー学科						
小項目	チェック項目	評定	現状の取組状況	課　　題	今後の改善方策	参考資料
3-10-1	成績評価の基準につい	2	学生便覧に記載されて	学生への周知徹底が不	科目ごとの試験内で、	

成績評価・修了認定基準を明確化し、適切に運用しているか。	て、学則等に規定するなど明確にし、かつ、学生等に明示しているか。		いる。	十分である。	学生へ説明していく。	学生便覧
	成績評価の基準を適切に運用するため、会議等を開くなど客観性・統一性の確保に取組んでいるか。		会議など実施されていない。	学科内での客観性・統一性を保つ評価基準が必要である。	学科内で評価基準の作成を作成していくことが必要である。	
	入学前の履修、他の教育機関の履修の認定について、学則等に規定し、適切に運用しているか。		既修得単位の制度は、確立されている。	既修得単位の明確な基準作成が必要である。	複数教員での審査により、単位認定をしていく。	
				記載責任者　職・氏名	学科長　　寺　本　敦　司	

11）整体セラピスト学科

小項目	チェック項目	評定	現状の取組状況	課　　題	今後の改善方策	参考資料
3-10-1 成績評価・修了認定基準を明確化し、適切に運用しているか。	成績評価の基準について、学則等に規定するなど明確にし、かつ、学生等に明示しているか。	3	明確にし、明示している	なし	なし	なし
	成績評価の基準を適切に運用するため、会議等を開くなど客観性・統一性の確保に取組んでいるか。		会議は行っていないが、担当教員との連携は取れている	なし	なし	
	入学前の履修、他の教育機関の履修の認定について、学則等に規定し、適切に運用しているか。		運用している	なし	なし	
				記載責任者　職・氏名	学科長　　蓑　田　のり子	

12）日本語学科

小項目	チェック項目	評定	現状の取組状況	課　　題	今後の改善方策	参考資料

3-10-1 成績評価・修了認定基準を明確化し、適切に運用しているか。	成績評価の基準について、学則等に規定するなど明確にし、かつ、学生等に明示しているか。	3	オリエンテーションで学生に明示している。	基準を理解できない学生が多い。	評価についてより詳しく説明する。	なし
	成績評価の基準を適切に運用するため、会議等を開くなど客観性・統一性の確保に取組んでいるか。		学科内で会議を開き基準を運用している。	なし	なし	
	入学前の履修、他の教育機関の履修の認定について、学則等に規定し、適切に運用しているか。		学習証明書を提出させ適切に運用している。	なし	なし	
				記載責任者　職・氏名	学科長　　阿　野　由利子	

３－10－２

１）柔道整復学科（昼間部）

小項目	チェック項目	評定	現状の取組状況	課　　題	今後の改善方策	参考資料
3-10-2 作品及び技術等の発表における成果を把握しているか。	在校生のコンテスト参加における受賞状況、研究業績等を把握しているか。	1	研究業績等の成果把握はなお不十分である。	学生評価として確立する制度が必要か。	コンテスト参加の取組みを確立する。	
				記載責任者　職・氏名	学科長　　桑　野　幸　仁	

２）柔道整復学科（夜間部）

小項目	チェック項目	評定	現状の取組状況	課　　題	今後の改善方策	参考資料
3-10-2 作品及び技術等の発表における成果を把握しているか。	在校生のコンテスト参加における受賞状況、研究業績等を把握しているか。	1	コンテスト参加はない。	教育成果が見えないし、教育内容の改善点も見えにくい。	コンテスト参加を検討する。	
				記載責任者　職・氏名	学科長　　桑　野　幸　仁	

３）鍼灸学科（昼間部）						
小項目	チェック項目	評定	現状の取組状況	課　　題	今後の改善方策	参考資料
3-10-2 作品及び技術等の発表における成果を把握しているか。	在校生のコンテスト参加における受賞状況、研究業績等を把握しているか。	1	できていない。	学生がどのような活動をしているか把握する必要がある。	定期的に面談を行う。そのようなシステムを設ける。	
				記載責任者　職・氏名	学科長　　堀之内　貴　一	

４）スポーツ鍼灸学科						
小項目	チェック項目	評定	現状の取組状況	課　　題	今後の改善方策	参考資料
3-10-2 作品及び技術等の発表における成果を把握しているか。	在校生のコンテスト参加における受賞状況、研究業績等を把握しているか。	1	学生とコミュニケーションをとる中で把握することがあるが、学科で把握する術をとっていない	報告してもらえる仕組みづくりが必要	実績を報告したことが学生の為になるようにシステムを検討（学内表彰など）	特になし
				記載責任者　職・氏名	学科長　　松　波　　賢	

５）理学療法学科						
小項目	チェック項目	評定	現状の取組状況	課　　題	今後の改善方策	参考資料
3-10-2 作品及び技術等の発表における成果を把握しているか。	在校生のコンテスト参加における受賞状況、研究業績等を把握しているか。	4	各学年にて履修に付随する発表の機会を設けている	学外における業績の把握を図る	臨床実習における業績の確認を行う	
				記載責任者　職・氏名	学科長補佐　永　野　　忍	

６）作業療法学科						
小項目	チェック項目	評定	現状の取組状況	課　　題	今後の改善方策	参考資料
3-10-2 作品及び技術等の発表	在校生のコンテスト参加における受賞状況、研	3	専門および関連領域の学会・研究会へ	在校生の学会・研究会への参加意識および参	教育課程および授業計画の検討に、学会・研究	・学会誌

における成果を把握しているか。	究業績等を把握しているか。		の学生参加を促している（福岡県作業療法学会、日本地域作業療法研究大会に学生参加）。	加状況。	会参加と授業のリンク等を含めて協議する。	
				記載責任者　職・氏名	学科教員　　中　山　　仁	

7）看護学科

小項目	チェック項目	評定	現状の取組状況	課　　題	今後の改善方策	参考資料
3-10-2 作品及び技術等の発表における成果を把握しているか。	在校生のコンテスト参加における受賞状況、研究業績等を把握しているか。	2	該当なし			
				記載責任者　職・氏名	学科長　　村　山　由起子	

8）歯科衛生学科

小項目	チェック項目	評定	現状の取組状況	課　　題	今後の改善方策	参考資料
3-10-2 作品及び技術等の発表における成果を把握しているか。	在校生のコンテスト参加における受賞状況、研究業績等を把握しているか。	3	特になし	積極的の取り組めるよう環境づくりにつとめたい	学生の技術を把握する	特になし
				記載責任者　職・氏名	学科長　　藤　　幸　枝	

9）生涯スポーツトレーナー介護福祉学科

小項目	チェック項目	評定	現状の取組状況	課　　題	今後の改善方策	参考資料
3-10-2 作品及び技術等の発表における成果を把握しているか。	在校生のコンテスト参加における受賞状況、研究業績等を把握しているか。	2	開設年度であるが、在校生のコンテストの参加はない。	学外活動への取り組み意欲に乏しい。	様々な学外活動を体験することによって積極的な取り組みを促す。	特になし
				記載責任者　職・氏名	学科長　　井　上　由紀子	

10）アスレティックリハビリテーション・スポーツトレーナー学科						
小項目	チェック項目	評定	現状の取組状況	課　　題	今後の改善方策	参考資料
3-10-2 作品及び技術等の発表における成果を把握しているか。	在校生のコンテスト参加における受賞状況、研究業績等を把握しているか。	1	研究等の発表を学会などで発表していない。	現状のカリキュラムでは、研究指導してくだけの時間が不足している。	カリキュラムの見直し、研究指導のできる教員の確保が必要。	なし
				記載責任者　職・氏名	学科長　　寺　本　敦　司	

11）整体セラピスト学科						
小項目	チェック項目	評定	現状の取組状況	課　　題	今後の改善方策	参考資料
3-10-2 作品及び技術等の発表における成果を把握しているか。	在校生のコンテスト参加における受賞状況、研究業績等を把握しているか。	3	手技を体得するため発表などの成果はないが、課外活動における「お客様アンケート」にて評価は把握している。	なし	なし	なし
				記載責任者　職・氏名	学科長　　蓑　田　のり子	

12）日本語学科						
小項目	チェック項目	評定	現状の取組状況	課　　題	今後の改善方策	参考資料
3-10-2 作品及び技術等の発表における成果を把握しているか。	在校生のコンテスト参加における受賞状況、研究業績等を把握しているか。	4	スピーチ発表会、漢字コンテストを実施。	なし	なし	なし
				記載責任者　職・氏名	学科長　　阿　野　由利子	

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
成績評価基準は学則において規定し、各学科とも当該基準に基づいて成績評価を行っている。	

記載責任者　職・氏名	教務部長　　味　村　吉　浩

３－１１　資格・免許の取得の指導

３－11－１

１）柔道整復学科（昼間部）

小項目	チェック項目	評定	現状の取組状況	課　　題	今後の改善方策	参考資料
3-11-1 目標とする資格・免許は、教育課程上で、明確に位置づけているか。	取得目標としている資格・免許の内容・取得の意義について明確にしているか。	4	取得目標としている資格、免許の内容その意義について明確に表現されている。	特になし。	なし。	学生便覧 学生案内パンフレット
	資格・免許の取得に関連する授業科目、特別講座の開設等について明確にしているか。		取得に関連する授業科目は明確にされている。特別講座の開設は適宜に実施している。	特別講座の受講も当然に重要視されるべきものである。	特になし。	
				記載責任者　職・氏名	学科長　　桑　野　幸　仁	

２）柔道整復学科（夜間部）

小項目	チェック項目	評定	現状の取組状況	課　　題	今後の改善方策	参考資料
3-11-1 目標とする資格・免許は、教育課程上で、明確に位置づけているか。	取得目標としている資格・免許の内容・取得の意義について明確にしているか。	4	履修科目の概要と臨床現場での実例をあげ、学生に話をしている。	なし。	なし。	学生便覧 学校案内パンフレット
	資格・免許の取得に関連する授業科目、特別講座の開設等について明確にしているか。		履修科目以外に特別講義を開講している旨を学生に伝達している。	なし。	なし。	
				記載責任者　職・氏名	学科長　　桑　野　幸　仁	

３）鍼灸学科（昼間部）						
小項目	チェック項目	評定	現状の取組状況	課　　題	今後の改善方策	参考資料
3-11-1 目標とする資格・免許は、教育課程上で、明確に位置づけているか。	取得目標としている資格・免許の内容・取得の意義について明確にしているか。	2	あまりできていない	いつどのタイミングでそのような話をするか。	会議等を実施し、機会やタイミングなどを決定する。	
	資格・免許の取得に関連する授業科目、特別講座の開設等について明確にしているか。		国家試験対策委員を設定し、対策授業等を実施している。	学生間での学力差が生じ、到達レベルが個人によって異なる。	学力が及ばない学生に対しては個別に対応する。	
				記載責任者　職・氏名	学科長　　堀之内　貴　一	

４）スポーツ鍼灸学科						
小項目	チェック項目	評定	現状の取組状況	課　　題	今後の改善方策	参考資料
3-11-1 目標とする資格・免許は、教育課程上で、明確に位置づけているか。	取得目標としている資格・免許の内容・取得の意義について明確にしているか。	2	国家試験取得後、鍼灸師として臨床のことを意識できるとように伝えている。	臨床の話はあくまで経験の話が多くなり、業界などの客観視に欠ける	どういった話を伝えていくのが適切なのかを会議等を実施し、決定する。	
	資格・免許の取得に関連する授業科目、特別講座の開設等について明確にしているか。		国家試験対策委員を設定し、対策授業等を実施している。	学生間での学力差が生じ、到達レベルが個人によって異なる。	学力が及ばない学生に対しては個別に対応する。	
				記載責任者　職・氏名	学科長　　松　波　　賢	

５）理学療法学科						
小項目	チェック項目	評定	現状の取組状況	課　　題	今後の改善方策	参考資料
3-11-1 目標とする資格・免許は、教育課程上で、明確に位置づけているか。	取得目標としている資格・免許の内容・取得の意義について明確にしているか。	4	各授業科目にて明確に示している	なし	なし	
	資格・免許の取得に関連する授業科目、特別講座		各授業科目にて明確に示している	なし	なし	

	の開設等について明確にしているか。					
				記載責任者　職・氏名	学科長　　永　野　　忍	

６）作業療法学科						
小項目	チェック項目	評定	現状の取組状況	課　　題	今後の改善方策	参考資料
3-11-1 目標とする資格・免許は、教育課程上で、明確に位置づけているか。	取得目標としている資格・免許の内容・取得の意義について明確にしているか。	4	学科で取得目標とする資格・免許をできるだけ具体的かつ明確に定めている。カリキュラムポリシーを文章化している。	指定規則カリキュラム改正内容に対する整合性の検討。	学科内で、定期的見直しと情報共有化を図る。	・福祉住環境コーディネーター検定２級 ・メンタルヘルス・マネジメント検定Ⅱ種 上記 2 資格における近年の全国合格率
	資格・免許の取得に関連する授業科目、特別講座の開設等について明確にしているか。		カリキュラムポリシーに対応する授業科目及び試験に向けた対策授業計画を作成している。 パンフレットやホームページなどでも紹介している。	国家受験資格以外の資格・免許の取得（福祉住環境コーディネーター検定 2 級、メンタルヘルス・マネジメント検定Ⅱ種、健康スポーツセラピスト知識検定：初級と一般）に関連する方法論や情報共有化の検討。	学科専任教員内での資格・免許の取得に関連する情報共有化を図る。	
				記載責任者　職・氏名	学科教員　　中　山　　仁	

７）看護学科						
小項目	チェック項目	評定	現状の取組状況	課　　題	今後の改善方策	参考資料
3-11-1 目標とする資格・免許は、教育課程上で、明確に位置づけているか。	取得目標としている資格・免許の内容・取得の意義について明確にしているか。	1	現状では、明確なものはない。	今年度、初めての卒業生を輩出するため、資格・免許の内容・取得に対する意義を明確にする必要がある。	資格・免許の内容・取得に対する意義について、会議を持ち、明確にする。	
	資格・免許の取得に関連する授業科目、特別講座		4 月より、国試に関するセミナーを 2 回開催し	資格・免許に関連する授業科目を明文化す	資格取得のための模擬試験を定期的に実施す	

	の開設等について明確にしているか。		ている。今後は、実習の状況を考え、計画的に実施する予定である。	る。国家試験に関するセミナーを計画的に開催する必要がる。	る。各紙に向けて、特別講義を計画する。	
				記載責任者　職・氏名	学科長　　村　山　由起子	

３－11－１

８）歯科衛生学科

小項目	チェック項目	評定	現状の取組状況	課　　題	今後の改善方策	参考資料
3-11-1 目標とする資格・免許は、教育課程上で、明確に位置づけているか。	取得目標としている資格・免許の内容・取得の意義について明確にしているか。	5	明確にしている	特になし	特になし	特になし
	資格・免許の取得に関連する授業科目、特別講座の開設等について明確にしているか。		明確にしている	特になし	特になし	
				記載責任者　職・氏名	学科長　　藤　　幸　枝	

９）生涯スポーツトレーナー介護福祉学科

小項目	チェック項目	評定	現状の取組状況	課　　題	今後の改善方策	参考資料
3-11-1 目標とする資格・免許は、教育課程上で、明確に位置づけているか。	取得目標としている資格・免許の内容・取得の意義について明確にしているか。	3	入学案内やシラバス、実習要綱などにおいて明確にしている。	オリエンテーションにおける説明だけでは、十分ではない。	シラバスの活用を徹底する。	学生便覧 シラバス
	資格・免許の取得に関連する授業科目、特別講座の開設等について明確にしているか。		学生便覧やシラバス等で資格取得に関連する科目を明記している。	各科目が資格取得にどのように関連しているかを理解する。	図式化するなど視覚化する工夫を取り入れる。	
				記載責任者　職・氏名	学科長　　井　上　由紀子	

10）アスレティックリハビリテーション・スポーツトレーナー学科

小項目	チェック項目	評定	現状の取組状況	課　　題	今後の改善方策	参考資料
3-11-1 目標とする資格・免許は、教育課程上で、明確に位置づけているか。	取得目標としている資格・免許の内容・取得の意義について明確にしているか。	3	オリエンテーション、日々の授業内において、説明している。	特になし	特になし	なし
	資格・免許の取得に関連する授業科目、特別講座の開設等について明確にしているか。		実技試験対策において、特別講座を実施している。	学生間の学力差を埋める必要がある。	各学生の理解度に基づいた支援体制を確立していく。	
				記載責任者　職・氏名	学科長　　寺　本　敦　司	

11）整体セラピスト学科

小項目	チェック項目	評定	現状の取組状況	課　　題	今後の改善方策	参考資料
3-11-1 目標とする資格・免許は、教育課程上で、明確に位置づけているか。	取得目標としているについて明確にしているか。	3	資格・免許の内容・取得の意義は明確である	免許更新手続きが不明確	明確な説明を事前に行う	なし
	資格・免許の取得に関連する授業科目、特別講座の開設等について明確にしているか。		明確にしている	なし	なし	
				記載責任者　職・氏名	学科長　　蓑　田　のり子	

12）日本語学科

小項目	チェック項目	評定	現状の取組状況	課　　題	今後の改善方策	参考資料
3-11-1 目標とする資格・免許は、教育課程上で、明確に位置づけているか。	取得目標としている資格・免許の内容・取得の意義について明確にしているか。	2	各種日本語試験についてはその都度案内、内容、取得意義について説明している。	各試験の取得意義があまり明確に理解できていない。	試験ごとの内容、レベル、取得意義を書式化し入学時から説明を徹底する。	なし
	資格・免許の取得に関連する授業科目、特別講座の開設等について明確にしているか。		授業全般が関連科目となるため特別な明確化はしていない。	なし	なし	

	記載責任者　職・氏名	学科長　　阿　野　由利子

３－11－２

１）柔道整復学科（昼間部）

小項目	チェック項目	評定	現状の取組状況	課　　題	今後の改善方策	参考資料
3-11-2 資格･免許取得の指導体制はあるか。	資格･免許の取得について､指導体制を整備しているか。	4	免許の取得については指導体制は整備されている。	生徒の学力向上には本人の努力も要する。	資格免許取得の意義を生徒に問うて、指導体制を向上させたい。	実力試験問題 実力別補講３クラス制 聴講生証
	不合格者及び卒後の指導体制を整備しているか。		不合格者は学校で再度教育を受けるように指導体制をスタートさせた。	それでも学校に来ない生徒は自身のみで学力を維持向上させるのみ	資格取得の意義を問うて学校で授業に参加するように意識させたい。	
				記載責任者　職・氏名	学科長　　桑　野　幸　仁	

２）柔道整復学科（夜間部）

小項目	チェック項目	評定	現状の取組状況	課　　題	今後の改善方策	参考資料
3-11-2 資格･免許取得の指導体制はあるか。	資格･免許の取得について､指導体制を整備しているか。	4	補講や実力試験を実施し、全体の学力向上を図っている。	なし。	なし。	実力試験問題 学力別補講３クラス制 聴講生証
	不合格者及び卒後の指導体制を整備しているか。		聴講生制度を設け、学業継続の環境を作っている。	聴講生の出席率が悪い。	実力試験以外の普段の講義でも出席を促す指導を行っていく。	
				記載責任者　職・氏名	学科長　　桑　野　幸　仁	

３）鍼灸学科（昼間部）

小項目	チェック項目	評定	現状の取組状況	課　　題	今後の改善方策	参考資料
3-11-2 資格･免許取得の指導体制はあるか。	資格･免許の取得について､指導体制を整備しているか。	2	国家試験対策委員を設定し、対策授業等を実施している。	学生間での学力差が生じ、到達レベルが個人によって異なる。	学力が及ばない学生に対しては個別に対応する。	

	不合格者及び卒後の指導体制を整備しているか。		不合格者は聴講生制度などを設けている。	なし	なし	
				記載責任者　職・氏名	学科長　　堀之内　貴　一	

4）スポーツ鍼灸学科						
小項目	チェック項目	評定	現状の取組状況	課　　題	今後の改善方策	参考資料
3-11-2 資格・免許取得の指導体制はあるか。	資格・免許の取得について、指導体制を整備しているか。	2	国家試験対策委員を設定し、対策授業等を実施している。	学生間での学力差が生じ、到達レベルが個人によって異なる。	学力が及ばない学生に対しては個別に対応する。	
	不合格者及び卒後の指導体制を整備しているか。		不合格者は聴講生制度などを設けている。	あくまで在校生に対して行うため、習熟度に合わせるのが難しい	個別対応ができないかを検討する	
				記載責任者　職・氏名	学科長　　松　波　　賢	

5）理学療法学科						
小項目	チェック項目	評定	現状の取組状況	課　　題	今後の改善方策	参考資料
3-11-2 資格・免許取得の指導体制はあるか。	資格・免許の取得について、指導体制を整備しているか。	3	資格取得に向けて教員を専属で配置し指導している	成績不良者への対応	随時的な履修状況の把握を行う	
	不合格者及び卒後の指導体制を整備しているか。		資格取得に向けての情報提供をおこなっている	情報共有状況の把握	随時的に連絡を取り状況の確認を行う	
				記載責任者　職・氏名	学科長　　永　野　　忍	

6）作業療法学科						
小項目	チェック項目	評定	現状の取組状況	課　　題	今後の改善方策	参考資料
3-11-2 資格・免許取得の指導体制はあるか。	資格・免許の取得について、指導体制を整備しているか。	3	目標となる資格・免許の取得を支援、指導するために授業科目での指導に加え、外部の授	個別性の高い学習支援体制や方法論の構築が必要である。今後も、試験傾向など情報収集	学科内での協議を定期的に実施し、個別支援を試行する。	なし

			業の取り組みを参考に取り入れ、指導方法や指導体制を構築している。 セミナーによる、担任の計画をもとに補習やグループ学習指導を実施。 国家試験受験資格に対応する授業科目を各年次に編成。また、国家受験資格以外の資格・免許の取得（福祉住環境コーディネーター検定2級、メンタルヘルス・マネジメント検定Ⅱ種、健康スポーツセラピスト知識検定：初級と一般）に対応する授業科目を編成。	し、有効な方法を模索する。		
	不合格者及び卒後の指導体制を整備しているか。		現段階が 3 年次までのカリキュラムが未実施であるが、授業計画のもとに取り組んでいる状況。国家試験受験資格以外の資格に関しては、学生の希望により実施する学生に対して合格できる授業を準備・計画している。	不合格者及び卒後の指導体制について、完成年度を迎えていないため、整備するための学科での検討が必要。 不合格で卒業した学生等が発生した場合を想定し、他学科の取り組みについて情報収集し、資格試験への再チャレンジできる体制の構築を図り、継続できる体制作りの計画が必要。	学科内での協議を定期的に実施し、個別支援を試行する。	
				記載責任者　職・氏名	学科教員　　中　山　　仁	

７）看護学科						
小項目	チェック項目	評定	現状の取組状況	課　　題	今後の改善方策	参考資料
3-11-2 資格･免許取得の指導体制はあるか。	資格･免許の取得について､指導体制を整備しているか。	2	ゼミ制度を設けて、個別に指導する時間を確保している	新人教員に対する教授法の指導の必要性	新人教員に対して、定期的に学習会を実施する。	
	不合格者及び卒後の指導体制を整備しているか。		聴講生制度が設けられている。	今年度、初めて卒業生を輩出するため、不合格者を出さないように、国試体制を充実させる。	1 回／月の模擬試験の実施 ゼミによる個別指導の強化 実習内容の充実	
				記載責任者　職・氏名	学科長　　村　山　由起子	

８）歯科衛生学科						
小項目	チェック項目	評定	現状の取組状況	課　　題	今後の改善方策	参考資料
3-11-2 資格･免許取得の指導体制はあるか。	資格･免許の取得について､指導体制を整備しているか。	3	整備していない	担当を決める	担当を決め具体的に改善していく	特になし
	不合格者及び卒後の指導体制を整備しているか。		国家試験対象者がいない	特になし	特になし	
				記載責任者　職・氏名	学科長　　藤　　幸　枝	

９）生涯スポーツトレーナー介護福祉学科						
小項目	チェック項目	評定	現状の取組状況	課　　題	今後の改善方策	参考資料
3-11-2 資格･免許取得の指導体制はあるか。	資格･免許の取得について､指導体制を整備しているか。	3	次年度の資格取得へ向けて指導体制を整備している。	補習授業の必要がある。	資格取得のための指導体制をスケジュールに組み込む。	特になし
	不合格者及び卒後の指導体制を整備しているか。		現在検討中である。	どのような形態で実施するか。	次年度以降の不合格者のアンケートを実施後、具体化する。	
				記載責任者　職・氏名	学科長　　井　上　由紀子	

10）アスレティックリハビリテーション・スポーツトレーナー学科						
小項目	チェック項目	評定	現状の取組状況	課　　題	今後の改善方策	参考資料
3-11-2 資格・免許取得の指導体制はあるか。	資格・免許の取得について、指導体制を整備しているか。	2	資格取得に向けての指導体制は整備している。	特になし。	特になし。	なし
	不合格者及び卒後の指導体制を整備しているか。		卒後も対策授業への参加はできるシステムがある。	卒業生に向けての指導体制システムの確立。	卒業生に対して、資格試験対策の情報提供を円滑にしていく。	
				記載責任者　職・氏名	学科長　　寺　本　敦　司	

11）整体セラピスト学科						
小項目	チェック項目	評定	現状の取組状況	課　　題	今後の改善方策	参考資料
3-11-2 資格・免許取得の指導体制はあるか。	資格・免許の取得について、指導体制を整備しているか。	3	整備している	最善であるか、改善方策への再検討が必要	担当教員との報連相	なし
	不合格者及び卒後の指導体制を整備しているか。		補講の実施	なし	なし	
				記載責任者　職・氏名	学科長　　蓑　田　のり子	

12）日本語学科						
小項目	チェック項目	評定	現状の取組状況	課　　題	今後の改善方策	参考資料
3-11-2 資格・免許取得の指導体制はあるか。	資格・免許の取得について、指導体制を整備しているか。	2	各種日本語試験対策授業を行っている。	レベル別の細かい対策ができていない。	レベルに合わせた対策授業を行う。	なし
	不合格者及び卒後の指導体制を整備しているか。		次回受験のための対策を行っている。	不合格者への弱点強化的な集中指導ができていない。	不合格原因となった部分を集中的に指導する体制を作る。	
				記載責任者　職・氏名	学科長　　阿　野　由利子	

３－11　資格・免許の取得の指導体制

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
学科ごとに取得目標とする資格・免許を明確に示した上で、当該資格取得を目標とした指導を授業の中に取り入れている。	

記載責任者　職・氏名	教務部長　　味　村　吉　浩

３－12　教員・教員組織

３－12－１

１）柔道整復学科（昼間部）

小項目	チェック項目	評定	現状の取組状況	課　　題	今後の改善方策	参考資料
3-12-1 資格・要件を備えた教員を確保しているか。	授業科目を担当するため、教員に求める能力・資質等を明確にしているか。	1	明確にはされていない。	教員個々の能力・資質に差が出ないか懸念される。	経験（実技含む）、能力、資質等を考慮してゆきたい。（内規を作成）	各種免許証
	授業科目を担当するため、教員に求める必要な資格等を明示し、確認しているか。		教員に必要な資格等は明示されている。	特になし。	現状でゆきたい。	
	教員の知識・技術・技能レベルは、関連業界等のレベルに適合しているか。		知識、技術レベルは関連業界レベルに適合している。	特になし。	なし。	
	教員採用等人材確保において、関連業界等と連携しているか。		採用人材の確保は関連業界（付属接骨院等）との連携がある。	教員希望人材に実技経験の少ない者がいる。	教員の人材確保では実技経験、向上心のある者を重要としていきたい。	
	教員の採用計画・配置計画を定めているか。		教員の採用、配置計画は随時必要において進	教員の真の能力を知るのは難しい問題であ	事実として教員として日々向上してもらう。	

			めていく。	る。		
	専任・兼任（非常勤）、年齢構成、男女比等など教員構成を明示しているか。		氏名と担当科目のみ明示している。	学生などへの情報量が少ない。	年齢、男女比率も明示していくようにしたい。	
	教員の募集、採用手続、昇格措置等について規程等で明確に定めているか。		募集、採用、昇格措置等については明確に定めていない。	募集、採用手続きは存在するが昇格措置規定は明確とは言えない。	規定として定める方向で検討したい	
	教員一人当たりの授業時数、学生数等を把握しているか。		教員一人当たりの授業時数、学生数等は把握されている。	特にない。	現状で行きたい。	
				記載責任者　職・氏名	学科長　　桑　野　幸　仁	

２）柔道整復学科（夜間部）

小項目	チェック項目	評定	現状の取組状況	課　　題	今後の改善方策	参考資料
3-12-1 資格・要件を備えた教員を確保しているか。	授業科目を担当するため、教員に求める能力・資質等を明確にしているか。	1	明確にしていない。	教員の能力・資質に差があり、教授内容にも差が出ることが懸念される。	内規を作成していく。	各種免許証
	授業科目を担当するため、教員に求める必要な資格等を明示し、確認しているか。		各種免許証の提出により、教授資格を確認している。	なし。	なし。	
	教員の知識・技術・技能レベルは、関連業界等のレベルに適合しているか。		学内だけでなく、学外への勉強会に参加し、更なる知識・技術向上に努めている。	なし。	なし。	
	教員採用等人材確保において、関連業界等と連携しているか。		関連業界と連携をとり、情報提供を得ている。	なし。	なし。	
	教員の採用計画・配置計画を定めているか。		定めていない。	なし。	必要に応じて策定する。	
	専任・兼任（非常勤）、年		氏名と担当科目のみ明	学生など第三者への情	年齢、男女比等も明示	

	齢構成、男女比等など教員構成を明示しているか。		示している。	報量が少ない。	していく。	
	教員の募集、採用手続、昇格措置等について規程等で明確に定めているか。		定めていない。	学科（現場）と人事部との認識の差がある。	内規を作成していく。	
	教員一人当たりの授業時数、学生数等を把握しているか。		定めていない。	なし。	なし。	
				記載責任者　職・氏名	学科長　　桑　野　幸　仁	

３）鍼灸学科（昼間部）						
小項目	チェック項目	評定	現状の取組状況	課　　題	今後の改善方策	参考資料
3-12-1 資格・要件を備えた教員を確保しているか。	授業科目を担当するため、教員に求める能力・資質等を明確にしているか。	2	担当科目を決定する前に面談を実施し、希望や得手不得手を考慮し、決定している。	同一科目を得意とする教員が重なる場合がある。	教員数を増やす。	
	授業科目を担当するため、教員に求める必要な資格等を明示し、確認しているか。		採用時に免許のコピーや履歴書を確認している。	なし	なし	
	教員の知識・技術・技能レベルは、関連業界等のレベルに適合しているか。		不明。		授業の聴講。	
	教員採用等人材確保において、関連業界等と連携しているか。		していない。	人材確保に関し、業界の方と話などをしたことがない。	業界の方と話をする機会などを設ける。	
	教員の採用計画・配置計画を定めているか。		定めていない。			
	専任・兼任（非常勤）、年齢構成、男女比等など教員構成を明示しているか。		していない。			

	教員の募集、採用手続、昇格措置等について規程等で明確に定めているか。		定めていない。			
	教員一人当たりの授業時数、学生数等を把握しているか。		時間割や学事日程を組む上で確認、把握している。	なし	なし	
				記載責任者　職・氏名	学科長　　堀之内　貴　一	

4）スポーツ鍼灸学科						
小項目	チェック項目	評定	現状の取組状況	課　　題	今後の改善方策	参考資料
3-12-1 資格・要件を備えた教員を確保しているか。	授業科目を担当するため、教員に求める能力・資質等を明確にしているか。	2	担当科目を決定する前に面談を実施し、希望や得手不得手を考慮し、決定している。	同一科目を得意とする教員が重なる場合がある。	教員数を増やす。	
	授業科目を担当するため、教員に求める必要な資格等を明示し、確認しているか。		採用時に免許のコピーや履歴書を確認している。	なし	なし	
	教員の知識・技術・技能レベルは、関連業界等のレベルに適合しているか。		学科内でそれぞれの教員の得手不得手は把握している	業界のレベルが不明確	授業聴講を得て、業界のレベルを把握していく。	
	教員採用等人材確保において、関連業界等と連携しているか。		していない。	人材確保に関し、業界の方と話などをしたことがない。	業界の方と話をする機会などを設ける。	
	教員の採用計画・配置計画を定めているか。		定めていない。	年間計画も踏まえて事前に必要となる採用数を把握する	年間計画も踏まえて事前に必要となる採用数を把握する	
	専任・兼任（非常勤）、年齢構成、男女比等など教員構成を明示しているか。		していない。	採用基準を明確にする	採用基準を明確する	
	教員の募集、採用手続、昇格措置等について規		定めていない。	採用基準を明確にする	採用基準を明確する	

	程等で明確に定めているか。					
	教員一人当たりの授業時数、学生数等を把握しているか。		時間割や学事日程を組む上で確認、把握している。	なし	なし	
				記載責任者　職・氏名	学科長　　松　波　　賢	

５）理学療法学科

小項目	チェック項目	評定	現状の取組状況	課　　題	今後の改善方策	参考資料
3-12-1 資格・要件を備えた教員を確保しているか。	授業科目を担当するため、教員に求める能力・資質等を明確にしているか。	4	担当予定の教員の専門性と授業科目の内容とを照合したうえで教育に関心の高い人材を登用している	教員の理学療法士以外の資格の明確化	教員名簿の整理	
	授業科目を担当するため、教員に求める必要な資格等を明示し、確認しているか。		担当予定の教員の専門性と授業科目の内容とを照合し，必要な資格等については免許証の写し等の提出をしてもらっている．	教員の理学療法士以外の資格の明確化	教員名簿の整理	
	教員の知識・技術・技能レベルは、関連業界等のレベルに適合しているか。		適合している	なし	なし	
	教員採用等人材確保において、関連業界等と連携しているか。		連携している	なし	なし	
	教員の採用計画・配置計画を定めているか。		法律に定められている専任教員数を確保している．	なし	なし	
	専任・兼任（非常勤）、年齢構成、男女比等など教員構成を明示しているか。		シラバスを通して明示している．	なし	教員名簿の整理	
	教員の募集、採用手続、		理学療法学科としては	なし	なし	

	昇格措置等について規程等で明確に定めているか。		この件については対処していない．法人本部の範疇となる．			
	教員一人当たりの授業時数、学生数等を把握しているか。		把握している	なし	なし	
				記載責任者　職・氏名	学科長　　永　野　　忍	

６）作業療法学科						
小項目	チェック項目	評定	現状の取組状況	課　　題	今後の改善方策	参考資料
3-12-1 資格・要件を備えた教員を確保しているか。	授業科目を担当するため、教員に求める能力・資質等を明確にしているか。	2	教員に求める資格・要件である専門性や技術・技能を高めるため、理学療法士作業療法士言語聴覚士養成施設等教員講習会講習会を修了し、未修了の教員を計画的に受講する計画立案あり。国家資格・免許取得を目標とする学科なので、授業を担当する要件としての当該資格や関連資格を有する義務は確保できている。	教員講習会未修了の教員がいる。	年 1 回の研修へ計画的に参加し、全教員が終了することを計画。	なし
	授業科目を担当するため、教員に求める必要な資格等を明示し、確認しているか。		授業科目に求められる資格等を年度ごとに策定し、明示している。	教員に求める必要資格の明示が不十分。 授業科目に求められる資格取得以外にも専門分野の学術研鑽や授業を通じて学生の人間性を涵養する経験不足の課題あり。	学科内での協議を定期的に実施し、アドミッションポリシーやカリキュラムポリシー、ディプロマポリシーの意識化を図り、教員の質の向上や保持につとめ、より良い最適な教育ができるよう計画する。	

	教員の知識・技術・技能レベルは、関連業界等のレベルに適合しているか。		医療人に求められるカリキュラムポリシー及びディプロマポリシーの以外にも専門分野の学術研鑽や授業を通じ経験を積んでいる。	資格以外の要件に該当する個別性の課題。 授業経験のない教員が多く、2年次以降の授業科目についての情報収集や取り組みの構築化が不十分。	個別性の課題が解決できない場合の対策について、学科以外の学校全体での規定など協議する。 警官がある教員の指導を徹底し、また教務部との連携を構築化し、学生が不利益が生じないように協議する。	
	教員採用等人材確保において、関連業界等と連携しているか。		日本作業療法士協会及び福岡県作業療法協会との情報交換の構築化及び連携している。	教員採用手続きは、規程等で明確化し適切に運用していると思われるが、内容を把握していない。 教員は専任・兼任（非常勤）の配分についての設置基準等に基づき適切に採用を実施していると思われるが、内容を把握していない。	教員採用に関係する教務部との連携や計画的後方の取り組みや、臨時的に発生した教員採用による計画の進め方を関係機関で協議する。	
	教員の採用計画・配置計画を定めているか。		H30 年度内に、2 名採用計画あり。中途での採用や配置について、計画的遂行はできている。採用前の配置計画についても、担当科目の準備及び実施できる体制や受け入れる教員の（時間割調整など）、新人教育の計画も準備している。	教員一人あたりの授業時数を考慮して、人事配置を心掛けているが、教務以外の教員が把握できていない。 また作業療法学科教員の定数基準に合わせた計画的導入時期や選出に基準が不明瞭であり、学校間での連携が確立していない課題あり。 全国的に発達障害分野に携わる有資格者が少ないことや、発達障害を専門とした教員が少	学科内での協議を年度前に定期的に実施し、教員間でのバランスも含め試行する。 非常勤講師の確保に向けた取り組みの強化が必要。	

				ないことで、専門的に臨床で評価や治療で携わった教員が不在。 個人の教員経験の有無や取り組みへの意識の差異により配置ができない課題あり。		
	専任・兼任（非常勤）、年齢構成、男女比等など教員構成を明示しているか。		校舎内に教員構成を明示する掲示はない。	学生に対して、新入生オリエンテーション時の教員紹介のみで、教務室に教員氏名の掲示もない。 教務室入口（廊下側）などに学生や来校者が教員を把握できるように明示する検討が必要。 また、現在の教員の平均年齢は、44.25 歳。30～50 歳代の男性で構成。OT 経験年数は基準をクリア。H30 年度に女性教員 1 名配置予定。が勤務予定が計画的に遂行。教育経験が、10 年以上は 1 名。他の教員は、2 年未満。	学校で統一した教員名の掲示の仕方など取り決めの統一性が必要。	
	教員の募集、採用手続、昇格措置等について規程等で明確に定めているか。		学科内での明確な定めについて把握していない。			
	教員一人当たりの授業時数、学生数等を把握しているか。		年度ごとに担当科目及び教員配置を計画的に作成。現状把握と学科全体での平均時間の確認を実施。学生数に対する教員配置も授業内	H29 年度は 1 期生のみで、H30 年度より 2 期生も含め授業を展開することで、教員の個人の力量などでの授業や業務のバランスを調整	学科内で協議。	

			容を検討。	する必要がある。		
				記載責任者　職・氏名	学科教員　　中　山　　仁	

7）看護学科

小項目	チェック項目	評定	現状の取組状況	課　　題	今後の改善方策	参考資料
3-12-1 資格・要件を備えた教員を確保しているか。	授業科目を担当するため、教員に求める能力・資質等を明確にしているか。	3	臨床経験や教育経験を踏まえて、授業科目の担当を決定している。	臨床・教育経験等を考慮して科目担当や時間数を決定するため、業務量の差が激しい。	新人教員に対する教育の充実を図る。	
	授業科目を担当するため、教員に求める必要な資格等を明示し、確認しているか。		授業担当を決定する際には、各教員の力量を考慮することと本人の意向を取り入れている。	授業のねらいと実際の授業内容が合致しているのか、確認する必要がある。	授業評価を行う必要がある。	
	教員の知識・技術・技能レベルは、関連業界等のレベルに適合しているか。		実習指導者会議や関連部署との会議を通して、関連業界等のレベルについて情報収集している。	教員の知識・技術・技能を先ず、確認する必要がある。	授業評価を通して、レベルの確認を図る。	
	教員採用等人材確保において、関連業界等と連携しているか。		教員採用については、特に連携していない。	教員採用について、関連業界に働き掛ける。	関連業界との連携を深める。	
	教員の採用計画・配置計画を定めているか。		教員数が不足していることから、年間を通して、採用に努めている。	実習指導専任の教員確保の必要性	関連業界と連携を深め、採用計画に協力を求める。	
	専任・兼任（非常勤）、年齢構成、男女比等など教員構成を明示しているか。		年齢構成、男女比等の教員構成は明示していない。	40代、50代の教員がほとんどで、若い教員が少ない。	年代別に教員を補充したい。	
	教員の募集、採用手続、昇格措置等について規程等で明確に定めているか。		今年度、評価基準が作成される予定。	教員の能力の評価方法の作成	未定	
	教員一人当たりの授業時数、学生数等を把握し		授業計画立案にあたり、担当授業・時間数分	教員一人当たりの授業時数を、できるだけ公	今年度の状況を踏まえて、授業時間の公平化	

	ているか。		担内容を把握している。	平にしたい。	を図る。	
				記載責任者　職・氏名	学科長　　村　山　由起子	

８）歯科衛生学科						
小項目	チェック項目	評定	現状の取組状況	課　　題	今後の改善方策	参考資料
3-12-1 資格・要件を備えた教員を確保しているか。	授業科目を担当するため、教員に求める能力・資質等を明確にしているか。	4	明確にしている	特になし	特になし	
	授業科目を担当するため、教員に求める必要な資格等を明示し、確認しているか。		明確にしている	特になし	特になし	
	教員の知識・技術・技能レベルは、関連業界等のレベルに適合しているか。		適合している	特になし	特になし	
	教員採用等人材確保において、関連業界等と連携しているか。		連携している	特になし	特になし	
	教員の採用計画・配置計画を定めているか。		特になし	特になし	特になし	
	専任・兼任（非常勤）、年齢構成、男女比等など教員構成を明示しているか。		特になし	特になし	特になし	
	教員の募集、採用手続、昇格措置等について規程等で明確に定めているか。		定めているかを知らない	特になし	特になし	
	教員一人当たりの授業時数、学生数等を把握しているか。		している	特になし	特になし	

	記載責任者　職・氏名	学科長　　藤　　幸　枝

９）生涯スポーツトレーナー介護福祉学科

小項目	チェック項目	評定	現状の取組状況	課　　題	今後の改善方策	参考資料
3-12-1 資格・要件を備えた教員を確保しているか。	授業科目を担当するため、教員に求める能力・資質等を明確にしているか。	2	教員任用の条件は指定規則で決められているが、教員の資質にはさがある。	教員が専門教育に必要な充分な資質を持つこと。	専門領域に対する研究や研修に取り組むなど、養成に必要な知識や技術に責任を持つ。	指定養成規則
	授業科目を担当するため、教員に求める必要な資格等を明示し、確認しているか。		それぞれの専門領域を持つ教員資格が認可条件として決められている。又報告義務がある。	必要条件があるが十分条件ではない。	研究や研修、レポートを課すなど一定の成果を求める。	
	教員の知識・技術・技能レベルは、関連業界等のレベルに適合しているか。		教員条件を満たしていても知識、技術、技能レベルは教員によって差がある。	教員のレベルを上げること。	研修の機会を増やしたり、公開授業を行うなど教員の資質を上げる。	
	教員採用等人材確保において、関連業界等と連携しているか。		人材確保にあたっては、職能団体の推薦を受けることがある。	特になし	特になし	
	教員の採用計画・配置計画を定めているか。		必要な教員数、教育分野は指針によって決められている。	特になし	特になし	
	専任・兼任（非常勤）、年齢構成、男女比等など教員構成を明示しているか。		指定規則に基づく報告書には明示している。	特になし	特になし	
	教員の募集、採用手続、昇格措置等について規程等で明確に定めているか。		特になし	特になし	特になし	
	教員一人当たりの授業時数、学生数等を把握しているか。		把握している。	専門領域によって担当時間にさがある。	特になし	

	記載責任者　職・氏名	学科長　　井　上　由紀子

10）アスレティックリハビリテーション・スポーツトレーナー学科						
小項目	チェック項目	評定	現状の取組状況	課　　題	今後の改善方策	参考資料
3-12-1 資格・要件を備えた教員を確保しているか。	授業科目を担当するため、教員に求める能力・資質等を明確にしているか。	3	各資格認定団体が示す、教員要件をクリアしている教員が在職している。	特になし。	特になし。	なし
	授業科目を担当するため、教員に求める必要な資格等を明示し、確認しているか。		日本スポーツ協会の課程認定校継続が年 1 回あり、その際に教員要件の確認をしている。	特になし。	特になし。	
	教員の知識・技術・技能レベルは、関連業界等のレベルに適合しているか。		適合している。	特になし。	特になし。	
	教員採用等人材確保において、関連業界等と連携しているか。		関連業界との連携はなされていない。	人材確保が難しい場合が、ある。	非常勤講師からの推薦、インターネットによる公募方法を検討していく。	
	教員の採用計画・配置計画を定めているか。		特になし。	特になし。	特になし。	
	専任・兼任（非常勤）、年齢構成、男女比等など教員構成を明示しているか。		明示していない。	若手で現場経験豊富なトレーナーの確保が難しい。	トレーナー活動との両立できるような雇用を確立する。	
	教員の募集、採用手続、昇格措置等について規程等で明確に定めているか。		特になし。	特になし。	特になし。	
	教員一人当たりの授業時数、学生数等を把握しているか。		把握している。	特になし。	特になし。	
				記載責任者　職・氏名	学科長　　寺　本　敦　司	

11）整体セラピスト学科

小項目	チェック項目	評定	現状の取組状況	課　　題	今後の改善方策	参考資料
3-12-1 資格・要件を備えた教員を確保しているか。	授業科目を担当するため、教員に求める能力・資質等を明確にしているか。	3	明確である	なし	なし	なし
	授業科目を担当するため、教員に求める必要な資格等を明示し、確認しているか。		確認している	なし	なし	
	教員の知識・技術・技能レベルは、関連業界等のレベルに適合しているか。		適合している	なし	なし	
	教員採用等人材確保において、関連業界等と連携しているか。		連携している	なし	なし	
	教員の採用計画・配置計画を定めているか。		定めている	なし	なし	
	専任・兼任（非常勤）、年齢構成、男女比等など教員構成を明示しているか。		していない			
	教員の募集、採用手続、昇格措置等について規程等で明確に定めているか。		なし	なし	なし	
	教員一人当たりの授業時数、学生数等を把握しているか。		把握している	なし	なし	
				記載責任者　職・氏名	学科長　　蓑　田　のり子	

12）日本語学科

小項目	チェック項目	評定	現状の取組状況	課　　題	今後の改善方策	参考資料

3-12-1 資格・要件を備えた教員を確保しているか。	授業科目を担当するため、教員に求める能力・資質等を明確にしているか。	3	日本語教師養成講座履修、日本語教育能力検定の有無を確認。	なし	なし	なし
	授業科目を担当するため、教員に求める必要な資格等を明示し、確認しているか。		該当しない			
	教員の知識・技術・技能レベルは、関連業界等のレベルに適合しているか。		経験年数による違いはあるがほぼ適合している。	知識・技能のチェックが十分ではない。	各教員の技能を確認し、レベルアップのための指導を行う。	
	教員採用等人材確保において、関連業界等と連携しているか。		該当しない			
	教員の採用計画・配置計画を定めているか。		該当しない			
	専任・兼任（非常勤）、年齢構成、男女比等など教員構成を明示しているか。		該当しない			
	教員の募集、採用手続、昇格措置等について規程等で明確に定めているか。		該当しない			
	教員一人当たりの授業時数、学生数等を把握しているか。		把握している	なし	なし	
				記載責任者　職・氏名	学科長　　阿　野　由利子	

３－12－２

１）柔道整復学科（昼間部）

小項目	チェック項目	評定	現状の取組状況	課　　題	今後の改善方策	参考資料

3-12-2 教員の資質向上への取組みを行っているか。	教員の専門性、教授力を把握・評価しているか。	3	授業評価アンケートを基に評価している。	特になし。	特になし。	
	教員の資質向上のための研修計画を定め、適切に運用しているか。		特に計画を定めていない。	特になし。	研修計画を定める。	
	関連業界等との連携による教員の研修・研究に取組んでいるか。		関連業界等から講師を招き、教員研修を行っている。	特になし。	特になし。	
	教員の研究活動・自己啓発への支援など教員のキャリア開発を支援しているか。		特に行っていない。	特になし。	今後検討する。	
				記載責任者　職・氏名	学科長　　桑　野　幸　仁	

２）柔道整復学科（夜間部）

小項目	チェック項目	評定	現状の取組状況	課　　題	今後の改善方策	参考資料
3-12-2 教員の資質向上への取組みを行っているか。	教員の専門性、教授力を把握・評価しているか。	3	授業評価アンケートを基に評価している。	特になし。	特になし。	
	教員の資質向上のための研修計画を定め、適切に運用しているか。		特に計画を定めていない。	特になし。	研修計画を定める。	
	関連業界等との連携による教員の研修・研究に取組んでいるか。		関連業界等から講師を招き、教員研修を行っている。	特になし。	特になし。	
	教員の研究活動・自己啓発への支援など教員のキャリア開発を支援しているか。		特に行っていない。	特になし。	今後検討する。	
				記載責任者　職・氏名	学科長　　桑　野　幸　仁	

３）鍼灸学科（昼間部）

小項目	チェック項目	評定	現状の取組状況	課　　題	今後の改善方策	参考資料
3-12-2	教員の専門性、教授力を	2	学生評価を基に面談等	学生からの評価しかな	教員間の評価制度を設	

教員の資質向上への取組みを行っているか。	把握・評価しているか。		を行っている。	い。	ける。	
	教員の資質向上のための研修計画を定め、適切に運用しているか。		研修会に参加する教員もいるが少ない。	学事日程の関係上参加できないことがある。	年間で研修に参加できるよう計画を組む。	
	関連業界等との連携による教員の研修・研究に取組んでいるか。		毎年、複数の教員が学会に参加し、資質向上に努めている。	なし	なし	
	教員の研究活動・自己啓発への支援など教員のキャリア開発を支援しているか。		年に数回、自己啓発セミナーなどに参加している。	日程等と参加人数、学事日程の関係上参加できないことが多い。	参加できるように計画を組む。	
				記載責任者　職・氏名	学科長　　堀之内　貴　一	

4）スポーツ鍼灸学科						
小項目	チェック項目	評定	現状の取組状況	課　　題	今後の改善方策	参考資料
3-12-2 教員の資質向上への取組みを行っているか。	教員の専門性、教授力を把握・評価しているか。	2	学生評価を基に面談等を行っている。	学生からの評価しかない。	教員間の評価制度を設ける。	
	教員の資質向上のための研修計画を定め、適切に運用しているか。		研修会に参加する教員もいるが少ない。	学事日程の関係上参加できないことがある。	年間で研修に参加できるよう計画を組む。	
	関連業界等との連携による教員の研修・研究に取組んでいるか。		毎年、複数の教員が学会に参加し、資質向上に努めている。	なし	なし	
	教員の研究活動・自己啓発への支援など教員のキャリア開発を支援しているか。		年に数回、自己啓発セミナーなどに参加している。	日程等と参加人数、学事日程の関係上参加できないことが多い。	参加できるように計画を組む。	
				記載責任者　職・氏名	学科長　　松　波　　賢	

5）理学療法学科						
小項目	チェック項目	評定	現状の取組状況	課　　題	今後の改善方策	参考資料
3-12-2 教員の資質向上への取	教員の専門性、教授力を把握・評価しているか。	3	授業終了時に授業評価を行っている	なし	なし	

組みを行っているか。	教員の資質向上のための研修計画を定め、適切に運用しているか。		関連業界にて行われている研修会へ参加している	なし	なし	
	関連業界等との連携による教員の研修・研究に取組んでいるか。		研修へ参加している	研究への取り組み	研究計画書の作成を行う	
	教員の研究活動・自己啓発への支援など教員のキャリア開発を支援しているか。		研修へ参加している	研究への取り組み	研究計画書の作成を行う	
				記載責任者　職・氏名	学科長　　永　野　　忍	

６）作業療法学科

小項目	チェック項目	評定	現状の取組状況	課　　題	今後の改善方策	参考資料
3-12-2 教員の資質向上への取組みを行っているか。	教員の専門性、教授力を把握・評価しているか。	2	授業担当及び業務分掌を作成・実施。 教員の専門性について、教員が各々で関連業界等での実務を経験し、教員になってからも専門的な分野の情報収集に取り組み、最新の知識や技術ができるように積極的に実施。 客観的な評価として、学生による授業評価のみ。 教員の専門性を向上させるための現状の能力等を適切に評価する指標がなく、改善することが明確であり、その点を明確にした上で、対象となる教員へ指導しても改善できない課	学科内での客観的な指標はなく、学校全体での取り組みである学生からの授業評価の共有化があるが、学生からの意見などは各々で管理し、情報共有できていない。 実際の教育経験が１年未満である教員が多いため、経験者による指導や校務分掌に基づいた学科内全体で支援する体制づくりを求めても、コミュニケーションにおける問題などあり、適正などの評価が必要。	学科内で統一した課題への取り組みに関して、情報共有し、指導や校務分掌に基づいた業務の遂行などの改善と、学科内全体で支援する体制づくりが必要。	なし

			題あり。 適宜研修等による育成については、学科行事を踏まえ、計画的に遂行できるよう学科長からの指示あり。 教員の教授力（インストラクションスキル）について、学科全体の取り組みの意識が不十分で、H29 年度実施した授業観察を、今後も積極的に取り入れ、他学科からの意見を取り入れる体制が求まられる現状。			
	教員の資質向上のための研修計画を定め、適切に運用しているか。		H29 年度は、各々で必要である研修を選択し、参加。	授業や学校行事の運営についての意識が、個人によって差異があることで、学校不在になることによる他教員の業務負担がある。	今後も、教員の専門性の質が低下しないように、研修内容について情報を共有し、計画的に配慮する必要がある。	
	関連業界等との連携による教員の研修・研究に取組んでいるか。		ディプロマポリシーが意識化され、教員ごとに実践的な職業教育機関との連携を実施。	優先的に誰が教員研修に参加するかという基準はない。	実務経験を基盤とした専門性に優れた教員の資質の向上を目的に、学科全体で関連業界等との連携を積極的に行うことを継続する。	
	教員の研究活動・自己啓発への支援など教員のキャリア開発を支援しているか。		年間 1 回の研修参加について、学校からの補助が確立されている。 授業変更などにより、学生への影響として不利益にならないよう取り組む。	H29 年度に研修に参加するできた教員とできなかった教員の差がある。平均した回数は、年間 2 回以上あり、不定期であることから、個人の判断で研修参加を計画し、実施する事に	教員は、学生の授業に影響がないことを計画的に準備し、事前に他の教員への相談を兼ねて出張などの計画を立てるシステムの構築する必要あり。	

				よって伴う、業務の不履行や連絡ができていないことでの調整に時間が終われるといったコミュニケーションの課題などあり。相談シートや稟議書申請に時間を要すこと。		
				記載責任者　職・氏名	学科教員　　中　山　　仁	

7）看護学科

小項目	チェック項目	評定	現状の取組状況	課　　題	今後の改善方策	参考資料
3-12-2 教員の資質向上への取組みを行っているか。	教員の専門性、教授力を把握・評価しているか。	2	年に 1 回、学生の授業アンケートが行われている。	教員の力量を把握し評価する必要性がある。	定期的な面談と、教員による授業評価に取り組む。	
	教員の資質向上のための研修計画を定め、適切に運用しているか。		新人教員については、教員養成講習会の研修計画を定めている。	毎年、1～2 名の教員を受講させる。	今年度 1 名受講、継続させる。	
	関連業界等との連携による教員の研修・研究に取組んでいるか。		教員の自発的な取り組みはない。	教員の教育内容について、具体的に評価する必要がある。	領域ごとの研修や研究活動を活発に行う。	
	教員の研究活動・自己啓発への支援など教員のキャリア開発を支援しているか。		看護系の学会への 1 回／年の発表及び参加の奨励。	教員の自己啓発・研究活動を支援する必要がある。	教員全員が各自の領域に関連する研修・研究に取り組む。	
				記載責任者　職・氏名	学科長　　村山由起子	

8）歯科衛生学科

小項目	チェック項目	評定	現状の取組状況	課　　題	今後の改善方策	参考資料
3-12-2 教員の資質向上への取組みを行っているか。	教員の専門性、教授力を把握・評価しているか。	3	特になし	特になし	特になし	特になし
	教員の資質向上のための研修計画を定め、適切		している	特になし	特になし	

	に運用しているか。					
	関連業界等との連携による教員の研修･研究に取組んでいるか。		取り組んでいる	特になし	特になし	
	教員の研究活動･自己啓発への支援など教員のキャリア開発を支援しているか。		特になし	特になし	特になし	
				記載責任者　職・氏名	学科長　　藤　　幸　枝	

9）生涯スポーツトレーナー介護福祉学科						
小項目	チェック項目	評定	現状の取組状況	課　　題	今後の改善方策	参考資料
3-12-2 教員の資質向上への取組みを行っているか。	教員の専門性、教授力を把握・評価しているか。	3	授業参観や学生の評価などから把握している。	評価方法などの基準がない。	学科全員で検討する。	特になし
	教員の資質向上のための研修計画を定め、適切に運用しているか。		開設年度であるために、計画通りに実施できなかった。	研修時間の確保	完成年度を踏まえて計画を立てる。	
	関連業界等との連携による教員の研修･研究に取組んでいるか。		介護福祉士養成施設協会や介護福祉士会などとの研修機会をもっている。	授業や実習に重なると教員の参加が難しくなる。	完成年度を踏まえて実施体制を整える。	
	教員の研究活動･自己啓発への支援など教員のキャリア開発を支援しているか。		研修や研究会、学会などの情報を提供したり、関連する知識や情報を提供している。	教員によって関心に差がある。	教員が主体的に行う活動を支援する。	
				記載責任者　職・氏名	学科長　　井　上　由紀子	

10）アスレティックリハビリテーション・スポーツトレーナー学科						
小項目	チェック項目	評定	現状の取組状況	課　　題	今後の改善方策	参考資料
3-12-3 教員の組織体制を整備しているか。	分野毎に必要な教員組織体制を整備しているか。	3	業務分掌を作成し、担当業務を明確にしている。	特になし。	特になし。	学科業務分掌

	教員組織における業務分担・責任体制は、規程等で明確に定めているか。		規定などで明確には定めていない。	職場規定との連携が必要となる。	職場規律をもとに規程の作成が必要である。	
	学科毎に授業科目担当教員間で連携・協力体制を構築しているか。		資格試験ごとに担当者がおり、試験対策のコーディネートをしている。	各教員間での連携が必要である。	学科会議を利用して打ち合わせをしていく。	
	授業内容・教育方法の改善に関する組織的な取組があるか。		学科教員内で模擬授業を実施している。	模擬授業を実施する時間の確保が難しい。	事前に計画立案をして、その時間確保を心がけていく。	
	専任・兼任（非常勤）教員間の連携・協力体制を構築しているか。		専任と兼任の教員間で学生情報の共有はしている。	定期的に情報共有する機会を設けることが難しい。	担当者制度を設け、兼任講師との情報共有に努める。	
				記載責任者　職・氏名	学科長　　寺　本　敦　司	

11）整体セラピスト学科

小項目	チェック項目	評定	現状の取組状況	課　　題	今後の改善方策	参考資料
3-12-2 教員の資質向上への取組みを行っているか。	教員の専門性、教授力を把握・評価しているか。	3	している	なし		
	教員の資質向上のための研修計画を定め、適切に運用しているか。		していない	なし	なし	
	関連業界等との連携による教員の研修・研究に取組んでいるか。		している	なし	なし	
	教員の研究活動・自己啓発への支援など教員のキャリア開発を支援しているか。		している	なし	なし	
				記載責任者　職・氏名	学科長　　蓑　田　のり子	

12）日本語学科

小項目	チェック項目	評定	現状の取組状況	課　　題	今後の改善方策	参考資料
3-12-2 教員の資質向上への取組みを行っているか。	教員の専門性、教授力を把握・評価しているか。	3	詳細の評価は行っていない。	各教員の教授力の把握が不足。	定期的な授業評価を行う。	なし
	教員の資質向上のための研修計画を定め、適切に運用しているか。		自己啓発研修へ参加している。	なし		
	関連業界等との連携による教員の研修・研究に取組んでいるか。		外部の情報を収集し、研修に積極的に参加するようにしている。	なし		
	教員の研究活動・自己啓発への支援など教員のキャリア開発を支援しているか。		研究活動への参加を促している。	研究、自己啓発への意識があまり高くない。	研究活動、発表ができる環境を作る。	
				記載責任者　職・氏名	学科長　　阿　野　由利子	

３－12－３

１）柔道整復学科（昼間部）

小項目	チェック項目	評定	現状の取組状況	課　　題	今後の改善方策	参考資料
3-12-3 教員の組織体制を整備しているか。	分野毎に必要な教員組織体制を整備しているか。	3	分野毎の必要な教員組織体制は整備されている。	特にない	なし	組織図 時間割
	教員組織における業務分担・責任体制は、規程等で明確に定めているか。		教員組織における業務分担は明確に定めている	特になし。	課題を解決するため規程として定める必要がある。	
	学科毎に授業科目担当教員間で連携・協力体制を構築しているか。		協力体制は構築されている。	特になし。	特になし。	
	授業内容・教育方法の改善に関する組織的な取組があるか。		授業、教育方法の改善は、学科での模擬授業を行いそれを評価する取り組みがある。	現状通り行っていきたい。	特になし。	

	専任・兼任（非常勤）教員間の連携・協力体制を構築しているか。		教員間の連携、協力体制は構築されている。	特になし	特になし。	
				記載責任者　職・氏名	学科長　　桑　野　幸　仁	

２）柔道整復学科（夜間部）

小項目	チェック項目	評定	現状の取組状況	課　　題	今後の改善方策	参考資料
3-12-3 教員の組織体制を整備しているか。	分野毎に必要な教員組織体制を整備しているか。	3	整備している。	なし。	なし。	組織図 時間割
	教員組織における業務分担・責任体制は、規程等で明確に定めているか。		規定は無いが、学科長以下指示系統を明確にして動いている。	なし。	内規を作成していく。	
	学科毎に授業科目担当教員間で連携・協力体制を構築しているか。		実技科目は 2 人で授業に入るなど、協力体制をとっている。	なし。	なし。	
	授業内容・教育方法の改善に関する組織的な取組があるか。		学科で模擬授業を行い、改善点などを議論している。	なし。	なし。	
	専任・兼任（非常勤）教員間の連携・協力体制を構築しているか。		教員間で連携をとり講義の進捗状況や学生の様子を確認している。	なし。	なし。	
				記載責任者　職・氏名	学科長　　桑　野　幸　仁	

３）鍼灸学科（昼間部）

小項目	チェック項目	評定	現状の取組状況	課　　題	今後の改善方策	参考資料
3-12-3 教員の組織体制を整備しているか。	分野毎に必要な教員組織体制を整備しているか。	2	ある程度分野毎に組織化しているが明確ではない。	明確な組織化。	明確な組織化を図るために会議等を実施する。	
	教員組織における業務分担・責任体制は、規程等で明確に定めている		分担等できてはいるが明確ではない。		職務分掌図を作成し、明確に定める。	

	か。					
	学科毎に授業科目担当教員間で連携･協力体制を構築しているか。		連携は取れているがどの程度なのは不明。		定期的に会議・確認を行う。	
	授業内容･教育方法の改善に関する組織的な取組があるか。		なし。	組織ができていない。	授業内容や教育方法の改善に関する組織化を図る。	
	専任・兼任（非常勤）教員間の連携・協力体制を構築しているか。		構築している。	なし	なし	
				記載責任者　職・氏名	学科長　　堀之内　貴　一	

４）スポーツ鍼灸学科						
小項目	チェック項目	評定	現状の取組状況	課　　題	今後の改善方策	参考資料
3-12-3 教員の組織体制を整備しているか。	分野毎に必要な教員組織体制を整備しているか。	2	組織化するまでに至らず、個人の力に頼っているのが多い	明確な組織化。	明確な組織化を図るために会議等を実施する。	
	教員組織における業務分担・責任体制は、規程等で明確に定めているか。		分担等できてはいるがまだシステム化まで至らない。	工程などマニュアル化が必要	職務分掌図を作成し、明確に定める。	
	学科毎に授業科目担当教員間で連携･協力体制を構築しているか。		連携は取れているがどの程度なのは不明。	連携の取り方が不明確	年度末に検討会を行う。	
	授業内容･教育方法の改善に関する組織的な取組があるか。		なし。	組織ができていない。	授業内容や教育方法の改善に関する組織化を図る。	
	専任・兼任（非常勤）教員間の連携・協力体制を構築しているか。		協力体制はできている。	協力体制もさらに向上して、より良いものに作り上げる必要がある	協力体制もさらに向上して、より良いものに作り上げる必要がある	
				記載責任者　職・氏名	学科長　　松　波　　賢	

５）理学療法学科

小項目	チェック項目	評定	現状の取組状況	課　　題	今後の改善方策	参考資料
3-12-3 教員の組織体制を整備しているか。	分野毎に必要な教員組織体制を整備しているか。	3	各種分野において委員会設置を行っている	なし	なし	
	教員組織における業務分担・責任体制は、規程等で明確に定めているか。		業務分掌にて明確にしている	なし	なし	
	学科毎に授業科目担当教員間で連携･協力体制を構築しているか。		年度前に次年度の授業シラバスを供覧し，関連の深い科目の担当教員間での教授内容の再確認等を行っている	なし	なし	
	授業内容･教育方法の改善に関する組織的な取組があるか。		授業評価をもとに教員へフィードバックを行っている	フィードバック後の検証	教員への意識調査を行う	
	専任・兼任（非常勤）教員間の連携・協力体制を構築しているか。		年度前に次年度の授業シラバスを供覧し，関連の深い科目の担当教員間での教授内容の再確認等を行っている.	なし	なし	
				記載責任者　職・氏名	学科長補佐　　永　野　　忍	

６）作業療法学科

小項目	チェック項目	評定	現状の取組状況	課　　題	今後の改善方策	参考資料
3-12-3 教員の組織体制を整備しているか。	分野毎に必要な教員組織体制を整備しているか。	2	区分ごとに教育上の基本組織を配置。	組織体制を遂行できない教員が存在する。	学科全体で協議し、必要であれば、学校全体で検討していく。	
	教員組織における業務分担・責任体制は、規程等で明確に定めているか。		業務分担や責任体制を規程等に明確に定めている。	組織体制を遂行できない教員が存在する。	学科全体で協議し、必要であれば、学校全体で検討していく。	
	学科毎に授業科目担当教員間で連携･協力体制		学科長を中心とした教育及び管理運営面で、	授業科目を遂行できない教員が存在する。	学科全体で協議し、必要であれば、学校全体	

	を構築しているか。		他の教職員と協力し、教育の質を高める努力をしている。		で検討していく。 学科内で、授業科目担当間の変更に対しても学科教務を準備し、連携・協力体制を構築。	
	授業内容･教育方法の改善に関する組織的な取組があるか。		授業内容・教育方法の改善に関する組織的な取組は不十分。	教育経験がある教員からの個別指導により授業内容や教育方法について改善を試みるが、職員間のコミュニケーション不足がある。	学科全体で協議し、必要であれば、学校全体で検討していく。	
	専任・兼任（非常勤）教員間の連携・協力体制を構築しているか。		専任教員間の連携及び兼任は現段階で調整できている。非常勤教員との連携体制も、担当者との間では構築できている。 1 年次の基本的な知識を学ぶカリキュラムが終了。2 年次の専門基礎科目や専門科目に対する準備や校務分掌により学生や広報、就職、国家試験対策においては、カリキュラムポリシーに対応するマニュアルの作成を編成している。また、ディプロマポリシーに合わせて、実習や 3 年次の国家試験対策や就職などに向けた専門的知識や技能の獲得を可能にするための準備計画段階。	2 年次カリキュラムが計画的に実施できるよう計画を構築中。 学科教務(担当者)以外との連携ができていない。	学科内での情報共有や協議を定期的に実施し、教員間での協力体制の強化を試行する。	
				記載責任者　職・氏名	学科教員　　中　山　　仁	

７）看護学科						
小項目	チェック項目	評定	現状の取組状況	課　　題	今後の改善方策	参考資料
3-12-3 教員の組織体制を整備しているか。	分野毎に必要な教員組織体制を整備しているか。	1	専門領域については、各分野のリーダーを決めて運営している。	基礎分野・専門基礎分野は、組織体制は不備	基礎分野・専門基礎分野の組織作りに取り組む。	
	教員組織における業務分担・責任体制は、規程等で明確に定めているか。		規程には定めていない。	教員組織における業務分担・責任体制について、規程による明文化を図る。	教員組織における業務分担・責任体制について、規程を作成する。	
	学科毎に授業科目担当教員間で連携･協力体制を構築しているか。		規定等にはないが、講義内容によって、他科の講義を担当している。	協力体制について、明文化する必要がある。	関連する授業科目を明確にする。関連する授業科目担当者間で、内容についての精査を行う。	
	授業内容･教育方法の改善に関する組織的な取組があるか。		組織的な取り組みはない。	授業内容や方法の改善について、組織化する。	関連する授業科目担当者間で、授業内容や方法の改善について、検討する。	
	専任・兼任（非常勤）教員間の連携・協力体制を構築しているか。		専任・兼任の協力体制は構築されていない。	専任・兼任とのシラバスの共有化を図る。	専任・兼任で関連性のあるシラバスについて共有し、意見交換を図る。	
				記載責任者　職・氏名	学科長　　村　山　由起子	

８）歯科衛生学科						
小項目	チェック項目	評定	現状の取組状況	課　　題	今後の改善方策	参考資料
3-12-3 教員の組織体制を整備しているか。	分野毎に必要な教員組織体制を整備しているか。	4	特になし	特になし	特になし	
	教員組織における業務分担・責任体制は、規程等で明確に定めているか。		定めている	特になし	特になし	
	学科毎に授業科目担当		している	特になし	特になし	

	教員間で連携･協力体制を構築しているか。					
	授業内容･教育方法の改善に関する組織的な取組があるか。		特になし	特になし	特になし	
	専任・兼任（非常勤）教員間の連携・協力体制を構築しているか。		している	特になし	特になし	
				記載責任者　職・氏名	学科長　　藤　　幸　枝	

9）生涯スポーツトレーナー介護福祉学科						
小項目	チェック項目	評定	現状の取組状況	課　　題	今後の改善方策	参考資料
3-12-3 教員の組織体制を整備しているか。	分野毎に必要な教員組織体制を整備しているか。	4	指定規則に則った教員組織を整備している。	特になし	特になし	介護福祉士養成施設指定規則
	教員組織における業務分担・責任体制は、規程等で明確に定めているか。		指定規則によってある程度明確になっている。業務分担は学科内で決めている。	特になし	特になし	
	学科毎に授業科目担当教員間で連携･協力体制を構築しているか。		演習等で複数教員で担当するなど協力体制がある。	特になし	特になし	
	授業内容･教育方法の改善に関する組織的な取組があるか。		授業方法や授業計画へのアドバイスなど全体で取り組んでいる。	特になし	特になし	
	専任・兼任（非常勤）教員間の連携・協力体制を構築しているか。		留学生が多いので日本語の理解の確認など、サポートについて協力体制がある。	特になし	特になし	
				記載責任者　職・氏名	学科長　　井　上　由紀子	

10）アスレティックリハビリテーション・スポーツトレーナー学科						
小項目	チェック項目	評定	現状の取組状況	課　　題	今後の改善方策	参考資料

3-12-3 教員の組織体制を整備しているか。	分野毎に必要な教員組織体制を整備しているか。	3	業務分掌を作成し、担当業務を明確にしている。	特になし。	特になし。	学科業務分掌
	教員組織における業務分担・責任体制は、規程等で明確に定めているか。		規定などで明確には定めていない。	職場規定との連携が必要となる。	職場規律をもとに規程の作成が必要である。	
	学科毎に授業科目担当教員間で連携・協力体制を構築しているか。		資格試験ごとに担当者がおり、試験対策のコーディネートをしている。	各教員間での連携が必要である。	学科会議を利用して打ち合わせをしていく。	
	授業内容・教育方法の改善に関する組織的な取組があるか。		学科教員内で模擬授業を実施している。	模擬授業を実施する時間の確保が難しい。	事前に計画立案をして、その時間確保を心がけていく。	
	専任・兼任（非常勤）教員間の連携・協力体制を構築しているか。		専任と兼任の教員間で学生情報の共有はしている。	定期的に情報共有する機会を設けることが難しい。	担当者制度を設け、兼任講師との情報共有に努める。	
				記載責任者　職・氏名	学科長　　寺　本　敦　司	

11）整体セラピスト学科

小項目	チェック項目	評定	現状の取組状況	課　　題	今後の改善方策	参考資料
3-12-3 教員の組織体制を整備しているか。	分野毎に必要な教員組織体制を整備しているか。	3	整備しているが、予備人員がいない科目がある	いかなる状況でも稼働できる学科運営。	業務内容などの仕組みを作る	なし
	教員組織における業務分担・責任体制は、規程等で明確に定めているか。		専任教員が一人のため、分担はできていない	いかなる状況でも稼働できる学科運営。	業務内容などの仕組みを作る	
	学科毎に授業科目担当教員間で連携・協力体制を構築しているか。		構築している	なし	非常勤講師との密な報連相	
	授業内容・教育方法の改善に関する組織的な取組があるか。		一部の授業参観を行っている	なし		
	専任・兼任（非常勤）教員間の連携・協力体		構築している	なし	なし	

	制を構築しているか。					
				記載責任者　職・氏名	学科長　　蓑　田　のり子	

12）日本語学科

小項目	チェック項目	評定	現状の取組状況	課　　題	今後の改善方策	参考資料
3-12-3 教員の組織体制を整備しているか。	分野毎に必要な教員組織体制を整備しているか。	3	授業に関しては担当が明確化しているが、その他の分野ではされていない。	生活、進学、就職に関する分野での管理体制が不十分。	生活面、学習面での管理体制の分業の明確化。	なし
	教員組織における業務分担・責任体制は、規程等で明確に定めているか。		業務分担はできているが、規定で明確化はしていない。	分担の明確化が不十分。	規定作成による業務分担、責任体制の明確化。	
	学科毎に授業科目担当教員間で連携･協力体制を構築しているか。		授業日報で現状を把握し、常に相談、協力し授業を進めている。	なし	なし	
	授業内容･教育方法の改善に関する組織的な取組があるか。		常にクラス情報を共有し、授業方法の見直しを行っている。	なし	なし	
	専任・兼任（非常勤）教員間の連携・協力体制を構築しているか。		該当しない			
				記載責任者　職・氏名	学科長　　阿　野　由利子	

３－12

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
教員には、法令に基づく資格・要件を満たした者を配置している。また、資格・免許の取得を目標とした授業においては、当該指導を行うのに適した教員の選任を行っている。	

記載責任者　職・氏名	教務部長　　味　村　吉　浩

基準４　学修成果　【平均評価：２．５】

総括と課題	今後の改善策	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
いずれの学科においても各学科が目標とする資格・免許の取得に向けて計画的な学習支援活動に取り組んでいる。結果的に、100%の就職率（進学者を除く）の達成に導くことができている。	卒業生からより高い評価を得るため、卒業生の評価基準を調査した上でその基準を高いものへと導くようにすべきである。	

記載責任者　職・氏名	教務部長　　味　村　吉　浩

４－13　就職率

１）柔道整復学科（昼間部）

小項目	チェック項目	評定	現状の取組状況	課　　題	今後の改善方策	参考資料
4-13-1 就職率の向上が図られているか。	就職率に関する目標設定はあるか。	4	就職率は 100%の目標設定をしている。	なし。	個人の申し出を含めほぼ 100%近くである。	キャリアサポートセンターのエントリーシート
	学生の就職活動を把握しているか。		就職活動は把握している。	最終的な生徒の就職活動は 5 月までは続く。	卒業時に卒後の連絡先を把握し追って確認する。	
	専門分野と関連する業界等への就職状況を把握しているか。		業界からの求人は学校を通じてのもので状況は把握されている。	待遇等が契約通りに履行されているか。	特になし	
	関連する企業等と共催で「就職説明会」を行うなど、就職に関し関連業界等と連携しているか。		関連する企業等と共催で就職求人説明会を開いている。	特になし	関連する施術院にも協力態勢をとり対応していく	
	就職率等のデータについて適切に管理してい		就職先を含めデータは管理されている。	特になし	今まで通りに管理する。	

	るか。					
				記載責任者　職・氏名	学科長　　桑　野　幸　仁	

２）柔道整復学科（夜間部）

小項目	チェック項目	評定	現状の取組状況	課　　題	今後の改善方策	参考資料
4-13-1 就職率の向上が図られているか。	就職率に関する目標設定はあるか。	4	100％の就職率を目指している。	なし。	勤務条件など、希望に添えるよう検討する。	キャリアサポートセンターのエントリーシートやアンケート
	学生の就職活動を把握しているか。		エントリーシートにて面接日を決めている。	なし。	なし。	
	専門分野と関連する業界等への就職状況を把握しているか。		面接後、採用かどうかの結果を確認している。	なし。	なし。	
	関連する企業等と共催で「就職説明会」を行うなど、就職に関し関連業界等と連携しているか。		関連会社による「就職説明会」を開催している。	学生が相手側からの話を聞ける件数が限られている。	特色と勤務体系の説明を端的にまとめてもらい、一回当たりの説明時間を短くする。	
	就職率等のデータについて適切に管理しているか。		プライバシー保護に留意して保存している。	なし。	なし。	
				記載責任者　職・氏名	学科長　　桑　野　幸　仁	

３）鍼灸学科（昼間部）

小項目	チェック項目	評定	現状の取組状況	課　　題	今後の改善方策	参考資料
4-13-1 就職率の向上が図られているか。	就職率に関する目標設定はあるか。	2	目標が明確化していない。	目標が明確化していない。	目標を設定する。	
	学生の就職活動を把握しているか。		卒業式前に内定を頂いた者に関しては把握できているが卒後に内定した者は把握できていない。	卒後に内定した者などを把握する。	卒後に調査等を行う。	
	専門分野と関連する業界等への就職状況を把握しているか。		卒業式前に内定を頂いた者に関しては把握できているが卒後に内定	卒後に内定した者などを把握する。	卒後に調査等を行う。	

			した者は把握できていない。			
	関連する企業等と共催で「就職セミナー」を行うなど、就職に関し関連業界等と連携しているか。		連携ができているとは言えない。	就職セミナーなど実施していない。	セミナーなどの計画化。	
	就職率等のデータについて適切に管理しているか。		動向等は把握しているが全員ではない。	全員の動向を把握できていない。	動向を把握し、データ化する。	
				記載責任者　職・氏名	学科長　　堀之内　貴　一	

4）スポーツ鍼灸学科						
小項目	チェック項目	評定	現状の取組状況	課　　題	今後の改善方策	参考資料
4-13-1 就職率の向上が図られているか。	就職率に関する目標設定はあるか。	2	目標が明確化していない。	目標が明確にする	目標を数値化する。	卒業後の進路についてのアンケート（教務）
	学生の就職活動を把握しているか。		3 年次に企業説明会を実施し、個別に相談には乗っている	学生全体の動きはまちまちであり、統一はできていない	就職活動においても学科で統一見解をつくる	
	専門分野と関連する業界等への就職状況を把握しているか。		卒業前に内定を頂いた者に関しては把握できている。	卒業後に把握する場所を設ける。	卒業後に調査等を行う。	
	関連する企業等と共催で「就職セミナー」を行うなど、就職に関し関連業界等と連携しているか。		連携ができているとは言えない。	就職セミナーなど実施していない。	セミナーなどの計画化。	
	就職率等のデータについて適切に管理しているか。		動向等は把握しているが全員ではない。	卒業前・卒業後などデータをとる時期を把握	動向を把握し、データ化する。	
				記載責任者　職・氏名	学科長　　松　波　　賢	

5）理学療法学科

小項目	チェック項目	評定	現状の取組状況	課　　題	今後の改善方策	参考資料
4-13-1 就職率の向上が図られているか。	就職率に関する目標設定はあるか。	4	目標設定100%で,実績も100%である	なし	なし	
	学生の就職活動を把握しているか。		施設見学、面接の事前に学生より届出を提出させている	なし	なし	
	専門分野と関連する業界等への就職状況を把握しているか。		就職状況について関連団体などと情報共有を行っている	なし	なし	
	関連する企業等と共催で「就職セミナー」を行うなど、就職に関し関連業界等と連携しているか。		関連する企業による就職説明会を学内にて開催している	なし	なし	
	就職率等のデータについて適切に管理しているか。		就職先を学科にてデータ化して管理している	なし	なし	
				記載責任者　職・氏名	学科長補佐　　永　野　忍	

６）作業療法学科

小項目	チェック項目	評定	現状の取組状況	課　　題	今後の改善方策	参考資料
4-13-1 就職率の向上が図られているか。	就職率に関する目標設定はあるか。	3	H29年度1期生の全員100％就職合格達成目標が定められている。	完成年度を迎えていないため、目標が遂行できているかの時期的な評価・比較ができない。	ほぼ適切に目標に向けた取り組みを実施しているが、今後の就職に関する対策を学科全体で協議し、検討する。	①OT 学科就職全マナー講座講義資料 講師：中山
	学生の就職活動を把握しているか。		就職決定までのマナー講習など担当者で計画を立案している。他校の就職活動時期などの情報収集に努め、学生	完成年度を迎えていないため、就職活動の時期と学生の到達レベルの整合性が現状では確認できない。会社や他	学科内での協議を定期的に実施し、学生の就職活動の状況について把握に努め、OT学科就職活動報告シートを使	②OT 学科就職活動報告シート

			ごとの就職活動を管理するシートなど準備している。	校での就職説明会の開催時期が早まっているので、本校における企業説明会開催時期の検討が必要。	用する。	
	専門分野と関連する業界等への就職状況を把握しているか。		作業療法協会や福岡県内の就職募集状況や現状の診療報酬に関しても情報収集をしている。国家試験合格率ともリンクした、就職内定取り消しによる、3月の就職活動状況などの情報収集を計画的に行う。	なし	なし	
	関連する企業等と共催で「就職セミナー」を行うなど、就職に関し関連業界等と連携しているか。		現在、本校の理学療法学科が計画している企業説明会に参加する計画あり。	完成年度を迎えていないため、就職における施設との連携や募集要項の案内の送付先の連絡案内など、まだ確立できていない。	学科内での協議を定期的に実施し、現状把握に努める。	
	就職率等のデータについて適切に管理しているか。		学生ごとの就職活動（見学や試験など）のデータ管理ができるシステム構築あり。また、各就職施設の募集要項	なし	なし	

			をデータ管理ができるシステム構築あり。			
				記載責任者　職・氏名	教員　　中　山　　仁	

７）看護学科						
小項目	チェック項目	評定	現状の取組状況	課　　題	今後の改善方策	参考資料
4-13-1 就職率の向上が図られているか。	就職率に関する目標設定はあるか。	2	なし	来年度、1 期生が就職するので目標設定が必要	3 年生担当を中心に学科で目標を設定する	
	学生の就職活動を把握しているか。		進路シート作成⇒春休みで実施	学生個々の進路シートから、就職活動状況を学科全体が把握できるようにする	・教員間の情報交換ができるようにする⇒就職が決定した際は学科会議で報告 ・進路シートファイルを作成	
	専門分野と関連する業界等への就職状況を把握しているか。		就職案内コーナーを設置。教員および学生に周知	案内ができていないことがある。例）掲示のみ	・積極的な案内、伝達をする	
	関連する企業等と共催で「就職セミナー」を行うなど、就職に関し関連業界等と連携しているか。		企業説明会を学校学科として年１回夏休みに開催	就職対策講座の実施	各学年に必要な就職対策講座を計画、実施する	
	就職率等のデータについて適切に管理しているか。		なし	来年度、１期生の就職を機にデータ管理が必要。	担当者を決め、何をどのように管理するのか明確化する	
				記載責任者　職・氏名	学科長　　村　山　由起子	

８）歯科衛生学科						
小項目	チェック項目	評定	現状の取組状況	課　　題	今後の改善方策	参考資料
4-13-1 就職率の向上が図られているか。	就職率に関する目標設定はあるか。	3	現状でなし	目標設定を行う	就職担当を決める	特になし
	学生の就職活動を把握		就職活動する学年に達	なし	なし	

	しているか。		していない			
	専門分野と関連する業界等への就職状況を把握しているか。		している	なし	なし	
	関連する企業等と共催で「就職セミナー」を行うなど、就職に関し関連業界等と連携しているか。		していない	就職セミナーなど行うよう検討したい	歯科衛生士の就職率を把握する	
	就職率等のデータについて適切に管理しているか。		就職率を出す学年に達していない	なし	なし	
				記載責任者　職・氏名	学科長　　藤　　幸　枝	

９）生涯スポーツトレーナー介護福祉学科						
小項目	チェック項目	評定	現状の取組状況	課　　題	今後の改善方策	参考資料
4-13-1 就職率の向上が図られているか。	就職率に関する目標設定はあるか。	3	開設年度のために、今年度は就職に関する活動は特にしていない。	特になし	特になし	
	学生の就職活動を把握しているか。		1 年生であるので学生の就職活動はまだない。	特になし	特になし	
	専門分野と関連する業界等への就職状況を把握しているか。		卒業生を輩出していない。	特になし	特になし	
	関連する企業等と共催で「就職セミナー」を行うなど、就職に関し関連業界等と連携しているか。		現在は行っていない。	特になし	特になし	
	就職率等のデータについて適切に管理しているか。		卒業生を輩出していない。	特になし	特になし	
				記載責任者　職・氏名	学科長　　井　上　由紀子	

10）アスレティックリハビリテーション・スポーツトレーナー学科						
小項目	チェック項目	評定	現状の取組状況	課　　題	今後の改善方策	参考資料
4-13-1 就職率の向上が図られているか。	就職率に関する目標設定はあるか。	3	目標設定はある。	就職活動に取り掛かるのが遅い。	卒業後の自分のあり方について考えさせる。	
	学生の就職活動を把握しているか。		把握している。	学科内での情報共有が必要。	会議内で進展状況などを報告する。	
	専門分野と関連する業界等への就職状況を把握しているか。		把握している。	就職後の情報を把握していない。	継続的に学生の就職状況の把握に努める。	
	関連する企業等と共催で「就職セミナー」を行うなど、就職に関し関連業界等と連携しているか。		企業説明会を実施している。	関連する企業の参加が少ない。	関連する企業への参加を促していく。	
	就職率等のデータについて適切に管理しているか。		管理している。	他部署で管理されている。	学科内でも情報管理が必要である。	
				記載責任者　職・氏名	学科長　　寺　本　敦　司	

11）整体セラピスト学科						
小項目	チェック項目	評定	現状の取組状況	課　　題	今後の改善方策	参考資料
4-13-1 就職率の向上が図られているか。	就職率に関する目標設定はあるか。	3	就職希望者の就職率を100%に設定している	継続しているアルバイトもあり、1月下旬より面接などの行動を起こしていたため、焦りがあったようだ。	就職希望者を対象とした個人面談を定期的に実施し、不安を取り除く。	なし
	学生の就職活動を把握しているか。		把握している	学校に希望する地域の求人票が無く、携帯で求人サイトにて検索、またハローワークへ足を運ぶなどしていた	個人面談にて状況を把握し、不安を取り除く。	
	専門分野と関連する業界等への就職状況を把		把握している	なし	なし	

	握しているか。					
	関連する企業等と共催で「就職セミナー」を行うなど、就職に関し関連業界等と連携しているか。		連携している	毎年 9 月に開催されるが、その時点では学校生活やアルバイトに慣れ楽しく、また、この時期の求人票はほぼ遠方しかない。以上の理由から「就職」にまだ関心が無いように思われる。	過去の事例を時系列で説明し、個々の方向性を明確にできるよう導く	
	就職率等のデータについて適切に管理しているか。		就職希望者に関しては把握している	少人数でもあり、100%を継続しているのでデータとなるものは作成していない。	記録として残す	
				記載責任者　職・氏名	学科長　　蓑　田　のり子	

12）日本語学科

小項目	チェック項目	評定	現状の取組状況	課　　題	今後の改善方策	参考資料
4-13-1 就職率の向上が図られているか。	就職率に関する目標設定はあるか。	2	設定はない	今後必要となる	目標設定の明確化	なし
	学生の就職活動を把握しているか。		就職希望の学生（1 年コース）のセミナーへの参加を指導、引率。	日本での就職活動の基本から指導する必要がある。	個別対応ができる専任担当者を置く。	
	専門分野と関連する業界等への就職状況を把握しているか。		該当しない			
	関連する企業等と共催で「就職セミナー」を行うなど、就職に関し関連業界等と連携しているか。		該当しない			
	就職率等のデータについて適切に管理しているか。		該当しない			

	記載責任者　職・氏名	学科長　　阿　野　由利子

４－13　就職率

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
いずれの学科においても平成 29 年度においては 100%の就職率（進学者を除く）を達成している。	

記載責任者　職・氏名	教務部長　　味　村　吉　浩

４－14　資格・免許の取得率

１）柔道整復学科（昼間部）

小項目	チェック項目	評定	現状の取組状況	課　　題	今後の改善方策	参考資料
4-14-1 資格･免許取得率の向上が図られているか。	資格・免許取得率に関する目標設定はあるか。	3	免許取得に関する目標設定は 100%である。	年度により差があり安定化が必要	補講等の実施を 2 年時から設置していく。	国家試験過去問題集 特別講義資料 補講資料 全国合格率一覧表
	特別講座、セミナーの開講等、授業を補完する学習支援の取組はあるか。		講座セミナー開講は随時行われている。	学習支援の要望を引きだせるような環境をつくれるか。	いつでも教員が対応できる態勢をとる。	
	合格実績、合格率、全国水準との比較など行っているか。		合格率、全国水準に対しての比較は行っている。	成績が全体のどの水準なのか、また不足はあるか考える。	なし	
	指導方法と合格実績との関連性を確認し、指導方法の改善を行っているか。		合格実績との関連性で学科での指導方法の考察を行っている。	実力試験で合格基準に達しないものがいる。	未達成者に対してどこが要因かを考え補講で補う。	

	記載責任者　職・氏名	学科長　　桑　野　幸　仁

２）柔道整復学科（夜間部）						
小項目	チェック項目	評定	現状の取組状況	課　　題	今後の改善方策	参考資料
4-14-1 資格･免許取得率の向上が図られているか。	資格･免許取得率に関する目標設定はあるか。	3	100％合格を目指している。	100％合格は達成されていない。	補講等の実施時期を早め、底上げを図る。	国家試験過去問題集 特別講義資料 補講資料 全国合格率一覧表
	特別講座、セミナーの開講等、授業を補完する学習支援の取組はあるか。		通常講義以外に、特別講義、補講を行っている。	学生の習熟度差があり、更に細やかな対応・指導が必要である。	習熟度別クラス分けの補講だけでなく、個別対応・指導も行う。	
	合格実績、合格率、全国水準との比較など行っているか。		自校の過去の実績との比較や、全国との比較・検討を行っている。	なし。	なし。	
	指導方法と合格実績との関連性を確認し、指導方法の改善を行っているか。		過去の具体的反省点から指導方法や実施時期を見直し、改善を行っている。	1・2月の実力試験や卒業試験でも合格基準点に満たない学生がいる。	補講等の実施時期を更に早め、底上げを図る。	
				記載責任者　職・氏名	学科長　　桑　野　幸　仁	

３）鍼灸学科（昼間部）						
小項目	チェック項目	評定	現状の取組状況	課　　題	今後の改善方策	参考資料
4-14-1 資格･免許取得率の向上が図られているか。	資格･免許取得率に関する目標設定はあるか。	2	最終学年全員卒業。 国家試験合格 100％	毎年複数人の原級留置者や国家試験不合格者がいる。	対策講義や補講などの充実。	
	特別講座、セミナーの開講等、授業を補完する学習支援の取組はあるか。		授業時間外に実技の練習等できるよう取り組んでいる。	実技系以外の取り組みが乏しい。	実技系科目以外の取り組みの計画をする。	
	合格実績、合格率、全国水準との比較など行っているか。		合格率は全国平均を上回っているが高いものと言えない。	国家試験合格率を上げる。	補講等の充実化。学力不足者への対応の強化。	
	指導方法と合格実績との関連性を確認し、指導方法の改善を行っているか。		学力不足者へ個別の対応を始めた。	国家試験の傾向と対策、分析の強化。	国家試験対策委員会の発足。	
				記載責任者　職・氏名	学科長　　堀之内　貴　一	

４）スポーツ鍼灸学科						
小項目	チェック項目	評定	現状の取組状況	課　　題	今後の改善方策	参考資料
4-14-1 資格・免許取得率の向上が図られているか。	資格・免許取得率に関する目標設定はあるか。	2	最終学年全員卒業。 国家試験合格 100%	毎年複数人の原級留置者や国家試験不合格者がいる。	対策講義や補講などの充実。	
	特別講座、セミナーの開講等、授業を補完する学習支援の取組はあるか。		授業時間外に実技の練習等できるよう取り組んでいる。	実技系以外の取り組みが乏しい。	実技系科目以外の取り組みの計画をする。	
	合格実績、合格率、全国水準との比較など行っているか。		合格率は全国平均を上回っているが高いものと言えない。	国家試験合格率を上げる。	補講等の充実化。学力不足者への対応の強化。	
	指導方法と合格実績との関連性を確認し、指導方法の改善を行っているか。		学力不足者へ個別の対応を始めた。	国家試験の傾向と対策、分析の強化。	国家試験対策委員会の発足。	
				記載責任者　職・氏名	学科長　　松　波　　賢	

５）理学療法学科						
小項目	チェック項目	評定	現状の取組状況	課　　題	今後の改善方策	参考資料
4-14-1 資格・免許取得率の向上が図られているか。	資格・免許取得率に関する目標設定はあるか。	3	目標設定は 100%である	なし	なし	
	特別講座、セミナーの開講等、授業を補完する学習支援の取組はあるか。		最終学年の授業において資格取得に向けての内容の充実を図っている	成績不良者への支援	実力を随時測り個別の支援体制を強化していく	
	合格実績、合格率、全国水準との比較など行っているか。		関連団体等より情報を得て，チェック項目を調べている	なし	なし	
	指導方法と合格実績との関連性を確認し、指導方法の改善を行っているか。		常に指導方法と定期的な模擬試験の結果との整合性をチェックしており，合格率の向上を	成績不良者への支援	実力を随時測り個別の支援体制を強化していく	

			目指している.			
				記載責任者　職・氏名	学科長補佐　　永　野　　忍	

６）作業療法学科

小項目	チェック項目	評定	現状の取組状況	課　　題	今後の改善方策	参考資料
4-14-1 資格･免許取得率の向上が図られているか。	資格･免許取得率に関する目標設定はあるか。	3	カリキュラムポリシーで、作業療法国家試験受験資格以外に、メンタルヘルス・マネジメント検定などの予防的作業療法にも関連する資格について、受験者は全員合格するための講義はシラバスで記載され、合格が実現できるよう学科教員及び学生と目標が統一している。	完成年度を迎えていないため、目標設定した100％合格の確認はできないが、担当者のみでの学生指導にならないよう、学科全体で開催時期の把握や試験内容の推移の変化など情報共有し、準備･取り組むことが必要。	学科内での協議を定期的に実施し、学科全体で開催時期の把握や試験内容の推移の変化など情報共有し、準備･取り組む	
	特別講座、セミナーの開講等、授業を補完する学習支援の取組はあるか。		1,2 年次のセミナーでの授業補完以外に、授業のない時間帯の学習支援体制が、担任を中心として実施されている。	授業時間内での学習効果が高まる支援が一番であるが、完成年度を迎えていないため、確認できないが、試験合格に向けた計画や前年度の振り返りを実施し、効果的な取り組みは継続していくことが必要。また、補完の際も中間評価など学生の到達度を評価が必要。	学科内での協議を定期的に実施し、カリキュラムポリシーを基準に、再試ゼロ計画も検討して取り組む。	
	合格実績、合格率、全国水準との比較など行っているか。		本校の他学科の情報や他校の実態を調査し、全国の合格率を把握している。	完成年度を迎えていないため、現在の学科の合格達成についてのデータがない。	学科内での協議を定期的に実施し、学生の比較は現在確認できないが、年度ごとの推移を確認しながら合格達成	

					できる体制を強化する。	
	指導方法と合格実績との関連性を確認し、指導方法の改善を行っているか。		国家試験指導教員の10年間の取り組みを参考に、経験から得た知識の情報共有に努め、過去難易度が高まる国家試験の問題に対して100％合格達成が連続してできた他校の取り組みを本校に取り入れて、カリキュラムポリシーや本校 1 期生100％合格達成を目標に掲げている。	完成年度を迎えていないため、実績が確認できないが、具体的な指導方法の時期や内容についての情報共有化は不完全である。	学科内での協議を定期的に実施し、指導方法と合格実績との関連性を確認し、指導方法の改善を実施。	
				記載責任者　職・氏名	学科教員　　中　山　　仁	

7）看護学科						
小項目	チェック項目	評定	現状の取組状況	課　　題	今後の改善方策	参考資料
4-14-1 資格･免許取得率の向上が図られているか。	資格･免許取得率に関する目標設定はあるか。	2	看護師国家試験 100％合格を目指している	明文化されていないため、教員･学生間の周知に欠ける	明文化し、教員学生間の意志統一を図る	
	特別講座、セミナーの開講等、授業を補完する学習支援の取組はあるか。		業者からの特別講座は年 1 回程度。教員の補完は必要時に実施	計画的に行う必要がある。	1年次・2年次・3年次カリキュラムに入れ込む⇒全体的な関連性連続性を持たせる	
	合格実績、合格率、全国水準との比較など行っているか。		各学年、業者模試で全国水準と比較している	全国との比較を活かして、指導する。	低迷している領域については、補習講義、課題学習などを実践する。	
	指導方法と合格実績との関連性を確認し、指導方法の改善を行っているか。		国家試験受験が未である	3年生に関して、3ヶ月毎に指導法など検討する。	合格実績に基づいて、指導方法を修正し、学生の能力に適した方法を明確にする。	
				記載責任者　職・氏名	学科長　　村　山　由起子	

８）歯科衛生学科						
小項目	チェック項目	評定	現状の取組状況	課　　題	今後の改善方策	参考資料
4-14-1 資格・免許取得率の向上が図られているか。	資格・免許取得率に関する目標設定はあるか。	3	ある	なし	なし	なし
	特別講座、セミナーの開講等、授業を補完する学習支援の取組はあるか。		ある	なし	なし	
	合格実績、合格率、全国水準との比較など行っているか。		実績がないので比較できない	なし	なし	
	指導方法と合格実績との関連性を確認し、指導方法の改善を行っているか。		合格実績はないが、過去問で指導方法の改善を行っている	なし	なし	
				記載責任者　職・氏名	学科長　　藤　　幸　枝	

９）生涯スポーツトレーナー介護福祉学科						
小項目	チェック項目	評定	現状の取組状況	課　　題	今後の改善方策	参考資料
4-14-1 資格・免許取得率の向上が図られているか。	資格・免許取得率に関する目標設定はあるか。	3	目標設定している。	留学生が多いので取得へ向けた継続的な取り組み	授業時間ごとの理解度を把握して補習授業につなげる。	特になし
	特別講座、セミナーの開講等、授業を補完する学習支援の取組はあるか。		現在は行っていない。	留学生の日本語力を高める。	特別授業や補習授業を実施する。	
	合格実績、合格率、全国水準との比較など行っているか。		開設年度なので、資格試験の受験者はいない。	特になし	特になし	
	指導方法と合格実績との関連性を確認し、指導方法の改善を行っているか。		受験者がいないのでまだ実施していない。	特になし	特になし	
				記載責任者　職・氏名	学科長　　井　上　由紀子	

10）アスレティックリハビリテーション・スポーツトレーナー学科						
小項目	チェック項目	評定	現状の取組状況	課　　題	今後の改善方策	参考資料
4-14-1 資格･免許取得率の向上が図られているか。	資格･免許取得率に関する目標設定はあるか。	3	合格者数の設定を行っている。	資格取得率を設定見込みが難しい。	取得率を設定するシステムの確立。	
	特別講座、セミナーの開講等、授業を補完する学習支援の取組はあるか。		模擬試験の実施を実施している。	卒業生に対しての対応が十分ではない。	模擬試験・対策授業などの案内を実施する。	
	合格実績、合格率、全国水準との比較など行っているか。		合格率の比較をしている。	資格試験によっては、合格率を明確に公表していない。	資格認定団体が合格率を発表していないため、比較が難しい。	
	指導方法と合格実績との関連性を確認し、指導方法の改善を行っているか。		試験終了後、振り返りを行い、指導方法の改善を検討している。	資格試験の分析に時間がかかる。	分析に関する教員の増員をしていく。	
				記載責任者　職・氏名	学科長　　寺　本　敦　司	

11）整体セラピスト学科						
小項目	チェック項目	評定	現状の取組状況	課　　題	今後の改善方策	参考資料
4-14-1 資格･免許取得率の向上が図られているか。	資格･免許取得率に関する目標設定はあるか。	3	1 年間で多くの資格取得をすることが目標であり、また学生同士が協力し全員合格を目指している	試験ではどちらかというと筆記を苦手とする学生が多い。	課題にて現状を把握し、またその補講などの実施	なし
	特別講座、セミナーの開講等、授業を補完する学習支援の取組はあるか。		他学科の教員による講義が進学に繋がった。また、資格取得の試験対策セミナー、補講等は実施している。	1 年間のため、社会人となる前に広く社会のことを知る期間が短い。	特別講義を増やすことで知識と視野を広げる	
	合格実績、合格率、全国水準との比較など行っているか。		全て民間資格ではあるが合格率は 100%。全国水準との比較は行っていない。	なし	なし	

	指導方法と合格実績との関連性を確認し、指導方法の改善を行っているか。		指導方法に関しては、改善を行っている。	なし	なし	
				記載責任者　職・氏名	学科長　　蓑　田　のり子	

12）日本語学科

小項目	チェック項目	評定	現状の取組状況	課　　題	今後の改善方策	参考資料
4-14-1 資格･免許取得率の向上が図られているか。	資格･免許取得率に関する目標設定はあるか。	―	該当しない（就職に係る資格・免許等なし）			
	特別講座、セミナーの開講等、授業を補完する学習支援の取組はあるか。		該当しない			
	合格実績、合格率、全国水準との比較など行っているか。		該当しない			
	指導方法と合格実績との関連性を確認し、指導方法の改善を行っているか。		該当しない			
				記載責任者　職・氏名	学科長　　阿　野　由利子	

４－14　資格・免許の取得率

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
各学科において目標とする資格・免許の取得のための授業展開等にかかる計画を立案し、受験対策の授業を実施している。	

記載責任者　職・氏名	教務部長　　味　村　吉　浩

４－15　卒業生の社会的評価

１）柔道整復学科（昼間部）

小項目	チェック項目	評定	現状の取組状況	課　　題	今後の改善方策	参考資料
4-15-1 卒業生の社会的評価を把握しているか。	卒業生の就職先の企業、施設･機関等を訪問するなどして卒後の実態を調査等で把握しているか。	1	卒後実態調査は行っていない。	勤務状況を把握できてはいない。	実態状況を確認する必要がある。	
	卒業生のコンテスト参加における受賞状況、研究業績等を把握しているか。		コンテスト参加は行っていない。	実態は把握できてはいない。	個人でのコンテスト参加について学校への報告義務を科してはいない。	
				記載責任者　職・氏名	学科長　　桑　野　幸　仁	

２）柔道整復学科（夜間部）

小項目	チェック項目	評定	現状の取組状況	課　　題	今後の改善方策	参考資料
4-15-1 卒業生の社会的評価を把握しているか。	卒業生の就職先の企業、施設･機関等を訪問するなどして卒後の実態を調査等で把握しているか。	1	実態調査は行っていない。	就職先での状況がわからない。	勤怠状況等、実態調査を行うことを検討する。	
	卒業生のコンテスト参加における受賞状況、研究業績等を把握しているか。		コンテスト参加等は把握していない。	実態が把握できない。	コンテスト参加等は、学校への報告を義務づけることを通知する。	
				記載責任者　職・氏名	学科長　　桑　野　幸　仁	

３）鍼灸学科（昼間部）

小項目	チェック項目	評定	現状の取組状況	課　　題	今後の改善方策	参考資料
4-15-1	卒業生の就職先の企業、	2	卒後に関してはほとん	卒業生がどこに就職し	卒業生の進路を把握す	

卒業生の社会的評価を把握しているか。	施設・機関等を訪問するなどして卒後の実態を調査等で把握しているか。		ど把握できていない。	たかなどを全て把握できていない。	る。	
	卒業生のコンテスト参加における受賞状況、研究業績等を把握しているか。		把握できていない。	卒業生がどこに就職したかなどを全て把握できていない。	卒業生の進路を把握する。	
				記載責任者　職・氏名	学科長　　堀之内　貴　一	

４）スポーツ鍼灸学科						
小項目	チェック項目	評定	現状の取組状況	課　　題	今後の改善方策	参考資料
4-15-1 卒業生の社会的評価を把握しているか。	卒業生の就職先の企業、施設・機関等を訪問するなどして卒後の実態を調査等で把握しているか。	2	先輩卒業生の院、学校附属院に対しては行えている。	卒業生がどこに就職したかなどを全て把握できていない。	卒業生の進路を把握する。	
	卒業生のコンテスト参加における受賞状況、研究業績等を把握しているか。		把握できていない。	卒業生がどこに就職したかなどを全て把握できていない。	卒業生の進路を把握する。	
				記載責任者　職・氏名	学科長　　松　波　　賢	

５）理学療法学科						
小項目	チェック項目	評定	現状の取組状況	課　　題	今後の改善方策	参考資料
4-15-1 卒業生の社会的評価を把握しているか。	卒業生の就職先の企業、施設・機関等を訪問するなどして卒後の実態を調査等で把握しているか。	2	把握していない	卒業生の実態把握	卒業生との情報交換を行う	
	卒業生のコンテスト参加における受賞状況、研究業績等を把握してい		全国ないしは地方での学会発表などは把握している	卒業生の実態把握	卒業生との情報交換を行う	

	るか。					
				記載責任者　職・氏名	学科長補佐　　永　野　　忍	

６）作業療法学科

小項目	チェック項目	評定	現状の取組状況	課　　題	今後の改善方策	参考資料
4-15-1 卒業生の社会的評価を把握しているか。	卒業生の就職先の企業、施設･機関等を訪問するなどして卒後の実態を調査等で把握しているか。	2	把握していない。	完成年度を迎えていないため、確認できないが、卒後の実態調査についての把握する方法や調査する手段の取り決めがない。	他校による就職先への訪問や卒後の実態調査を他校の取り組みの情報を収集し、学科内での協議を定期的に実施する。	
	卒業生のコンテスト参加における受賞状況、研究業績等を把握しているか。		把握していない。	完成年度を迎えていないため、確認できないが、卒業性の学会参加登録状況などまで管理している学校があるかについての情報収集している状況。	学科内での協議を定期的に実施し、卒後勉強会や同窓会など卒業生の業績を把握できるよう取り組み、卒後も本校とのつながりが継続する体制の検討をしていく。	
				記載責任者　職・氏名	学科教員　　中　山　　仁	

７）看護学科

小項目	チェック項目	評定	現状の取組状況	課　　題	今後の改善方策	参考資料
4-15-1 卒業生の社会的評価を把握しているか。	卒業生の就職先の企業、施設･機関等を訪問するなどして卒後の実態を調査等で把握しているか。	1	卒業生が未	今後、卒後の実態を調査等が必要	今後、担当者を決め何をどのように行うのか具体的方策作成	
	卒業生のコンテスト参加における受賞状況、研究業績等を把握しているか。		卒業生が未	今後、どのように把握するのか検討要	今後、担当者を決め何をどのように行うのか具体的方策作成	
				記載責任者　職・氏名	学科長　　村　山　由起子	

８）歯科衛生学科						
小項目	チェック項目	評定	現状の取組状況	課　　題	今後の改善方策	参考資料
4-15-1 卒業生の社会的評価を把握しているか。	卒業生の就職先の企業、施設・機関等を訪問するなどして卒後の実態を調査等で把握しているか。	3	卒業生を輩出していない	なし	なし	特になし
	卒業生のコンテスト参加における受賞状況、研究業績等を把握しているか。		卒業生を輩出していない	なし	なし	
				記載責任者　職・氏名	学科長　　藤　　幸　枝	

９）生涯スポーツトレーナー介護福祉学科						
小項目	チェック項目	評定	現状の取組状況	課　　題	今後の改善方策	参考資料
4-14-1 資格・免許取得率の向上が図られているか。	資格・免許取得率に関する目標設定はあるか。	3	目標設定している。	留学生が多いので取得へ向けた継続的な取り組み	授業時間ごとの理解度を把握して補習授業につなげる。	特になし
	特別講座、セミナーの開講等、授業を補完する学習支援の取組はあるか。		現在は行っていない。	留学生の日本語力を高める。	特別授業や補習授業を実施する。	
	合格実績、合格率、全国水準との比較など行っているか。		開設年度なので、資格試験の受験者はいない。	特になし	特になし	
	指導方法と合格実績との関連性を確認し、指導方法の改善を行っているか。		受験者がいないのでまだ実施していない。	特になし	特になし	
				記載責任者　職・氏名	学科長　　井　上　由紀子	

10）アスレティックリハビリテーション・スポーツトレーナー学科

小項目	チェック項目	評定	現状の取組状況	課　　題	今後の改善方策	参考資料
4-15-1 卒業生の社会的評価を把握しているか。	卒業生の就職先の企業、施設・機関等を訪問するなどして卒後の実態を調査等で把握しているか。	1	卒後の実態を把握していない。	業界から離れていく卒業生の実態を把握することは難しい。	まずは、卒業生の勤務状況を把握していくことが必要である。	
	卒業生のコンテスト参加における受賞状況、研究業績等を把握しているか。		研究実績などを把握していない。	卒業生の卒後の状況を把握していない。	同窓会があるため、その組織との連携を図ることが必要である。	
				記載責任者　職・氏名	学科長　　寺　本　敦　司	

11）整体セラピスト学科

小項目	チェック項目	評定	現状の取組状況	課　　題	今後の改善方策	参考資料
4-15-1 卒業生の社会的評価を把握しているか。	卒業生の就職先の企業、施設・機関等を訪問するなどして卒後の実態を調査等で把握しているか。	3	全てではないが、訪問または個別に連絡をし、現状を把握するよう努めている 卒業生が 3 年間在籍した企業様より、評価が良かったとのことで求人票が届いた。	携帯番号が変わるなど、直接連絡が取れなくなるケースがあった。 突然の連絡で驚かれたことがあった。	定期的な連絡をし、状況の把握をする	なし
	卒業生のコンテスト参加における受賞状況、研究業績等を把握しているか。		把握している その様な業績は現状ではない	なし	なし	
				記載責任者　職・氏名	学科長　　蓑　田　のり子	

12）日本語学科

小項目	チェック項目	評定	現状の取組状況	課　　題	今後の改善方策	参考資料
4-15-1 卒業生の社会的評価を把握しているか。	卒業生の就職先の企業、施設・機関等を訪問するなどして卒後の実態を	―	該当しない			

	調査等で把握しているか。					
	卒業生のコンテスト参加における受賞状況、研究業績等を把握しているか。		該当しない			
				記載責任者　職・氏名	学科長　　阿　野　由利子	

４－15　卒業生の社会的評価

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
卒業生の就職先企業・施設・機関等への訪問は広報部があたっているが、ほとんどの企業等への訪問が行えていない。よって、卒業生の社会的評価の把握にまで至っていないのが現状である。	

記載責任者　職・氏名	教務部長　　味　村　吉　浩

基準５　学生支援　【平均評価：３．０】

総括と課題	今後の改善策	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
学生の就職支援については主に担任、キャリアサポートセンターが携わっている。就職説明会の開催によって就職へとつなげるケースもある一方で、在学中のアルバイト先がそのまま就職先へと移行するケースも少なくない。	キャリアサポートセンターは平成 29 年度まで教務部が担当していたが、平成 30 年度からは広報部および統括本部へと移行し、卒業生の就職先企業訪問も兼ねて総括的に就職支援を行う。	

記載責任者　職・氏名	教務部長　　味　村　吉　浩

５－16　就職等進路

１）柔道整復学科（昼間部）

小項目	チェック項目	評定	現状の取組状況	課　　題	今後の改善方策	参考資料
5-16-1 就職等進路に関する支援組織体制を整備しているか。	就職など進路支援のための組織体制を整備しているか。	3	キャリアサポートセンター設置で対応している。	なし。	なし。	キャリアサポートセンター 就職説明会資料 求人票
	担任教員と就職部門の連携など学内における連携体制を整備しているか。		担任との連携がとられている。	なし。	なし。	
	学生の就職活動の状況を学内で共有しているか。		学校としてアンケートは行っているが学内で共有されているとは言えない。	十分に把握されてはいない。	学校として就職先を把握するのは良いことなので把握できるようにしたい。	
	関連する業界等と就職に関する連携体制を構築しているか。		求人票を提出してもらい学生が閲覧できるようにされている。	実施されているので特になし。	なし。	
	就職説明会等を開催しているか。		就職説明会は開催されている。	なし。	なし。	
	履歴書の書き方、面接の受け方など、具体的な就職指導に関するセミナー・講座を開講しているか。		開講はされていない。	具体的な就職指導はしていない。	３年次にセミナー講座を開設するように努めたい。	
	就職に関する個別の相談に適切に応じているか。		個別相談は適切に応じられている。	なし。	なし。	
				記載責任者　職・氏名	学科長　　桑　野　幸　仁	

２）柔道整復学科（夜間部）						
小項目	チェック項目	評定	現状の取組状況	課　　題	今後の改善方策	参考資料
5-16-1 就職等進路に関する支援組織体制を整備しているか。	就職など進路支援のための組織体制を整備しているか。	3	キャリアサポートセンターを置いている。	なし。	なし。	キャリアサポートセンター 就職説明会資料 求人票
	担任教員と就職部門の連携など学内における連携体制を整備しているか。		担任とキャリアサポートセンターとの連携をとっている。	なし。	なし。	
	学生の就職活動の状況を学内で共有しているか。		学内での共有はしていない。	学内（全体）での状況が把握できていない。	学内での掲示又は回覧にて状況の共有を図る。	
	関連する業界等と就職に関する連携体制を構築しているか。		求人票を提出していただき、学生が閲覧できるようにしている。	なし。	なし。	
	就職説明会等を開催しているか。		「就職説明会」を開催している。	なし。	なし。	
	履歴書の書き方、面接の受け方など、具体的な就職指導に関するセミナー・講座を開講しているか。		セミナー・講座は開講していない。	履歴書の書き方や面接の受け方を知らない（経験がない）学生が存在する。	３年次に就職活動に関するセミナー・講座を開設し、学生の知識及びマナー向上に努める。	
	就職に関する個別の相談に適切に応じているか。		個別相談に応じている。	なし。	なし。	
				記載責任者　職・氏名	学科長　　桑　野　幸　仁	

３）鍼灸学科（昼間部）						
小項目	チェック項目	評定	現状の取組状況	課　　題	今後の改善方策	参考資料
5-16-1 就職等進路に関する支援組織体制を整備しているか。	就職など進路支援のための組織体制を整備しているか。	2	学校としてキャリアサポートセンターを設置。	学生自身、国家試験合格が優先となり、就職に関しては動きが遅い。	早い段階で就職などの話をする。	
	担任教員と就職部門の		学校としてキャリアサ	キャリアサポートセン	連携が取れるようなシ	

	連携など学内における連携体制を整備しているか。		ポートセンターを設置。	ターと教員との連携がうまく取れていない。	ステムの構築。	
	学生の就職活動の状況を学内で共有しているか。		うまく共有はできていない。	全員が共有できていない。	会議等で報告する場を設ける。	
	関連する業界等と就職に関する連携体制を構築しているか。		構築できていない。	求人票を受け取るのみになっている。	連携を取れるようなシステムを構築する。	
	就職説明会等を開催しているか。		年に1度開催している。	全員が参加していない。	回数を増やす。積極的に参加を促す。	
	履歴書の書き方、面接の受け方など、具体的な就職指導に関するセミナー・講座を開講しているか。		相談などがあれば対応しているのみとなっている。	就職指導に関する時間を取れていない。	就職セミナーのような時間を設ける。	
	就職に関する個別の相談に適切に応じているか。		応じている。	相談があった場合のみ対応しているため、全員に対応をしているわけではない。	積極的に相談するよう斡旋する。	
				記載責任者　職・氏名	学科長　　堀之内　貴　一	

４）スポーツ鍼灸学科

小項目	チェック項目	評定	現状の取組状況	課　　題	今後の改善方策	参考資料
5-16-1 就職等進路に関する支援組織体制を整備しているか。	就職など進路支援のための組織体制を整備しているか。	2	学校としてキャリアサポートセンターを設置。	学生自身、国家試験合格が優先となり、就職に関しては動きが遅い。	早い段階で就職などの話をする。	
	担任教員と就職部門の連携など学内における連携体制を整備しているか。		学校としてキャリアサポートセンターを設置。	キャリアサポートセンターと教員との連携がうまく取れていない。	連携が取れるようなシステムの構築。	
	学生の就職活動の状況を学内で共有しているか。		新年度に就職など学生の動態を把握するアンケートを実施	年一回にしか実施していない。	学期ごとなど年度途中で実施し把握する機会を増やす。	

	関連する業界等と就職に関する連携体制を構築しているか。		構築できていない。	求人票を受け取るのみになっている。	連携を取れるようなシステムを構築する。	
	就職説明会等を開催しているか。		年に1度開催している。	全員が参加していない。	回数を増やす。積極的に参加を促す。	
	履歴書の書き方、面接の受け方など、具体的な就職指導に関するセミナー・講座を開講しているか。		相談などがあれば対応しているのみとなっている。	就職指導に関する時間を取れていない。	就職セミナーのような時間を設ける。	
	就職に関する個別の相談に適切に応じているか。		応じている。	相談があった場合のみ対応しているため、全員に対応をしているわけではない。	積極的に相談するよう斡旋する。	
				記載責任者　職・氏名	学科長　　松　波　　賢	

５）理学療法学科

小項目	チェック項目	評定	現状の取組状況	課　　題	今後の改善方策	参考資料
5-16-1 就職等進路に関する支援組織体制を整備しているか。	就職など進路支援のための組織体制を整備しているか。	4	面接練習、履歴書の確認などの支援を行っている	なし	なし	
	担任教員と就職部門の連携など学内における連携体制を整備しているか。		就職説明会の開催にて連携をしている	なし	なし	
	学生の就職活動の状況を学内で共有しているか。		学生の就職活動状況及び就職先について教務部へ情報提供を行っている	学内での情報共有	理学療法学科による情報提供を行う	
	関連する業界等と就職に関する連携体制を構築しているか。		就職説明会を開催している。また説明会に参加できない企業については随時面談を行っている	なし	なし	
	就職説明会等を開催し		開催している	なし	なし	

	ているか。					
	履歴書の書き方、面接の受け方など、具体的な就職指導に関するセミナー・講座を開講しているか。		面接練習、履歴書の確認などの支援を行っている	なし	なし	
	就職に関する個別の相談に適切に応じているか。		求人票をもとに学生個別に面談を行っている	なし	なし	
				記載責任者　職・氏名	学科長補佐　　永　野　　忍	

６）作業療法学科

小項目	チェック項目	評定	現状の取組状況	課　　題	今後の改善方策	参考資料
5-16-1 就職等進路に関する支援組織体制を整備しているか。	就職など進路支援のための組織体制を整備しているか。	3	対応が十分でなく、就職担当１名と担任が中心となって実施する活動内容は作成している。	完成年度を迎えていないため、確認できないが、3年次の学生が就職活動を実施して良いと判断する客観的指標がない。就職活動時期や就活と重なる学校行事についての出欠の取り扱いなど未確認な内容が多い。	学科内での協議を定期的に実施。	
	担任教員と就職部門の連携など学内における連携体制を整備しているか。		担任と就職先の担当者や、他教員も常に確認ができ、情報を共有できるデータあり、学内の連携体制は準備している。	完成年度を迎えていないため、確認できない。	学科内での協議を定期的に実施。	
	学生の就職活動の状況を学内で共有しているか。		就職活動報告シート作成。就職活動中の「見学」「試験」「結果待ち」「内定」「不採用」など項目を作成し、随時学生の状況が確認でき	完成年度を迎えていないため、確認できない。	学科内での協議を定期的に実施。	

			る。			
	関連する業界等と就職に関する連携体制を構築しているか。		就職に関係する学科の担当者は年度ごとに業務分掌で設置。	完成年度を迎えていないため、確認できないが、関連する業界が、本校の学科の就職担当者を把握できない。	学科内での協議を定期的に実施。	
	就職説明会等を開催しているか。		開催している。	完成年度を迎えていないため、作業療法学科の企業説明会と同時開催することを計画。作業療法学科のみで企業説明会を開催するか未決定。	学科内での協議を定期的に実施。	
	履歴書の書き方、面接の受け方など、具体的な就職指導に関するセミナー・講座を開講しているか。		平成31年総合臨床実習終了後に、就職マナー講習会を計画。	完成年度を迎えていないため、確認できないが、就職担当の教員によるマナー講習は計画しているが、時期や場所は未決定。外部講師をお招きする必要があるかの検討ができていない。	学科内での協議を定期的に実施。	
	就職に関する個別の相談に適切に応じているか。		担任を主として、1年次ごとに希望分野の確認を実施。また保護者同席の面談も計画され、2年後期の三者面談などで決定していく計画立案あり。	完成年度を迎えていないため、確認できないが、就職をテーマとした学生面談を本格的に行っていない。	学科内での協議を定期的に実施。	
				記載責任者　職・氏名	学科教員　　中　山　　仁	

7）看護学科						
小項目	チェック項目	評定	現状の取組状況	課　　題	今後の改善方策	参考資料
5-16-1 就職等進路に関する支	就職など進路支援のための組織体制を整備し	2	明確でない。不十分	組織体制の明確化	学科および学校の組織体制を明文化する	

援組織体制を整備しているか。	ているか。					
	担任教員と就職部門の連携など学内における連携体制を整備しているか。		連携体制が明確でない不十分	連携体制の明確化	学科および学校の組織体制を明文化する	
	学生の就職活動の状況を学内で共有しているか。		学科内の共有、不十分	報告方法の明確化	教職員会議で報告	
	関連する業界等と就職に関する連携体制を構築しているか。		構築中	データ化未	データ化し活用できるようにする	
	就職説明会等を開催しているか。		企業説明会年１回	各学年、学生希望に沿っていない	参加企業の選択	
	履歴書の書き方、面接の受け方など、具体的な就職指導に関するセミナー・講座を開講しているか。		３年次４月に実施予定	各学年に計画する	１年次、２年次、３年次に必要なセミナー等を計画、実施	
	就職に関する個別の相談に適切に応じているか。		適時に教員が対応	誰に相談すればよいのか明確でない	相談経路を明確にし、学生に周知	
				記載責任者　職・氏名	学科長　　村　山　由起子	

８）歯科衛生学科

小項目	チェック項目	評定	現状の取組状況	課　　題	今後の改善方策	参考資料
5-16-1 就職等進路に関する支援組織体制を整備しているか。	就職など進路支援のための組織体制を整備しているか。	3	就職する学年に達していない	歯科衛生士会に協力してもらうようにしたい	密に歯科衛生士会の会議に参加する	特になし
	担任教員と就職部門の連携など学内における連携体制を整備しているか。		就職する学年に達していない	なし	なし	
	学生の就職活動の状況を学内で共有しているか。		就職する学年に達していない	なし	なし	

	関連する業界等と就職に関する連携体制を構築しているか。		している	なし	なし	
	就職説明会等を開催しているか。		就職する学年に達していない	なし	なし	
	履歴書の書き方、面接の受け方など、具体的な就職指導に関するセミナー・講座を開講しているか。		就職する学年に達していない	非常勤の講師に依頼したい	なし	
	就職に関する個別の相談に適切に応じているか。		就職する学年に達していない	今後行いたい	なし	
				記載責任者　職・氏名	学科長　　藤　　幸　枝	

９）生涯スポーツトレーナー介護福祉学科

小項目	チェック項目	評定	現状の取組状況	課　　題	今後の改善方策	参考資料
5-16-1 就職等進路に関する支援組織体制を整備しているか。	就職など進路支援のための組織体制を整備しているか。	3	開設年度のために現在検討中である。	特になし	特になし	
	担任教員と就職部門の連携など学内における連携体制を整備しているか。		現在検討中である。	特になし	特になし	
	学生の就職活動の状況を学内で共有しているか。		開設年度で就職活動はまだない。	特になし	特になし	
	関連する業界等と就職に関する連携体制を構築しているか。		開設年度で施設訪問等で業界との連携を模索している。	留学生に対する業界の理解を深める。	より多くの業界関係者に理解を深めてもらい連携体制を構築する。	
	就職説明会等を開催しているか。		開設年度で今年度は実施していない。	特になし	特になし	
	履歴書の書き方、面接の受け方など、具体的な就職指導に関するセミナ		今年度は実施していない。	特になし	特になし	

	一・講座を開講しているか。					
	就職に関する個別の相談に適切に応じているか。		担任をはじめ、相談には教員全体で対応している。	特になし	特になし	
				記載責任者　職・氏名	学科長　　井　上　由紀子	

10）アスレティックリハビリテーション・スポーツトレーナー学科						
小項目	チェック項目	評定	現状の取組状況	課　　題	今後の改善方策	参考資料
5-16-1 就職等進路に関する支援組織体制を整備しているか。	就職など進路支援のための組織体制を整備しているか。	3	就職支援部署が設置されている。	キャリアサポート制度との連携が必要である。	キャリアサポートとの情報共有システムが必要である。	
	担任教員と就職部門の連携など学内における連携体制を整備しているか。		就職支援部署と卒業年次の担任が対応している。	学生は、資格試験を意識している。そのため、就職活動に取りかかるのが遅い。	就職活動に関する動機づけを行っていく。	
	学生の就職活動の状況を学内で共有しているか。		学科教員内で共有している。	資格試験と就職活動の両立が難しい。	事前のキャリアビジョンを描かせることが必要である。	
	関連する業界等と就職に関する連携体制を構築しているか。		連携していない。	幅広い業界との連携を図ることが必要である。	スポーツ、医療、福祉などとの現状を把握することが必要である。	
	就職説明会等を開催しているか。		開催している。	関連する業界の参加が少ない。	幅広い企業からの参加を求めていく。	
	履歴書の書き方、面接の受け方など、具体的な就職指導に関するセミナー・講座を開講しているか。		個別対応している。	学生との時間調整をすることが難しい。	業界に応じた就職指導を確立していく。	
	就職に関する個別の相談に適切に応じているか。		就職希望者には、教員1名が対応している。	学生が希望する求人を確保していくこと。	学生自らが就職先を開拓していく指導の確立が必要である。	
				記載責任者　職・氏名	学科長　　寺　本　敦　司	

11）整体セラピスト学科

小項目	チェック項目	評定	現状の取組状況	課　　題	今後の改善方策	参考資料
5-16-1 就職等進路に関する支援組織体制を整備しているか。	就職など進路支援のための組織体制を整備しているか。	3	キャリアサポートを活用した	担当者が休みで、対応に日数がかかることもあった	仕組み作りをしてもらう	なし
	担任教員と就職部門の連携など学内における連携体制を整備しているか。		キャリアサポートを活用した	同上	同上	
	学生の就職活動の状況を学内で共有しているか。		日報への記載等で報告し共有している	なし	なし	
	関連する業界等と就職に関する連携体制を構築しているか。		関連グループとは、アルバイトで連携できた。併学者のみだったので、今年度は就職には繋がらないかった	多くの求人票が 2 月下旬に届いたため、学生はハローワークも利用し探した	9 月の企業説明会以降、個別面談で方向性を明確にし、キャリアサポートより関連企業へ働きかけてもらう	
	就職説明会等を開催しているか。		9 月に開催された	9 月の時点では遠方の大手企業様が来校されるため学生の関心が薄い。遠方に行きたがらない傾向が強い。	12 月～1 月に 2 回目の開催を希望する	
	履歴書の書き方、面接の受け方など、具体的な就職指導に関するセミナー・講座を開講しているか。		セミナーなどは開講していないが、個別に対応している。	就職の希望者が現状程度であれば、一人でも対応が可能だが、キャリアサポートでも対応してもらいたい。	キャリアサポートで、該当者を対象としたセミナーを開講するのはどうか	
	就職に関する個別の相談に適切に応じているか。		日程調整が必要な場合もあるが、応じている。	ほぼ毎年、併学者も半数で就職希望者が少ないため、一人でも対応が可能であるが他業務もあるため日程調整が必要となる。	学科に補佐が必要である。	
				記載責任者　職・氏名	学科長　　蓑　田　のり子	

12）日本語学科

小項目	チェック項目	評定	現状の取組状況	課　　題	今後の改善方策	参考資料
5-16-1 就職等進路に関する支援組織体制を整備しているか。	就職など進路支援のための組織体制を整備しているか。	2	進路指導は行っているが、就職支援体制は整備していない。	今後必要となる	就職支援組織を編成予定	なし
	担任教員と就職部門の連携など学内における連携体制を整備しているか。		整備していない	今後必要となる	就職支援組織を編成予定	
	学生の就職活動の状況を学内で共有しているか。		該当しない			
	関連する業界等と就職に関する連携体制を構築しているか。		該当しない			
	就職説明会等を開催しているか。		特にしていない			
	履歴書の書き方、面接の受け方など、具体的な就職指導に関するセミナー・講座を開講しているか。		就職希望（1年コース）の学生に対しては指導を行っている。	面接指導など個別対応が十分とは言えない。	専任担当を配置し個別指導を徹底。	
	就職に関する個別の相談に適切に応じているか。		応じている	個別の希望を把握しきれていない。	専任担当者の配置	
				記載責任者　職・氏名	学科長　　阿　野　由利子	

５－16　就職等進路

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
平成29年度まで教務部が就職支援を兼務し、この組織体制が十分整備されていなかった。今後、これを広報部および統括本部に移行させ、卒業生就職先企業等	

の訪問に併せて広報活動も行うようにする。	

記載責任者　職・氏名	教務部長　　味　村　吉　浩

５－17　中途退学への対応

１）柔道整復学科（昼間部）

小項目	チェック項目	評定	現状の取組状況	課　　題	今後の改善方策	参考資料
5-17-1 退学率の低減が図られているか。	中途退学の要因、傾向、各学年における退学者数等を把握しているか。	3	面談報告書により把握しており、学科内に回覧されている。	なし。	なし。	面談報告書 カウンセリング申込表
	指導経過記録を適切に保存しているか。		プライバシーの保護に留意して保存されている。	なし。	なし。	
	中途退学の低減に向けた学内における連携体制はあるか。		学科長、また校長同席のもとで面談が行われている。	親への連絡はされているし、必要な時は面談も行われている。	特になし。	
	退学に結びつきやすい、心理面、学習面での特別指導体制はあるか。		専任カウンセラーによる相談対応がおこなわれている。	心理面での悩みに気付くのが難しい。	普段からの担任の注意力が必要であり、定期的な面談を要する。	
				記載責任者　職・氏名	学科長　　桑　野　幸　仁	

２）柔道整復学科（夜間部）

小項目	チェック項目	評定	現状の取組状況	課　　題	今後の改善方策	参考資料
5-17-1 退学率の低減が図られているか。	中途退学の要因、傾向、各学年における退学者数等を把握しているか。	3	面談報告書により把握しており、学科内に回覧している。	なし。	なし。	面談報告書 カウンセリング申込表
	指導経過記録を適切に保存しているか。		プライバシー保護に留意して保存している。	なし。	なし。	
	中途退学の低減に向け		学科長及び必要に応じ	話の内容によっては、	専任カウンセラーのみ	

	た学内における連携体制はあるか。		て校長同席のもと、面談を行っている。	却って話し辛くなってしまうことがある。	との面談を希望する場合は、それに応じる。	
	退学に結びつきやすい、心理面、学習面での特別指導体制はあるか。		必要に応じて、専任カウンセラーによる相談も行っている。	心理面での悩みには気付きにくい。	定期的に個別面談を実施し、学生の状況把握に努める。	
				記載責任者　職・氏名	学科長　　桑　野　幸　仁	

３）鍼灸学科（昼間部）

小項目	チェック項目	評定	現状の取組状況	課　　題	今後の改善方策	参考資料
5-17-1 退学率の低減が図られているか。	中途退学の要因、傾向、各学年における退学者数等を把握しているか。	3	把握している。	なし	なし	面談記録
	指導経過記録を適切に保存しているか。		指導経過を作成し、面談ごとに記録するようにしている。	なし	なし	
	中途退学の低減に向けた学内における連携体制はあるか。		担任制を用い、相談しやすい環境を整え、学校としてカウンセラーにも来ていただいている。	なし	なし	
	退学に結びつきやすい、心理面、学習面での特別指導体制はあるか。		何かあれば担任を通し、配慮可能なことは配慮している。	本人が言い出すまで気づかないことが多い。	何かあればすぐに相談するように促す。	
				記載責任者　職・氏名	学科長　　堀之内　貴　一	

４）スポーツ鍼灸学科

小項目	チェック項目	評定	現状の取組状況	課　　題	今後の改善方策	参考資料
5-17-1 退学率の低減が図られているか。	中途退学の要因、傾向、各学年における退学者数等を把握しているか。	3	把握している。	なし	なし	
	指導経過記録を適切に保存しているか。		指導経過を作成し、面談ごとに記録するようにしている。	なし	なし	

	中途退学の低減に向けた学内における連携体制はあるか。		担任制を用い、相談しやすい環境を整え、学校としてカウンセラーにも来ていただいている。	カウンセラーが在住していることの啓蒙活動を行う	カウンセラーが在住していることの啓蒙活動を行う	
	退学に結びつきやすい、心理面、学習面での特別指導体制はあるか。		何かあれば担任を通し、配慮可能なことは配慮している。	成績不良に関してはその都度面談を行っているが、事前の把握が必要	話しやすい環境の整備	
				記載責任者　職・氏名	学科長　　松　波　　賢	

５）理学療法学科

小項目	チェック項目	評定	現状の取組状況	課　　題	今後の改善方策	参考資料
5-17-1 退学率の低減が図られているか。	中途退学の要因、傾向、各学年における退学者数等を把握しているか。	3	把握している	なし	なし	
	指導経過記録を適切に保存しているか。		指導事由が生じた時点で書面作成し、保存している	なし	なし	
	中途退学の低減に向けた学内における連携体制はあるか。		試験実施後等、学生全員において担任による面談を行っている	事由発生前の面談の実施	年間計画への面談時期の設定	
	退学に結びつきやすい、心理面、学習面での特別指導体制はあるか。		担任やスクールカウンセラーによる面談を行っている	担任とスクールカウンセラーの連携	担任とスクールカウンセラーの情報共有	
				記載責任者　職・氏名	学科長補佐　　永　野　　忍	

６）作業療法学科

小項目	チェック項目	評定	現状の取組状況	課　　題	今後の改善方策	参考資料
5-17-1 退学率の低減が図られているか。	中途退学の要因、傾向、各学年における退学者数等を把握しているか。	3	教育カリキュラムポリシー、ディプロマポリシーを、学科教員が常に意識し、1年次教育と	完成年度を迎えていないため、確認できないが、現在中途退学者なし。中途退学を予測で	学科内での協議を定期的に実施。	

			2 年次の教育内容の他社による評価や修正指導など体制あり。学校本部からの教員・授業評価の内容から、各々次年度に向けた教育内容の再修正を実施。	きた学生あり。 実習の影響による学生の心理的反応のデータなし。		
	指導経過記録を適切に保存しているか。		学生ごとの細やかな学生生活状況を記録するファイル作成。遅刻や欠席の内容なども含め、経過を記録し、担任が管理している。	完成年度を迎えていないため、確認できないが、担任が管理していることで、情報共有化ができないことあり。 また学生個人の情報にもなるため、情報共有するべきか判断に悩むことあり。	学科内での協議を定期的に実施し、	
	中途退学の低減に向けた学内における連携体制はあるか。		各々教員での授業状況について、随時担任へ報告する体制はある。	完成年度を迎えていないため、確認できないが、連携が不十分に感じられる課題あり。 教員の判断によって行われる学生への面談の把握ができない事。	学科内での協議を定期的に実施。	
	退学に結びつきやすい、心理面、学習面での特別指導体制はあるか。		学生からの相談体制は、担任を中心として実施しているが、必ず教員は 2 名以上で相談対応することや、記録を残すことを指導している。心理面および学習面に対しては、担任以外誰でも相談に乗ることを学生に周知できるよう、入学時のオリエンテーション時だけでなく、随時呼び掛け	完成年度を迎えていないため、確認できないが、相談窓口の掲示ができていない。 心理面のフォローについて、できる教員が限られている。 女性教員がいない。	学科内での協議を定期的に実施。H30 年度 6 月より、女性教員補充あり。	

			ている。			
				記載責任者　職・氏名	学科教員　　中　山　　仁	

７）看護学科						
小項目	チェック項目	評定	現状の取組状況	課　　題	今後の改善方策	参考資料
5-17-1 退学率の低減が図られているか。	中途退学の要因、傾向、各学年における退学者数等を把握しているか。	2	把握している	データ化する。		
	指導経過記録を適切に保存しているか。		保存している	共有化が不十分	学科会議で定期的に報告する。	
	中途退学の低減に向けた学内における連携体制はあるか。		クラス担当、学科長、校長と連携体制がある	退学にならないように連携体制を活用する。	クラス担当が早めに学科長、校長へ報告する。	
	退学に結びつきやすい、心理面、学習面での特別指導体制はあるか。		指導体制はある。	定期的に面談を行う。	スクールカウンセリングの活用、保護者との連携を図るなど、指導体制に組み込む。	
				記載責任者　職・氏名	学科長　　村　山　由起子	

８）歯科衛生学科						
小項目	チェック項目	評定	現状の取組状況	課　　題	今後の改善方策	参考資料
5-17-1 退学率の低減が図られているか。	中途退学の要因、傾向、各学年における退学者数等を把握しているか。	3	している	なし	なし	特になし
	指導経過記録を適切に保存しているか。		している	なし	なし	
	中途退学の低減に向けた学内における連携体制はあるか。		よくわからない	把握する	学内で共有する	
	退学に結びつきやすい、		ある	なし	なし	

	心理面、学習面での特別指導体制はあるか。					
				記載責任者　職・氏名	学科長　　藤　　幸　枝	

９）生涯スポーツトレーナー介護福祉学科						
小項目	チェック項目	評定	現状の取組状況	課　　題	今後の改善方策	参考資料
5-17-1 退学率の低減が図られているか。	中途退学の要因、傾向、各学年における退学者数等を把握しているか。	2	把握している。	留学生が就労できたときに退学をする傾向にある。	経済的支援の方策を養成施設協議会と連携して進める。	特になし
	指導経過記録を適切に保存しているか。		指導記録は保存している。	留学生は就労が決まるとそのまま退学をするので対応する時間がない。	経済的な問題の解決へ向けた取り組みと同時に専門職の魅力を伝える。	
	中途退学の低減に向けた学内における連携体制はあるか。		連携体制はある。	その機能を強化していく。	情報の共有と効果的な働きかけをおこなう。	
	退学に結びつきやすい、心理面、学習面での特別指導体制はあるか。		保護者との話し合いや面談の実施、学習面では補習授業を行ったりしている。	留学生への対応が課題	個人面談を頻繁に実施して問題を早期に把握して連携につなげる。	
				記載責任者　職・氏名	学科長　　井　上　由紀子	

10）アスレティックリハビリテーション・スポーツトレーナー学科						
小項目	チェック項目	評定	現状の取組状況	課　　題	今後の改善方策	参考資料
5-17-1 退学率の低減が図られているか。	中途退学の要因、傾向、各学年における退学者数等を把握しているか。	3	退学者の要因、傾向、数は把握している。	他学科との併修者のサポート。	他学科との情報共有システムの確立。	
	指導経過記録を適切に保存しているか。		指導カルテを作成している。	定期的な更新が必要である。	会議内での現状報告が必要である。	
	中途退学の低減に向けた学内における連携体制はあるか。		学内にて報告・連絡できる体制は出来ている。	速やかな対応が必要である。	迅速な情報伝達システムが必要である。	
	退学に結びつきやすい、		年３回、学生らに対し、	心理的な悩みを持つ学	学外より心理カウンセ	

	心理面、学習面での特別指導体制はあるか。		面談を実施している。	生への対応。	ラーを配置している。	
				記載責任者　職・氏名	学科長　　寺　本　敦　司	

11）整体セラピスト学科

小項目	チェック項目	評定	現状の取組状況	課　　題	今後の改善方策	参考資料
5-17-1 退学率の低減が図られているか。	中途退学の要因、傾向、各学年における退学者数等を把握しているか。	3	今年度は一人。	なし	なし	なし
	指導経過記録を適切に保存しているか。		報告書にて報告	なし	なし	
	中途退学の低減に向けた学内における連携体制はあるか。		カウンセリングを利用する	学生の動向に早めに気づけるようコミュニケーションを取る。	入学前・後の意思の再確認とコミュニケーション。場合によってはカウンセリングを利用する。	
	退学に結びつきやすい、心理面、学習面での特別指導体制はあるか。		面談や補講	春先はホームシックや学習面で気持ちの変動がある学生がいるので、観察する。	とくに実技や課外授業でのチームとしての行動を学ぶことでクラスが一体となり、楽しいと思えるようにする	
				記載責任者　職・氏名	学科長　　蓑　田　のり子	

12）日本語学科

小項目	チェック項目	評定	現状の取組状況	課　　題	今後の改善方策	参考資料
5-17-1 退学率の低減が図られているか。	中途退学の要因、傾向、各学年における退学者数等を把握しているか。	3	現状、退学者はいない。	なし	なし	なし
	指導経過記録を適切に保存しているか。		個別面談の記録等、保存している。	なし	なし	
	中途退学の低減に向けた学内における連携体		相談シートによる問題の共有化。	なし	なし	

	制はあるか。					
	退学に結びつきやすい、心理面、学習面での特別指導体制はあるか。		特別な体制はない。	退学理由となりやすい経済面の状況把握。	学習面、生活面での各個人の状況把握の徹底。	
				記載責任者　職・氏名	学科長　　阿　野　由利子	

５－17　中途退学への対応

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
一部の学科学生においては、成績不振等を理由とした中途退学が散見される。中途退学者の低減を目的に、迅速かつきめの細かい指導を手がける必要があると思われる。	

記載責任者　職・氏名	教務部長　　味　村　吉　浩

５－18　学生相談

５－18－１

１）柔道整復学科（昼間部）

小項目	チェック項目	評定	現状の取組状況	課　　題	今後の改善方策	参考資料
5-18-1 学生相談に関する体制を整備しているか。	専任カウンセラーの配置等相談に関する組織体制を整備しているか。	4	専任カウンセラーを置き対応している。	なし。	なし。	カウンセリング申込み表
	相談室の設置など相談に関する環境整備を行っているか。		相談室の設置はされている。	なし。	なし。	
	学生に対して、相談室の利用に関する案内を行		口頭および学内掲示で案内されている。	なし。	なし。	

	っているか。					
	相談記録を適切に保存しているか。		特にプライバシーの保護には留意され、保存もされている。	なし。	なし。	
	関連医療機関等との連携はあるか。		必要な場合は紹介している。	なし。	特になし。	
				記載責任者　職・氏名	学科長　　桑　野　幸　仁	

２）柔道整復学科（夜間部）

小項目	チェック項目	評定	現状の取組状況	課　　題	今後の改善方策	参考資料
5-18-1 学生相談に関する体制を整備しているか。	専任カウンセラーの配置等相談に関する組織体制を整備しているか。	4	専任カウンセラーを置き対応している。	なし。	なし。	カウンセリング申込表
	相談室の設置など相談に関する環境整備を行っているか。		カウンセリング室を確保している。	なし。	なし。	
	学生に対して、相談室の利用に関する案内を行っているか。		口頭および学内掲示にて案内している。	なし。	なし。	
	相談記録を適切に保存しているか。		プライバシー保護に留意して保存している。	なし。	なし。	
	関連医療機関等との連携はあるか。		必要と認められる場合は紹介している。	なし。	なし。	
				記載責任者　職・氏名	学科長　　桑　野　幸　仁	

３）鍼灸学科（昼間部）

小項目	チェック項目	評定	現状の取組状況	課　　題	今後の改善方策	参考資料
5-18-1 学生相談に関する体制を整備しているか。	専任カウンセラーの配置等相談に関する組織体制を整備しているか。	2	学校としてカウンセラーに来ていただいている。	常在しているわけではないため、すぐに対応できない場合がある。	カウンセラーに常在して頂く。	
	相談室の設置など相談に関する環境整備を行っているか。		学校としてカウンセラーに来ていただいている。	常在しているわけではないため、すぐに対応できない場合がある。	カウンセラーに常在して頂く。	

	学生に対して、相談室の利用に関する案内を行っているか。		掲示を行っている。	掲示にのみなっていることが多く、学生が周知していない。	案内など	
	相談記録を適切に保存しているか。		カウンセラーとの相談内容など教員は記録、把握していない。	なし	なし	
	関連医療機関等との連携はあるか。		連携していない。	なし	連携できるよう計画する。	
				記載責任者　職・氏名	学科長　　堀之内　貴　一	

４）スポーツ鍼灸学科

小項目	チェック項目	評定	現状の取組状況	課　　題	今後の改善方策	参考資料
5-18-1 学生相談に関する体制を整備しているか。	専任カウンセラーの配置等相談に関する組織体制を整備しているか。	2	学校としてカウンセラーに来ていただいている。	常在しているわけではないため、すぐに対応できない場合がある。	カウンセラーに常在して頂く。	
	相談室の設置など相談に関する環境整備を行っているか。		学校としてカウンセラーに来ていただいている。	常在しているわけではないため、すぐに対応できない場合がある。	カウンセラーに常在して頂く。	
	学生に対して、相談室の利用に関する案内を行っているか。		掲示を行っている。	掲示にのみなっていることが多く、学生が周知していない。	案内など	
	相談記録を適切に保存しているか。		カウンセラーとの相談内容など教員は記録、把握していない。	なし	なし	
	関連医療機関等との連携はあるか。		連携していない。	なし	連携できるよう計画する。	
				記載責任者　職・氏名	学科長　　松　波　　賢	

５）理学療法学科

小項目	チェック項目	評定	現状の取組状況	課　　題	今後の改善方策	参考資料
5-18-1 学生相談に関する体制を整備しているか。	専任カウンセラーの配置等相談に関する組織体制を整備しているか。	3	学校専任でのカウンセラーの配置を行っている	なし	なし	

	相談室の設置など相談に関する環境整備を行っているか。		個室による面談を行っている	なし	なし	
	学生に対して、相談室の利用に関する案内を行っているか。		学内掲示を行っている。また学科担任からの案内も行っている	なし	なし	
	相談記録を適切に保存しているか。		面談記録は学科外にて保管している	記録内容の把握	担任とスクールカウンセラーの情報共有	
	関連医療機関等との連携はあるか。		学生のかかりつけ医の診断書をもって情報共有を行っている	なし	なし	
				記載責任者　職・氏名	学科長補佐　　永　野　　忍	

６）作業療法学科

小項目	チェック項目	評定	現状の取組状況	課　　題	今後の改善方策	参考資料
5-18-1 学生相談に関する体制を整備しているか。	専任カウンセラーの配置等相談に関する組織体制を整備しているか。	2	精神・心理の専門分野の教員が 1 名。※平成30 年度 6 月より 2 名配置。	完成年度を迎えていないため、確認できないが、相談を受けた後の本部への報告・相談など、組織的な対応は未経験、確立していない。	学科内での協議を定期的に実施。	
	相談室の設置など相談に関する環境整備を行っているか。		保健室。図書室。クラス教室。他教室。	完成年度を迎えていないため、確認できないが、個人を守るように隔離した環境で行うことや、2 名体制で実施する体制を徹底することが必要。	学科内での協議を定期的に実施。	
	学生に対して、相談室の利用に関する案内を行っているか。		なし。	完成年度を迎えていないため、確認できないが	学科内での協議を定期的に実施。	
	相談記録を適切に保存しているか。		学生ごとのファイルで管理。	完成年度を迎えていないため、確認できないが、現在までは、詳細に記録を実施できてい	学科内での協議を定期的に実施。担任への管理指導を徹底する。	

				る。しかしファイル管理が鍵がない棚への保管や教務室デスクに置きっ放しになるような不十分な管理がある。		
	関連医療機関等との連携はあるか。		なし。	なし	なし。	
				記載責任者　職・氏名	学科教員　　中　山　　仁	

7）看護学科

小項目	チェック項目	評定	現状の取組状況	課　　題	今後の改善方策	参考資料
5-18-1 学生相談に関する体制を整備しているか。	専任カウンセラーの配置等相談に関する組織体制を整備しているか。	3	している（スクールカウンセラー）	現状維持	現状維持	
	相談室の設置など相談に関する環境整備を行っているか。		行っている	相談室の確保が必要。		
	学生に対して、相談室の利用に関する案内を行っているか。		行っている	入学時から学生への周知徹底を図る。	入学時、ホームルーム等で案内をする。	
	相談記録を適切に保存しているか。		保存している。	現状維持	現状維持	
	関連医療機関等との連携はあるか。		ある。	必要な情報を共有する。	必要時には、関連医院の受診を進める。	
				記載責任者　職・氏名	学科長　　村　山　由起子	

8）歯科衛生学科

小項目	チェック項目	評定	現状の取組状況	課　　題	今後の改善方策	参考資料
5-18-1 学生相談に関する体制を整備しているか。	専任カウンセラーの配置等相談に関する組織体制を整備しているか。	3	している	なし	なし	特になし
	相談室の設置など相談に関する環境整備を行		相談室がない	環境を整える	相談室の設置	

	っているか。					
	学生に対して、相談室の利用に関する案内を行っているか。		相談室がないが、代用している	環境を整える	相談室の設置	
	相談記録を適切に保存しているか。		している	なし	なし	
	関連医療機関等との連携はあるか。		あり	なし	なし	
				記載責任者　職・氏名	学科長　　藤　　幸　枝	

9）生涯スポーツトレーナー介護福祉学科						
小項目	チェック項目	評定	現状の取組状況	課　　題	今後の改善方策	参考資料
5-18-1 学生相談に関する体制を整備しているか。	専任カウンセラーの配置等相談に関する組織体制を整備しているか。	2	カウンセラーは配置されているが別校舎であるので利用しにくい。	校舎が離れているので利用しにくい。	学生への周知と利用しやすい条件づくりをすすめる。	
	相談室の設置など相談に関する環境整備を行っているか。		相談室は設置されているが別校舎である。	離れているので利用しにくい。	身近な場所に相談室に代わる場所を設ける。	
	学生に対して、相談室の利用に関する案内を行っているか。		案内は行われている。	周知徹底していない。	折に触れて周知する。	
	相談記録を適切に保存しているか。		学科で受けた相談については保存している。	特になし	特になし	
	関連医療機関等との連携はあるか。		特になし	特になし	特になし	
				記載責任者　職・氏名	学科長　　井　上　由紀子	

10）アスレティックリハビリテーション・スポーツトレーナー学科						
小項目	チェック項目	評定	現状の取組状況	課　　題	今後の改善方策	参考資料
5-18-1 学生相談に関する体制を整備しているか。	専任カウンセラーの配置等相談に関する組織体制を整備しているか。	1	学校内にカウンセラーを設置している。	カウンセラーとの連携が取れていない。	学科教員、カウンセラーとの役割分担を明確にする。	
	相談室の設置など相談		相談室は設けていな	学生が安心して話し合	相談室の設置が急務で	

	に関する環境整備を行っているか。		い。	いができる環境がない。	ある。	
	学生に対して、相談室の利用に関する案内を行っているか。		掲示板で案内している。	学生への周知が不十分である。	学生指導の中で、その制度についての告知をしていく。	
	相談記録を適切に保存しているか。		学科内では、保存されていない。	個人情報の問題がある。	カウンセラー、学科教員が個人情報を共有できるシステムが必要である。	
	関連医療機関等との連携はあるか。		連携はない。	提携先の医療機関を選定していく必要がある。	担当者を明確に配置する。	
				記載責任者　職・氏名	学科長　　寺　本　敦　司	

11）整体セラピスト学科

小項目	チェック項目	評定	現状の取組状況	課　　題	今後の改善方策	参考資料
5-18-1 学生相談に関する体制を整備しているか。	専任カウンセラーの配置等相談に関する組織体制を整備しているか。	3	整備されている	予約を取るのが困難な場合がある	学生を観察し、早めに予約を取る	なし
	相談室の設置など相談に関する環境整備を行っているか。		整備されている	隣室の声が聞こえる場合がある	同上	
	学生に対して、相談室の利用に関する案内を行っているか。		行っている	同上	同上	
	相談記録を適切に保存しているか。		個別面談に関しては記録を残している。	なし	なし	
	関連医療機関等との連携はあるか。		ある	なし	なし	
				記載責任者　職・氏名	学科長　　蓑　田　のり子	

12）日本語学科

小項目	チェック項目	評定	現状の取組状況	課　　題	今後の改善方策	参考資料

5-18-1 学生相談に関する体制を整備しているか。	専任カウンセラーの配置等相談に関する組織体制を整備しているか。	2	教員が担当している。	教員のみでの対応には限界がある。	専門の担当者の配置。	なし
	相談室の設置など相談に関する環境整備を行っているか。		常設の相談室は設置していない。	迅速な対応が難しい。	相談室の設置。	
	学生に対して、相談室の利用に関する案内を行っているか。		臨時の相談コーナーについての案内は行っている。。	常設の相談室がない。	相談室設置後の利用促進。	
	相談記録を適切に保存しているか。		相談内容は記録し保存している。	なし	なし	
	関連医療機関等との連携はあるか。		該当しない			
				記載責任者　職・氏名	学科長　　阿　野　由利子	

５－18－２

１）柔道整復学科（昼間部）

小項目	チェック項目	評定	現状の取組状況	課　　題	今後の改善方策	参考資料
5-18-2 留学生に対する相談体制を整備しているか。	留学生の相談等に対応する担当の教職員を配置しているか。	4	留学生がいないため該当しない。	なし	なし	
	留学生に対して在籍管理等生活指導を適切に行っているか。		留学生がいないため該当しない。	なし	なし	
	留学生に対し、就職・進学等卒業後の進路に関する指導・支援を適切に行っているか。		留学生がいないため該当しない。	なし	なし	
	留学生に関する指導記録を適切に保存しているか。		留学生がいないため該当しない。	なし	なし	
				記載責任者　職・氏名	教務部長　　味　村　吉　浩	

２）柔道整復学科（夜間部）						
小項目	チェック項目	評定	現状の取組状況	課　　題	今後の改善方策	参考資料
5-18-2 留学生に対する相談体制を整備しているか。	留学生の相談等に対応する担当の教職員を配置しているか。	4	留学生がいないため該当しない。	なし	なし	
	留学生に対して在籍管理等生活指導を適切に行っているか。		留学生がいないため該当しない。	なし	なし	
	留学生に対し、就職・進学等卒業後の進路に関する指導・支援を適切に行っているか。		留学生がいないため該当しない。	なし	なし	
	留学生に関する指導記録を適切に保存しているか。		留学生がいないため該当しない。	なし	なし	
				記載責任者　職・氏名	教務部長　　味　村　吉　浩	

３）鍼灸学科（昼間部）						
小項目	チェック項目	評定	現状の取組状況	課　　題	今後の改善方策	参考資料
5-18-2 留学生に対する相談体制を整備しているか。	留学生の相談等に対応する担当の教職員を配置しているか。	4	留学生がいないため該当しない。	なし	なし	
	留学生に対して在籍管理等生活指導を適切に行っているか。		留学生がいないため該当しない。	なし	なし	
	留学生に対し、就職・進学等卒業後の進路に関する指導・支援を適切に行っているか。		留学生がいないため該当しない。	なし	なし	
	留学生に関する指導記録を適切に保存しているか。		留学生がいないため該当しない。	なし	なし	

	記載責任者　職・氏名	教務部長　　味　村　吉　浩

４）スポーツ鍼灸学科

小項目	チェック項目	評定	現状の取組状況	課　　題	今後の改善方策	参考資料
5-18-2 留学生に対する相談体制を整備しているか。	留学生の相談等に対応する担当の教職員を配置しているか。	4	留学生がいないため該当しない。	なし	なし	
	留学生に対して在籍管理等生活指導を適切に行っているか。		留学生がいないため該当しない。	なし	なし	
	留学生に対し、就職・進学等卒業後の進路に関する指導・支援を適切に行っているか。		留学生がいないため該当しない。	なし	なし	
	留学生に関する指導記録を適切に保存しているか。		留学生がいないため該当しない。	なし	なし	
				記載責任者　職・氏名	教務部長　　味　村　吉　浩	

５）理学療法学科

小項目	チェック項目	評定	現状の取組状況	課　　題	今後の改善方策	参考資料
5-18-2 留学生に対する相談体制を整備しているか。	留学生の相談等に対応する担当の教職員を配置しているか。	4	留学生がいないため該当しない。	なし	なし	
	留学生に対して在籍管理等生活指導を適切に行っているか。		留学生がいないため該当しない。	なし	なし	
	留学生に対し、就職・進学等卒業後の進路に関する指導・支援を適切に行っているか。		留学生がいないため該当しない。	なし	なし	
	留学生に関する指導記録を適切に保存してい		留学生がいないため該当しない。	なし	なし	

	るか。					
				記載責任者　職・氏名	教務部長　　味　村　吉　浩	

６）作業療法学科

小項目	チェック項目	評定	現状の取組状況	課　　題	今後の改善方策	参考資料
5-18-2 留学生に対する相談体制を整備しているか。	留学生の相談等に対応する担当の教職員を配置しているか。	4	留学生がいないため該当しない。	なし	なし	
	留学生に対して在籍管理等生活指導を適切に行っているか。		留学生がいないため該当しない。	なし	なし	
	留学生に対し、就職・進学等卒業後の進路に関する指導・支援を適切に行っているか。		留学生がいないため該当しない。	なし	なし	
	留学生に関する指導記録を適切に保存しているか。		留学生がいないため該当しない。	なし	なし	
				記載責任者　職・氏名	教務部長　　味　村　吉　浩	

７）看護学科

小項目	チェック項目	評定	現状の取組状況	課　　題	今後の改善方策	参考資料
5-18-2 留学生に対する相談体制を整備しているか。	留学生の相談等に対応する担当の教職員を配置しているか。	4	留学生がいないため該当しない。	なし	なし	
	留学生に対して在籍管理等生活指導を適切に行っているか。		留学生がいないため該当しない。	なし	なし	
	留学生に対し、就職・進学等卒業後の進路に関する指導・支援を適切に行っているか。		留学生がいないため該当しない。	なし	なし	
	留学生に関する指導記		留学生がいないため該	なし	なし	

	録を適切に保存しているか。		当しない。			
				記載責任者　職・氏名	教務部長　　味　村　吉　浩	

８）歯科衛生学科						
小項目	チェック項目	評定	現状の取組状況	課　　題	今後の改善方策	参考資料
5-18-2 留学生に対する相談体制を整備しているか。	留学生の相談等に対応する担当の教職員を配置しているか。	4	留学生がいないため該当しない。	なし	なし	
	留学生に対して在籍管理等生活指導を適切に行っているか。		留学生がいないため該当しない。	なし	なし	
	留学生に対し、就職・進学等卒業後の進路に関する指導・支援を適切に行っているか。		留学生がいないため該当しない。	なし	なし	
	留学生に関する指導記録を適切に保存しているか。		留学生がいないため該当しない。	なし	なし	
				記載責任者　職・氏名	教務部長　　味　村　吉　浩	

９）生涯スポーツトレーナー介護福祉学科						
小項目	チェック項目	評定	現状の取組状況	課　　題	今後の改善方策	参考資料
5-18-2 留学生に対する相談体制を整備しているか。	留学生の相談等に対応する担当の教職員を配置しているか。	3	生活相談員の配置がある。	教員との連携が課題	情報の交換を密にして情報を共有する。	個人記録
	留学生に対して在籍管理等生活指導を適切に行っているか。		定期的に面接を行ったり、遅刻や欠席時の連絡をするなど密に連絡を入れている。	相談員との連携	綿密な情報交換と適切な支援を行う。	
	留学生に対し、就職・進学等卒業後の進路に関する指導・支援を適切に		開設年度で１年生が在籍いるが資格取得や就職については話す機会	特になし	特になし	

	行っているか。		を作っている。			
	留学生に関する指導記録を適切に保存しているか。		個別記録として保存している。	教員によって記録に差がある。	書式や内容について検討する。	
				記載責任者　職・氏名	学科長　　井　上　由紀子	

10）アスレティックリハビリテーション・スポーツトレーナー学科

小項目	チェック項目	評定	現状の取組状況	課　　題	今後の改善方策	参考資料
5-18-2 留学生に対する相談体制を整備しているか。	留学生の相談等に対応する担当の教職員を配置しているか。	4	留学生がいないため該当しない。	なし	なし	
	留学生に対して在籍管理等生活指導を適切に行っているか。		留学生がいないため該当しない。	なし	なし	
	留学生に対し、就職・進学等卒業後の進路に関する指導・支援を適切に行っているか。		留学生がいないため該当しない。	なし	なし	
	留学生に関する指導記録を適切に保存しているか。		留学生がいないため該当しない。	なし	なし	
				記載責任者　職・氏名	教務部長　　味　村　吉　浩	

11）整体セラピスト学科

小項目	チェック項目	評定	現状の取組状況	課　　題	今後の改善方策	参考資料
5-18-2 留学生に対する相談体制を整備しているか。	留学生の相談等に対応する担当の教職員を配置しているか。	4	留学生がいないため該当しない。	なし	なし	
	留学生に対して在籍管理等生活指導を適切に行っているか。		留学生がいないため該当しない。	なし	なし	
	留学生に対し、就職・進学等卒業後の進路に関		留学生がいないため該当しない。	なし	なし	

	する指導・支援を適切に行っているか。					
	留学生に関する指導記録を適切に保存しているか。		留学生がいないため該当しない。	なし	なし	
				記載責任者　職・氏名	教務部長　　味　村　吉　浩	

12）日本語学科

小項目	チェック項目	評定	現状の取組状況	課　　題	今後の改善方策	参考資料
5-18-2 留学生に対する相談体制を整備しているか。	留学生の相談等に対応する担当の教職員を配置しているか。	2	クラスごとに主となる担当教員を決め対応している。	相談対応後の対処までに時間がかかる。	対処までの経路の迅速化。	なし
	留学生に対して在籍管理等生活指導を適切に行っているか。		在籍管理、生活指導は行っている。	生活面での指導が徹底されず、規則を守れない学生がいる。	生活指導、管理の専任を置く。	
	留学生に対し、就職・進学等卒業後の進路に関する指導・支援を適切に行っているか。		進路に関しては早目に説明を行い指導している。	就職に関しては、まだ指導体制が整備されていない。	就職サポート体制の整備。	
	留学生に関する指導記録を適切に保存しているか。		保存している	なし	なし	
				記載責任者　職・氏名	学科長　　阿　野　由利子	

５－18　学生相談

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
学生相談体制としては担任等をはじめとする学科教員との個別相談体制のほか、学校カウンセラーを外部委託しても体制を整えている。留学生についても海外事業部職員および学校カウンセラーが対応している。	海外事業部には法人職員のほか、ネパール人１名も配置している。

記載責任者　職・氏名	教務部長　　味　村　吉　浩

５－19　学生生活

小項目	チェック項目	評定	現状の取組状況	課　　題	今後の改善方策	参考資料
5-19-1 学生の経済的側面に対する支援体制を整備しているか。	学校独自の奨学金制度を整備しているか。	4	学校法人の奨学金制度を昨年度、創設した。	現在のところ課題がみられない。	特になし。	学生募集要項 学校ホームページ
	学費の減免、分割納付制度を整備しているか。		延納制度および分割納付制度を設けている。	経済的事情から滞納する学生がみられる。	特になし。	
	大規模災害発生時および家計急変時に対応する支援制度を整備しているか。		特に設けていない。	なし	なし	
	全ての経済的支援制度の利用について学生･保護者に情報提供しているか。		提供している。	特になし。	特になし。	
	公的支援制度も含めた経済的支援制度に関する相談に適切に対応しているか。		学生または保護者からの問合せまたは申出に対して対応している。	特になし。	特になし。	
	全ての経済的支援制度の利用について実績を把握しているか。		把握している。	特になし。	特になし。	
				記載責任者　職・氏名	学生部長　　大　森　廣　喜	

小項目	チェック項目	評定	現状の取組状況	課　　題	今後の改善方策	参考資料
5-19-2 学生の健康管理を行う体制を整備しているか。	学校保健計画を定めているか。	3	定めていない。	学校保健計画を定める必要がある。	学校保健計画の策定	保健室利用記録 学籍簿 健康診断記録
	学校医を選任しているか。		選任している。	特になし。	特になし。	

	保健室を整備し専門職員を配置しているか。		専門職員を配置していず、教員が対応に当たっている。	特になし。	引き続き教員が対応する。	
	定期健康診断を実施して記録を保存しているか。		年 1 回の定期健康診断を実施し、記録を保存している。	特になし。	特になし。	
	有所見者の再健診について適切に対応しているか。		再健診受診の促しおよび結果報告を受けている。	特になし。	特になし。	
				記載責任者　職・氏名	学生部長　　大　森　廣　喜	

小項目	チェック項目	評定	現状の取組状況	課　　題	今後の改善方策	参考資料
5-19-3 学生寮の設置などの生活環境支援体制を整備しているか。	遠隔地から就学する学生のための寮を整備しているか。	4	学生寮を設けている。	学生寮戸数よりも入寮希望者が上回っている。	現状のままとする。	
	学生寮の管理体制、委託業務、生活指導体制等は明確になっているか。		業者委託している。	特になし。	特になし。	
	学生寮の数、利用人員、充足状況は明確になっているか。		明確になっている。	特になし。	特になし。	
				記載責任者　職・氏名	学生部長　　大　森　廣　喜	

小項目	チェック項目	評定	現状の取組状況	課　　題	今後の改善方策	参考資料
5-19-4 課外活動に対する支援体制を整備しているか。	クラブ活動等の団体の活動状況を把握しているか。	4	把握している。	特になし。	特になし。	
	大会への引率、補助金の交付など具体的な支援を行っているか。		引率および補助金交付を行っている。	特になし。	引き続き支援を行う。	
	大会成績など実績を把握しているか。		把握している。	特になし。	特になし。	

	記載責任者　職・氏名	教務部長　　味　村　吉　浩

５－19　学生生活

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
経済的支援体制として、学費の延納や分割後納制度、学校法人奨学金制度を設けている。健康診断は年 1 回実施しているが、学校保健計画を策定する必要がある。学生寮は入寮希望者に対して戸数が不足しているが、年度によって入寮希望者数に変動があるため、入寮できない学生に対しては賃貸物件の紹介にとどめる。	馬借校舎においては急病や事故に対して看護学科教員（看護師）が対応に当たっている。東篠崎校舎では附属診療所勤務の医師または看護師が対応に当たっている。片野校舎では学科教員が対応に当たっている。

記載責任者　職・氏名	教務部長　　味　村　吉　浩

５－20　保護者との連携

小項目	チェック項目	評定	現状の取組状況	課　　題	今後の改善方策	参考資料
5-20-1 保護者との連携体制を構築しているか。	保護者会の開催等、学校の教育活動に関する情報提供を適切に行っているか。	4	未成年者が在学する学科を主に開催している。	未成年者が在学する学科でも開催していないところがある。	開催するよう学科に提案する。	個別面談記録 学籍簿 動態表
	個別面談等の機会を保護者に提供し、面談記録を適切に保存しているか。		保護者からの求めに応じて随時面談を実施して、記録を保存している。	全ての学生の保護者に個別面談等を行う場所および時間がない。	保護者が個別面談の機会を希望するか調査を行う。	
	学力不足、心理面等の問題解決にあたって、保護者と適切に連携しているか。		適宜、担任から保護者等に対して連絡を行っている。	特になし。	特になし。	

	緊急時の連絡体制を確保しているか。		確保している。	特になし。	特になし。	
				記載責任者　職・氏名	教務部長　　味　村　吉　浩	

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
保護者会等の開催は、一部の学科においてしか行っていない。学生が未成年者の場合は、学業や心理面等の問題解決のために担任が適宜保護者に連絡を行い、連携を密になるよう心がけている。	

記載責任者　職・氏名	教務部長　　味　村　吉　浩

５－21　卒業生・社会人

小項目	チェック項目	評定	現状の取組状況	課　　題	今後の改善方策	参考資料
5-21-1 卒業生への支援体制を整備しているか。	同窓会組織を組織し、活動状況を把握しているか。	3	同窓会を組織して、活動に直接関わっている。	特になし。	特になし。	
	再就職、キャリアアップ等について卒後の相談に適切に対応しているか。		相談の申し出がある都度対応している。	特になし。	特になし。	
	卒後のキャリアアップのための講座等を開講しているか。		開講している。	特になし。	特になし。	
	卒後の研究活動に対する支援を行っているか。		行っていない。	卒後の研究活動の把握に至っていない。	支援を要する研究活動について報告を受ける体制の整備。	
				記載責任者　職・氏名	教務部長　　味　村　吉　浩	

小項目	チェック項目	評定	現状の取組状況	課　　題	今後の改善方策	参考資料
5-21-2 産学連携による卒後の再教育プログラムの開発・実施に取り組んでいるか。	関連業界・職能団体等と再教育プログラムについて共同開発等を行っているか。	1	行っていない。	特になし。	特になし。	
	学会・研究会活動において、関連業界等と連携・協力を行っているか。		行っていない。	特になし。	検討課題とする。	
				記載責任者　職・氏名	教務部長　　味　村　吉　浩	

小項目	チェック項目	評定	現状の取組状況	課　　題	今後の改善方策	参考資料
5-21-３ 社会人のニーズを踏まえた教育環境を整備しているか。	社会人経験者の入学に際し、入学前の履修に関する取扱いを学則等に定め、適切に認定しているか。	4	既修得単位認定制度について入学前に告知して、規程に基づいて認定している。	特になし。	特になし。	学則 学生便覧 既修得単位認定制度のしおり
	社会人学生に配慮し、長期履修制度等を導入しているか。		特に社会人学生に配慮した履修制度は設けていない。	社会人学生も、社会人ではない学生と同じ条件で履修を課している。	特に社会人学生に配慮した履修制度を設ける予定はない。	
	図書室、実習室等の利用において、社会人学生に対し配慮しているか。		特に社会人学生に配慮した利用制度を設けていない。	特になし。	特になし。	
	社会人学生等に対し、就職等進路相談において個別面談を実施しているか。		社会人学生に限らず、就職等の進路相談は随時実施している。	特になし。	特になし。	
				記載責任者　職・氏名	教務部長　　味　村　吉　浩	

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
同窓会には学校教職員も携わって運営しているが、活動そのものがやや活発ではない。また、学科によっては社会人学生が在学しているが、社会人であることを理由に特に配慮を行わず、社会人ではない学生と同じ環境のもとで就学させている。	

記載責任者　職・氏名	教務部長　　味　村　吉　浩

基準６　教育環境　【平均評価：２．９】

総括と課題	今後の改善策	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
教育施設・設備・教育用具等は法令に基づいて整備を図っている。学外実習・インターンシップ等については学科によっては整備されていないところも見受けられる。	校外実習・インターンシップ等について、実施要綱やマニュアルを整備する必要がある。	

記載責任者　職・氏名	教務部長　　味　村　吉　浩

６－22　施設・設備等

小項目	チェック項目	評定	現状の取組状況	課　　題	今後の改善方策	参考資料
6-22-1 教育上の必要性に十分対応した施設・設備・教育用具を整備しているか。	施設・設備・機器類等は設置基準、関係法令に適合し、かつ、充実しているか。	4	柔道整復学科以下 8 学科の国家資格養成学校として法規上の教室、実習室等教育に支障ないよう整備され、法規に適合している。	特になし	特になし	
	図書室、実習室など、学生の学習支援のための施設を整備しているか。		図書室専任職員を配して、図書の貸出を行っている。又、学習支援として学生専用ノートパソコンを設置している	蔵書点検時に紛失書籍がある。	学生への啓蒙活動が必要となる。	
	図書室の図書は専門分野に応じ充実しているか。		法規に適合した書籍及び各学科毎に専門医学雑誌を購入している。	学科増設に伴う利用学生の増加	学習室の検討	
	学生の休憩・食事のためのスペースを確保しているか。		3F～8F に学生懇談室を設置している。	特になし	特になし	
	施設・設備のバリアフリー化に取り組んでいる		エレベーター2 基設置しているので、上下方	経年劣化による改修	検討中	

	か。		向の移動に支障はない。また、各フローも段差もない構造となっている。			
	手洗い設備など学校施設内の衛生管理を徹底しているか。		手洗い設備のある個所には手動洗浄器具（石鹸）を設置また、消毒用ボトルも配置している。	特になし	特になし	
	卒業生に施設･設備を提供しているか。		検討中			
	施設・設備等の日常点検、定期点検、補修等について適切に対応しているか。		施設管理者を選任対応している。	特になし	特になし	
	施設の改築･改修、設備の更新の計画を策定し、適切に実施しているか。		エレベーターの改修を検討している。	建物全体的な経年劣化への対応	随時更新	
				記載責任者　職・氏名	学生部長　　大　森　廣　喜	

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
教育上に必要な施設、設備は支障が無いよう整備されている。また必要があれば直ぐに対応できる体制を整えている。このような状況であれば学生及び教職員も教育活動に専念できると思われる。	学科増設に伴う学生数の増加に対応すべき環境づくりが今後の課題となってくる。

記載責任者　職・氏名	学生部長　　大　森　廣　喜

６－23　学外実習・インターンシップ等

１）柔道整復学科（昼間部）

小項目	チェック項目	評定	現状の取組状況	課　　題	今後の改善方策	参考資料

6-23-1 学外実習、インターンシップ、海外研修等の実施体制を整備しているか。	学外実習等について、異議や教育課程上の位置づけを明確にしているか。	3	2 年次に九州歯科大学協力のもと、解剖学実習を行っている。	カリキュラム変更に伴い、臨床実習の研修施設の確保が必要である。	臨床実習の授業で学外授業を行い、解剖学実習をより有意義なものにする。	
	学外実習等について、実施要綱・マニュアルを整備し、適切に運用しているか。		解剖学実習を行う前に、実施要項をもとに、学生指導を行っている。	臨床実習の授業で研修先に向かうまえのマニュアルなどが必要。	今年度の臨床実習の前に、臨床現場で必要となる知識やマナーを教育する。	
	関連業界等との連携による企業研修等を実施しているか。		教員研修やセミナーなどに参加している。	参加する人数が少ない。	参加する人数を増やし、教員のレベルアップを図る。	
	学外実習について、成績評価基準を明確にしているか。		現在研修先へレポートを提出し評価としている	点数などで評価をすることがない。	後日に確認テストなどを行い、学習意欲を高める。	
	学外実習について実習機関の指導者との連絡・協議の機会を確保しているか。		2 年次に九州歯科大学協力のもと、解剖学実習を行っている。	臨床施設の確保が必要となる。	研修先との連絡を定期的に行う必要がある。	
	学外実習の教育効果について確認しているか。		現在研修先へレポートを提出している	解剖学の理解度が低い。	1 年時から解剖学の理解度を高める	
	学校行事の運営等に学生を積極的に参画させているか。		学園祭や、長崎街道ウォークなどに積極的に参加させている。	なし。		
	卒業生・保護者・関連業界等、また、学生の就職先に行事の案内をしているか。		同窓会の案内などは行っている。	卒業生や保護者向けのイベントが特にない	現在行っている文化祭などで卒業生や保護者が参加するようにしていきたい。	
				記載責任者　職・氏名	学科長　　桑野　幸仁	

２）柔道整復学科（夜間部）

小項目	チェック項目	評定	現状の取組状況	課　　題	今後の改善方策	参考資料
6-23-1 学外実習、インターンシップ、海外研修等の実施体制を整備しているか。	学外実習等について、異議や教育課程上の位置づけを明確にしているか。	3	2 年次に九州歯科大学協力のもと、解剖学実習を行っている。	カリキュラム変更に伴い、臨床実習の研修施設の確保が必要である。	臨床実習の授業で学外授業を行い、解剖学実習をより有意義なものにする。	

	学外実習等について、実施要綱・マニュアルを整備し、適切に運用しているか。		解剖学実習を行う前に、実施要項をもとに、学生指導を行っている。	臨床実習の授業で研修先に向かうまえのマニュアルなどが必要。	今年度の臨床実習の前に、臨床現場で必要となる知識やマナーを教育する。	
	関連業界等との連携による企業研修等を実施しているか。		教員研修やセミナーなどに参加している。	参加する人数が少ない。	参加する人数を増やし、教員のレベルアップを図る。	
	学外実習について、成績評価基準を明確にしているか。		現在研修先へレポートを提出し評価としている	点数などで評価をすることがない。	後日に確認テストなどを行い、学習意欲を高める。	
	学外実習について実習機関の指導者との連絡・協議の機会を確保しているか。		2 年次に九州歯科大学協力のもと、解剖学実習を行っている。	臨床施設の確保が必要となる。	研修先との連絡を定期的に行う必要がある。	
	学外実習の教育効果について確認しているか。		現在研修先へレポートを提出している	解剖学の理解度が低い。	1 年時から解剖学の理解度を高める	
	学校行事の運営等に学生を積極的に参画させているか。		学園祭や、長崎街道ウォークなどに積極的に参加させている。	なし。		
	卒業生・保護者・関連業界等、また、学生の就職先に行事の案内をしているか。		同窓会の案内などは行っている。	卒業生や保護者向けのイベントが特にない	現在行っている文化祭などで卒業生や保護者が参加するようにしていきたい。	
				記載責任者　職・氏名	学科長　　桑野　幸仁	

３）鍼灸学科（昼間部）						
小項目	チェック項目	評定	現状の取組状況	課　　題	今後の改善方策	参考資料
6-23-1 学外実習、インターンシップ、海外研修等の実施体制を整備しているか。	学外実習等について、異議や教育課程上の位置づけを明確にしているか。	1	位置づけは明確にできていない	学校単位の研修はあるが、学科まで落とし込めていない。	学科へ落とし込む場を作る。	
	学外実習等について、実施要綱・マニュアルを整備し、適切に運用しているか。		インターンシップは行われている。	学校単位で動いており、マニュアルを学科で把握していない	学科へ落とし込む場を作る。	

	関連業界等との連携による企業研修等を実施しているか。		年に数回、企業にきて頂いて実施している	業界の動向に合わせていく必要がある	職業実践専門課程を活用し、動向をつねに把握しておく。	
	学外実習について、成績評価基準を明確にしているか。		把握していない	学科が現状を把握していない	学科へ落とし込む場を作る。	
	学外実習について実習機関の指導者との連絡・協議の機会を確保しているか。		把握していない	学科が現状を把握していない	学科へ落とし込む場を作る。	
	学外実習の教育効果について確認しているか。		確認していない	学科が現状を把握していない	学科へ落とし込む場を作る。	
	学校行事の運営等に学生を積極的に参画させているか。		学園祭や部活動など積極的に参加させている	学生が積極的に参加しているが、まだ教員主体になっている。	学生が主体となる委員を発足	
	卒業生・保護者・関連業界等、また、学生の就職先に行事の案内をしているか。		企業説明会などの案内はしている。	学科が現状を把握していない	学科へ落とし込む場を作る。	
				記載責任者　職・氏名	鍼灸学科　学科長　堀之内　貴一	

4）スポーツ鍼灸学科						
小項目	チェック項目	評定	現状の取組状況	課　　題	今後の改善方策	参考資料
6-23-1 学外実習、インターンシップ、海外研修等の実施体制を整備しているか。	学外実習等について、異議や教育課程上の位置づけを明確にしているか。	1	位置づけは明確にできていない	学校単位の研修はあるが、学科まで落とし込めていない。	学科へ落とし込む場を作る。	
	学外実習等について、実施要綱・マニュアルを整備し、適切に運用しているか。		インターンシップは行われている。	学校単位で動いており、マニュアルを学科で把握していない	学科へ落とし込む場を作る。	
	関連業界等との連携による企業研修等を実施しているか。		年に数回、企業にきて頂いて実施している	業界の動向に合わせていく必要がある	職業実践専門課程を活用し、動向をつねに把握しておく。	

	学外実習について、成績評価基準を明確にしているか。		把握していない	学科が現状を把握していない	学科へ落とし込む場を作る。	
	学外実習について実習機関の指導者との連絡・協議の機会を確保しているか。		把握していない	学科が現状を把握していない	学科へ落とし込む場を作る。	
	学外実習の教育効果について確認しているか。		確認していない	学科が現状を把握していない	学科へ落とし込む場を作る。	
	学校行事の運営等に学生を積極的に参画させているか。		学園祭や部活動など積極的に参加させている	学生が積極的に参加しているが、まだ教員主体になっている。	学生が主体となる委員を発足	
	卒業生・保護者・関連業界等、また、学生の就職先に行事の案内をしているか。		企業説明会などの案内はしている。	学科が現状を把握していない	学科へ落とし込む場を作る。	
				記載責任者　職・氏名	スポーツ鍼灸学科　学科長　松波　賢	

５）理学療法学科

小項目	チェック項目	評定	現状の取組状況	課　　題	今後の改善方策	参考資料
6-23-1 学外実習、インターンシップ、海外研修等の実施体制を整備しているか。	学外実習等について、異議や教育課程上の位置づけを明確にしているか。	4	臨床実習指導要綱に明記している。	なし	なし	臨床実習指導要綱
	学外実習等について、実施要綱・マニュアルを整備し、適切に運用しているか。		臨床実習指導要綱に明記している。	なし	なし	
	関連業界等との連携による企業研修等を実施しているか。		臨床実習指導者との打ち合わせ会議の前に研修的位置づけで意見交換など行っている	なし	なし	
	学外実習について、成績評価基準を明確にして		評価基準を明確にして学生や指導者へ伝えて	なし	なし	

	いるか。		いる。また臨床実習指導要綱に明記している。			
	学外実習について実習機関の指導者との連絡・協議の機会を確保しているか。		臨床実習指導者との打ち合わせ会議を実施している。	なし	なし	
	学外実習の教育効果について確認しているか。		臨床実習後に会議を実施し、確認している。	なし	なし	
	学校行事の運営等に学生を積極的に参画させているか。		学生主体にて学園祭に参画させている。	なし	なし	
	卒業生・保護者・関連業界等、また、学生の就職先に行事の案内をしているか。		行事の案内を学科単独ではなく、学校から行っている	なし	なし	
				記載責任者　職・氏名	学科長補佐　永　野　　忍	

６）作業療法学科

小項目	チェック項目	評定	現状の取組状況	課　　題	今後の改善方策	参考資料
6-23-1 学外実習、インターンシップ、海外研修等の実施体制を整備しているか。	学外実習等について、意義や教育課程上の位置づけを明確にしているか。	2	作業療法学実習などカリキュラムの授業において、学外実習を実施。意義についてシラバス内で掲載。	完成年度を迎えていないため、3年間の授業計画が存在しない。	教員の計画でなく、学科全体の計画に基づいて授業評価等の結果ももとに協議する。	
	学外実習等について、実施要綱・マニュアルを整備し、適切に運用しているか。		理学療法学科や他校の実施要綱・マニュアルの情報収集を実施。運用はまだ迎えていないが、実習年度に向け整備している。	完成年度を迎えていないため、臨床先等の情報収集は未実施。	実習後に適切に臨床先などへのフィードバックをまとめ、次年度について編成・協議する。	
	関連業界等との連携による企業研修等を実施しているか。		企業説明会は、理学療法学科との共同作業によって、計画的に遂行する準備はできてい	完成年度を迎えていないため、関連業界との連携による企業研修は未実施。	関連業界などとの連携について協議する。	

			る。			
	学外実習について、成績評価基準を明確にしているか。		実技課題レポート作成を実施し、シラバス内で評価基準を掲載。	レポート評価点については、各教員内での基準で評価を実施。	授業評価等の結果をできる限り共通の基準をもとに成績について協議する。	
	学外実習について実習機関の指導者との連絡・協議の機会を確保しているか。		臨床実習は未実施。 実習期間の指導者との連絡は準備中。	完成年度を迎えていないため、具体的な実習機関等の指導者が存在しない。	実習関連規定について協議する。	
	学外実習の教育効果について確認しているか。		未実施	完成年度を迎えていないため、未実施。計画も未定。	教育効果について協議する。	
	学校行事の運営等に学生を積極的に参画させているか。		ボランティアなど、他の協力団体が主催する会への積極的参加を意識し、行政と連絡し参画している。	積極的に計画的に参画することはできていない。	年間計画を作成し、学科や学校全体で協議する。	
	卒業生・保護者・関連業界等、また、学生の就職先に行事の案内をしているか。		医療保健福祉機関からの求人に関する対応を通して、情報を収集することのみ実施。案内は未発送。	完成年度を迎えていないため、卒業生および就職先等の対象が存在しない。	保護者や関連業界への計画的な行事案内などの具体的な方法論について検討し、計画立案する。	
				記載責任者　職・氏名	学科教員　　中　山　　仁	

7）看護学科						
小項目	**チェック項目**	**評定**	**現状の取組状況**	**課　　題**	**今後の改善方策**	**参考資料**
6-23-1 学外実習、インターンシップ、海外研修等の実施体制を整備しているか。	学外実習等について、意議や教育課程上の位置づけを明確にしているか。	3	シラバス上で明確にしている。	内容の精査の必要性	意義や位置づけの再確認と検討を定期的に行う。	シラバス 実習要綱
	学外実習等について、実施要綱・マニュアルを整備し、適切に運用しているか。		実施要綱・マニュアルを整備し、適切に運用している。	実習要綱やマニュアルの修正・変更・追加の必要性	各科目の実習終了後の内容についての検討を行う。	
	関連業界等との連携に		企業研修はしていな	未定	未定	

	よる企業研修等を実施しているか。		い。			
	学外実習について、成績評価基準を明確にしているか。		各科目ごとに評価基準を作成している。	各科目ごとの評価基準の見直し	各科目の実習終了後に、評価基準の見直しを行う。	
	学外実習について実習機関の指導者との連絡・協議の機会を確保しているか。		実習指導者会議や臨地実習指導時のカンファレンス等を通して、連絡・協議の機会を確保している。	担当する教員との緻密な連絡・協議の必要性	実習期間の指導者の意見を取り入れ、連絡・協議の機会を確保する。	
	学外実習の教育効果について確認しているか。		臨地実習後の学内実習やリフレクションすることで、教育効果を確認している。	教育効果についての評価基準を明確にする。	教育効果の評価基準を作成する。	
	学校行事の運営等に学生を積極的に参画させているか。		長崎街道ウォークや学園祭、看護セミナーなどに参画させている。	積極的な参画ができる。	学生がどのような学校行事を希望しているのか情報収集する。	
	卒業生・保護者・関連業界等、また、学生の就職先に行事の案内をしているか。		入学式、卒業式などの行事や保護者会、就職説明会などについては、案内を出している。	各学年に必要な行事案内を明確にする。	各学年に必要な行事につて検討し、決定する。	
				記載責任者　職・氏名	学科長　　村山　由起子	

８）歯科衛生学科

小項目	チェック項目	評定	現状の取組状況	課　　題	今後の改善方策	参考資料
6-23-1 学外実習、インターンシップ、海外研修等の実施体制を整備しているか。	学外実習等について、異議や教育課程上の位置づけを明確にしているか。	2	これから行う	明確にできるようにする	特になし	
	学外実習等について、実施要綱・マニュアルを整備し、適切に運用しているか。		学外実習をまだ実施していない。 実習要綱・マニュアルがない	実習要綱・マニュアルを作成する	特になし	
	関連業界等との連携による企業研修等を実施		歯科メーカによるセミナーを開催している	特になし	特になし	

	しているか。					
	学外実習について、成績評価基準を明確にしているか。		学外実習をまだ実施していない。 評価基準のマニュアルがない	評価基準のマニュアル作成をする	特になし	
	学外実習について実習機関の指導者との連絡・協議の機会を確保しているか。		実施予定	特になし	特になし	
	学外実習の教育効果について確認しているか。		学外実習をまだ実施していない	特になし	特になし	
	学校行事の運営等に学生を積極的に参画させているか。		させている	特になし	特になし	
	卒業生・保護者・関連業界等、また、学生の就職先に行事の案内をしているか。		まだその時期にきていない	３年次に案内予定	特になし	
				記載責任者　職・氏名	学科長　　藤　幸枝	

９）生涯スポーツトレーナー介護福祉学科

小項目	チェック項目	評定	現状の取組状況	課　　題	今後の改善方策	参考資料
6-23-1 学外実習、インターンシップ、海外研修等の実施体制を整備しているか。	学外実習等について、異議や教育課程上の位置づけを明確にしているか。	4	**介護福祉士養成施設指定規則に則って、学外実習については明確にしている。**	特になし	特になし	学生便覧 「介護福祉士会及び福岡県介護福祉士養成施設連絡協議会意見交換会」 実習要綱など
	学外実習等について、実施要綱・マニュアルを整備し、適切に運用しているか。		学外実習については、実習先の選定、書類の書式を整備したり、実習要綱等を作成している。	状況に応じた見直しが必要。	定期的に検討する。	
	関連業界等との連携による企業研修等を実施しているか。		職能団体と養成施設との連携による研修が開催されている。	授業や実習巡回等で全員の参加が困難	研修機会が増やせるように時期等を調整する	
	学外実習について、成績		学外実習については一	特になし	特になし	

	評価基準を明確にしているか。		定の評価基準を設定しており、学生に公表している。			
	学外実習について実習機関の指導者との連絡・協議の機会を確保しているか。		連絡協議会としては行っていないが、実習巡回は指導者のアポイントメントをとって話し合いの場をもっている。	特になし	特になし	
	学外実習の教育効果について確認しているか。		総合演習で事後学習を行い、効果や課題について確認している。	特になし	特になし	
	学校行事の運営等に学生を積極的に参画させているか。		学校行事への積極的な参加や運営等への積極的な関わりを促している。	特になし	特になし	
	卒業生・保護者・関連業界等、また、学生の就職先に行事の案内をしているか。		開設年度で卒業生を輩出していない。	今後検討する。	特になし	
				記載責任者　職・氏名	学科長　　井　上　由紀子	

10）アスレティックリハビリテーション・スポーツトレーナー学科						
小項目	**チェック項目**	**評定**	**現状の取組状況**	**課　　題**	**今後の改善方策**	**参考資料**
6-23-1 学外実習、インターンシップ、海外研修等の実施体制を整備しているか。	学外実習等について、異議や教育課程上の位置づけを明確にしているか。	2	資格取得に必要な実習をカリキュラムに反映させている	特になし	特になし	
	学外実習等について、実施要綱・マニュアルを整備し、適切に運用しているか。		学生に対し、実習ごとに実施要綱は配布している。	マニュアルの作成を検討する。	誰しもが理解できる資料づくりを心がける	
	関連業界等との連携による企業研修等を実施しているか。		実習前に、オリエンテーションを実施している。	複数回の研修スケジュールを検討していく。	連携企業との綿密な連携が必要である。	

	学外実習について、成績評価基準を明確にしているか。		出席をもって成績評価をしている。	学生の取り組みなどについて、明確な評価基準を作成する必要がある。	評価項目の作成をしていく。	
	学外実習について実習機関の指導者との連絡・協議の機会を確保しているか。		実習終了後に、担当者と振り返りを行い、次年度の計画を立てている。	定期的な連絡・協議を検討していく。	連携企業との綿密な連携が必要である。	
	学外実習の教育効果について確認しているか。		各実習後に、振り返りさせるためレポート提出をさせている。	レポート作成能力の検討が必要である。	文章能力向上の講義実施を検討していく。	
	学校行事の運営等に学生を積極的に参画させているか。		学園祭で、来場者に向けて体力診断を実施している。	学事日程との調整が難しい。	カリキュラム編成の見直しを検討する。	
	卒業生・保護者・関連業界等、また、学生の就職先に行事の案内をしているか。		行事の案内はしていない。	企業と連携していく仕組み作りが必要である。	企業と目的・目標を共有していくシステムを作成する。	
				記載責任者　職・氏名	学科長　　寺　本　敦　司	

11）整体セラピスト学科

小項目	チェック項目	評定	現状の取組状況	課　　題	今後の改善方策	参考資料
6-23-1 学外実習、インターンシップ、海外研修等の実施体制を整備しているか。	学外実習等について、異議や教育課程上の位置づけを明確にしているか。	3	明確である	最善であるか毎回確認する	「振り返りアンケート」の集約をし、改善していく	
	学外実習等について、実施要綱・マニュアルを整備し、適切に運用しているか。		適切に運用している	最善であるか毎回確認する	「振り返りアンケート」の集約をし、改善していく	
	関連業界等との連携による企業研修等を実施しているか。		していない	関連グループとの日程調整	関連グループへ相談し現場研修を実施する	
	学外実習について、成績評価基準を明確にして		学生が決めた目標の達成ができたかどうか、	特になし		

	いるか。		またそこで何を学んだかを明確にできたかということを評価としている。			
	学外実習について実習機関の指導者との連絡・協議の機会を確保しているか。		事前ミーティングにて目的目標を共有している	特になし		
	学外実習の教育効果について確認しているか。		その都度、「振り返りアンケート」を実施したものを集計し全員で共有している。	特になし		
	学校行事の運営等に学生を積極的に参画させているか。		参加している。	特になし		
	卒業生・保護者・関連業界等、また、学生の就職先に行事の案内をしているか。		卒業生の保護者への案内は行っていなかった。	就職先への企業訪問の計画	卒業生を介した案内や、企業訪問時に行事の案内等をする	
				記載責任者　職・氏名	学科長　　蓑田　のり子	

12）日本語学科

小項目	チェック項目	評定	現状の取組状況	課　　題	今後の改善方策	参考資料
6-23-1 学外実習、インターンシップ、海外研修等の実施体制を整備しているか。	学外実習等について、異議や教育課程上の位置づけを明確にしているか。	3	該当しない			
	学外実習等について、実施要綱・マニュアルを整備し、適切に運用しているか。		該当しない			
	関連業界等との連携による企業研修等を実施しているか。		該当しない			
	学外実習について、成績		学外交流活動などは成	活動に対する積極性等	参加態度に応じた評価	

	評価基準を明確にしているか。		績評価基準は設定していない。	を十分に評価できていない。	基準の設定。	
	学外実習について実習機関の指導者との連絡・協議の機会を確保しているか。		該当しない			
	学外実習の教育効果について確認しているか。		外部との交流活動を行った後、フィードバックを行っている			
	学校行事の運営等に学生を積極的に参画させているか。		学園祭等の行事に関して企画、実施に参加させている。			
	卒業生・保護者・関連業界等、また、学生の就職先に行事の案内をしているか。		該当しない			
				記載責任者　職・氏名	学科長　　阿野由利子	

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
学外実習を実施している学科においては教育課程上の位置づけはなされているものの、実施要綱やマニュアルの整備が遅延しているところが見受けられる。	

記載責任者　職・氏名	教務部長　　味　村　吉　浩

６－24　防災・安全管理

小項目	チェック項目	評定	現状の取組状況	課　　題	今後の改善方策	参考資料
6-24-1 防災に対する組織体制を整備し、適切に運用しているか。	学校防災に関する計画、消防計画や災害発生時における具体的行動のマニュアルを整備しているか。	4	小倉北消防署へ消防計画書を提出。	特になし	特になし	

	施設・設備の耐震化に対応しているか。		特になし	特になし	特になし	
	消防設備等の整備および保守点検は法令に基づき行い、改善が必要な場合は適切に対応しているか。 防災（消防）訓練を定期的に実施し、記録を保存しているか。		毎年消防訓練実地計画書を消防署に提出し消防職員立会のもと実地している。消防署押印の書類一式は保管している。	特になし	特になし	
	備品の転倒防止など安全管理を徹底しているか。		現状では不十分である。	校舎内の不具合個所点検	随時対応	
	教職員・学生に防災研修・教育を行っているか。		消防訓練を実地している。その際に消防職員による防火に関する講話を行っている。	特になし	特になし	
				記載責任者　職・氏名	学生部長　　大　森　廣　喜	

小項目	チェック項目	評定	現状の取組状況	課　　題	今後の改善方策	参考資料
6-24-2 学内における安全管理体制を整備し、適切に運用しているか。	学校安全計画を策定しているか。	4	校舎内外に警備会社の防犯カメラを設置し、所轄警察署とも連携を図り不測の事態が発生した場合には迅速な対応できる体制を整えている。また、不審者の侵入を防ぐため、全ての学生及び教職員は名札ケースを常時携帯して部外者との区別している。	特になし	特になし	
	学生の生命と学校財産を加害者から守るための防犯体制を整備し、適切に運用しているか。					
	授業中に発生した事故等に関する対応マニュアルを作成し、適切に運用しているか。					
	薬品等の危険物の管理において、定期的にチェックを行うなど適切に対応しているか。					
	担当教員の明確化など		損害賠償責任保険等に	特になし	特になし	

	学外実習等の安全管理体制を整備しているか。		加入している。			
				記載責任者　職・氏名	学生部長　　大　森　廣　喜	

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
消防計画を策定し、消防訓練を年 1 回実施している。備品の転倒防止などの安全管理は定期的に確認して行っている。	

記載責任者　職・氏名	学生部長　　大　森　廣　喜

基準７　学生の募集と受入れ　【平均評価：３．５】

総括と課題	今後の改善策	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
学生募集については、規制に基づいた活動を行っている。入学選考についてはほとんどの教職員が関わって、学科別応募者・入学者数などのデータ管理も行っている。		

７－25　学生募集活動

小項目	チェック項目	評定	現状の取組状況	課　　題	今後の改善方策	参考資料
7-25-1 高等学校等接続する教育機関に対する情報提供に取り組んでいるか。	高等学校における進学説明会に参加し教育活動等の情報提供を行っているか。	3	ガイダンス業者からの参加依頼を中心に十分に行っている	ガイダンス本数が多い	効果的にガイダンスを選別して参加して情報提供に努める	
	高等学校等の教職員に		高校訪問の実施の際行	回り切れていない高校	予定通りの高校訪問を	

	対する入学説明会を実施しているか。		っている	がある	実施すること	
	教員または保護者向けの学校案内等を作成しているか。		保護者向けの専用パンフレットは作成していない	保護者用パンフ無し	今後作成予定	
				記載責任者　職・氏名	広報部長　　村　方　浩　典	

小項目	チェック項目	評定	現状の取組状況	課　　題	今後の改善方策	参考資料
7-25-2 学生募集活動を適切、かつ、効果的に行っているか。	入学時期に照らし、適切な時期に願書の受付を開始しているか。	4	行っている。	特になし	特になし	
	専修学校団体が行う自主規制に則した募集活動を行っているか。		行っている	特になし	特になし	
	志願者等からの入学相談に適切に対応しているか。		行っている	出願希望者に対しての個別対応を 100%クリアーできていない	個別に来る出願の確率の高い方を最優先に対応していく	
	学校案内等において、特徴ある教育活動、学修成果等について正確に分かりやすく紹介しているか。		行っている	昨年度不足部分があった	今年度は不足分の改善を図っている	
	広報活動・学生募集活動において、情報管理等のチェック体制を整備しているか。		行っている	特になし	特になし	
	体験入学、オープンキャンパスなどの実施において、多くの参加機会の提供や実施内容の工夫などを行っているか。		行っている	特になし	資料請求者やガイダンス参加者に対して行っている DM 発送を継続していく	
	志願者の状況に応じて多様な試験・選考方法を取り入れているか。		行っている	今年度変更	新規推薦入試システムを今年度導入し常に改善を図っている	
				記載責任者　職・氏名	広報部長　　村　方　浩　典	

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
今年度は昨年度よりも実績分析を詳細に行い、営業部隊各自に明確な目標を持たせた。この 3 年間で一番厳しい状況に昨年度なったことにより、今年度が勝負の年ととらえ工夫を凝らし、数字という実績を出していく。	今迄の総合パンフレットに加え、学校見学会・出張授業用パンフレット。社会人用のパンフレットを作成、留年生・聴講生など、今までにない説明資料を作成して高校生・社会人共に学生獲得に動けるように特色を出したリーフレットを作成。

記載責任者　職・氏名	広報部長　　村　方　浩　典

７－26　入学選考

小項目	チェック項目	評定	現状の取組状況	課　　題	今後の改善方策	参考資料
7-26-1 入学選考基準を明確化し、適切に運用しているか。	入学選考基準、方法は、規程等で明確に定めているか。	4	学則および入試規程において定めている。	特になし	特になし	学則 入試規程 入試判定会議資料 学生募集要項
	入学選考等は、規程に基づき適切に運用しているか。		規程に基づく運用を行っている。	特になし	特になし	
	入学選考の公平性を確保するための合否判定体制を整備しているか。		入試判定会議において公平に合否判定を行っている。	特になし	特になし	
				記載責任者　職・氏名	教務部長　　味　村　吉　浩	

小項目	チェック項目	評定	現状の取組状況	課　　題	今後の改善方策	参考資料
7-26-2 入学選考に関する実績を把握し、授業改善等に活用しているか。	学科ごとの合格率・辞退率などの現況を示すデータを蓄積し、適切に管理しているか。	2	学科単位の合格および辞退についてデータ化できていない。	特に問題視していなかった。	学科単位の合格および辞退についてのデータ管理を行う。	入学願書 入試判定会議資料 学生募集要項
	学科ごとの入学者の傾向について把握し、授業		学科単位の入学者の傾向は把握しているが、	入学者の傾向を授業方法の検討などに反映で	各学科に対して入学者の傾向を報告し、授業	

	方法の検討など適切に対応しているか。		授業方法の検討などに反映できていない。	きていない。	方法の検討に反映させる。	
	学科別応募者・入学者数の予測数値を算出しているか。		算出している。	学科によっては予測数値と実際の数値との間でかい離が見られる。	定期的な予測数値の見直し。	
	財務等の計画数値と応募者数の予測値との整合性を図っているか。		図っている。	特になし	特になし	
				記載責任者　職・氏名	教務部長　　味　村　吉　浩	

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
入学選考は選考基準に基づいて適切に行っているが、学科ごとの合格率および辞退率をデータ化して、それを授業方法の検討などに反映させる必要がある。	特になし

記載責任者　職・氏名	教務部長　　味　村　吉　浩

７－27　学納金

小項目	チェック項目	評定	現状の取組状況	課　　題	今後の改善方策	参考資料
7-27-1 経費内容に対応し、学納金を算定しているか。	学納金の算定内容、決定の過程を明確にしているか。	4	明確にしている。	特になし	特になし	学生募集要項
	学納金の水準を把握しているか。		把握している。	特になし	特になし	
	学納金等徴収する金額はすべて明示しているか。		学生募集要項において明示している。	特になし	特になし	
				記載責任者　職・氏名	事務局長　　西　田　真　紀	

小項目	チェック項目	評定	現状の取組状況	課　　題	今後の改善方策	参考資料
7-27-2 入学辞退者に対し授業料等について適切な取扱いを行っているか。	文部科学省通知の趣旨に基づき、入学辞退者に対する授業料の返還の取扱いに対して、募集要項等に明示し、適切に取り扱っているか。	4	入学辞退者に対する取扱いは学生募集要項に明示するとともに、辞退者には入学金以外の学納金を全額返還している。	特になし	特になし	学生募集要項
				記載責任者　職・氏名	学生部長　　大　森　廣　喜	

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
学納金は適切に算定し、文部科学省の通知の趣旨に基づいた取扱を行っている。	

記載責任者　職・氏名	教務部長　　味　村　吉　浩

基準８　財務　【平均評価：３．０】

８－28　財務基盤

小項目	チェック項目	評定	現状の取組状況	課　　題	今後の改善方策	参考資料
8-28-1 学校および法人運営の中長期的な財務基盤は安定しているか。	応募者数･入学者数および定員充足率の推移を把握しているか。	3	把握している。	特になし。	特になし。	
	収入と支出のバランスがとれているか。		バランスが取れている。	入学生獲得。	募集の方法を工夫し、学生獲得につなげる。	
	貸借対照表の翌年度繰越消費収入超過額がマイナスになっている場合、それを解消する計画を立てているか。		立てている。	特になし。	特になし。	

	消費収支計算書の当年度消費収入超過額がマイナスになっている場合、その原因を正確に把握しているか。		把握している。	特になし。	特になし。	
	設備投資が過大になっていないか。		なっていない。	特になし。	特になし。	
	負債は返還可能の範囲で妥当な数値となっているか。		なっている。	特になし。	特になし。	
				記載責任者　職・氏名	事務局長　　西　田　真　紀	

小項目	チェック項目	評定	現状の取組状況	課　　題	今後の改善方策	参考資料
8-28-2 学校および法人運営にかかる主要な財務数値に関する財務分析を行っているか。	最近 3 年間の収支状況（消費収支・資金収支）による財務分析を行っているか。	3	行っている。	特になし。	特になし。	
	最近 3 年間の財産目録・貸借対照表の数値による財務分析を行っているか。		行っている。	特になし。	特になし。	
	最近 3 年間の設置基準等に定める負債関係の割合推移データによる償還計画を策定しているか。		策定している。	特になし。	特になし。	
	キャッシュフローの状況を示すデータはあるか。		ある。	特になし。	特になし。	
	教育研究比率、人件費比率は適切な数値になっているか。		なっている。	特になし。	特になし。	
	コスト管理を適切に行っているか。		行っている。	特になし。	特になし。	
	収支の状況について自		している。	特になし。	特になし。	

	己評価しているか。					
	改善が必要な場合において、今後の財務改善計画を策定しているか。		策定している。	特になし。	特になし。	
				記載責任者　職・氏名	事務局長　　西　田　真　紀	

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
各施設団体等に提出する必要があるものが多く、収支計算書や償還計画など、一年中扱っていることが多い。財政基盤として、学生の確保が最重要課題だと認識している。	

記載責任者　職・氏名	事務局長　　西　田　真　紀

８－29　予算・収支計画

小項目	チェック項目	評定	現状の取組状況	課　　題	今後の改善方策	参考資料
8-29-1 教育目標との整合性を図り、単年度予算、中期計画を策定しているか。	予算編成に際して、教育目標、中期計画、事業計画等と整合性を図っているか。	3	整合性を図っている。	特になし。	特になし。	
	予算の編成過程および決算過程は明確になっているか。		明確になっている。	特になし。	特になし。	
				記載責任者　職・氏名	事務局長　　西　田　真　紀	

小項目	チェック項目	評定	現状の取組状況	課　　題	今後の改善方策	参考資料
8-29-2 予算および計画に基づき適正に執行管理を行っているか。	予算の執行計画を策定しているか。	3	策定している。	特になし。	特になし。	
	予算と決算に大きなかい離を生じていないか。		生じていない。	特になし。	特になし。	

	予算過程が見込まれる場合、適切に補正措置を行っているか。		行っている。	特になし。	特になし。	
	予算規程、経理規程を整備しているか。		整備している。	特になし。	特になし。	
	予算執行にあたってチェック体制を整備するなど適切な会計処理を行っているか。		行っている。	特になし。	特になし。	
				記載責任者　職・氏名	事務局長　　西　田　真　紀	

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
理事会を通して予算案の策定発表、また補正予算案等も発表し確認を試みている。	

記載責任者　職・氏名	事務局長　　西　田　真　紀

８－30　監査

小項目	チェック項目	評定	現状の取組状況	課　　題	今後の改善方策	参考資料
8-30-1 私立学校法および寄附行為に基づき適切に監査を実施しているか。	私立学校法および寄附行為に基づき、適切に監査を実施しているか。	3	実施している。	特になし。	特になし。	
	監査報告書を作成し理事会等に報告しているか。		報告している。	特になし。	特になし。	
	監事の監査に加えて、監査法人による外部監査を実施しているか。		実施している。	特になし。	特になし。	
	監査時における改善意見について記録し、適切に対応しているか。		対応している。	特になし。	特になし。	

	記載責任者　職・氏名	事務局長　　西　田　真　紀

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
監事のほかに会計士も足を運び、定期的に状況報告と確認を行っている。	

記載責任者　職・氏名	事務局長　　西　田　真　紀

８－31　財務情報の公開

小項目	チェック項目	評定	現状の取組状況	課　　題	今後の改善方策	参考資料
8-31-1 私立学校法に基づく財務情報公開体制を整備し、適切に運用しているか。	財務公開規程を整備し、適切に運用しているか。	3	運用している。	特になし。	特になし。	
	公開が義務づけられている財務帳票、事業報告書を作成しているか。		作成している。	特になし。	特になし。	
	財務公開の実績を記録しているか。		記録している。	特になし。	特になし。	
	公開方法についてホームページに掲載するなど積極的な公開に取り組んでいるか。		出来る限り取り組んでいる。	特になし。	特になし。	
				記載責任者　職・氏名	事務局長　　西　田　真　紀	

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
今後も、情報公開について積極的な公開を心がけるとともに、適正な情報を公開することを前提に作成していく。	

記載責任者　職・氏名	事務局長　　西　田　真　紀

基準９　法令等の遵守　【平均評価：３．６】

９－32　関係法令、設置基準等の遵守

小項目	チェック項目	評定	現状の取組状況	課　　題	今後の改善方策	参考資料
9-32-1 法令や専修学校設置基準等を遵守し、適正な学校運営を行っているか。	関係法令および設置基準等に基づき、学校運営を行うとともに、必要な諸届等を行っているか。	4	関係法令に基づいて、必要な諸届等を行っている。	特になし	特になし	
	学校運営に必要な規則・規程等を整備し、適切に運用しているか。		適宜必要となる規則・規程を策定整備し、これに基づいた運用を行っている。	特になし	特になし	
	セクシャルハラスメント等の防止のための方針を明確化し、対応マニュアルを策定して適切に運用しているか。		ハラスメントマニュアルを策定し、これに基づいた運用を行っている。	特になし	特なし	
	教職員、学生に対し、コンプライアンスに関する相談窓口を設置しているか。		教務部に窓口を設置し、適宜対応に当たっている。	特になし	特になし	
	教職員、学生に対し、法令遵守に関する研修・教育を行っているか。		教員に対しては教職員会議の場で、学生に対しては学科にて適宜研修・教育を行っている。	特になし	特になし	
				記載責任者　職・氏名	事務局長　　西　田　真　紀	

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
法令遵守を第一義に、規則・規程についても必要に応じて順次、整備を図ってい	

る。規則・規程についてはさらに整備を図る必要がある。	

記載責任者　職・氏名	事務局長　　西　田　真　紀

９－33　個人情報保護

小項目	チェック項目	評定	現状の取組状況	課　　題	今後の改善方策	参考資料
9-33-1 学校が保有する個人情報保護に関する対策を実施しているか。	個人情報保護に関する取扱方針・規程を定め、適切に運用しているか。	3	規程に基づく運用を行っている。	特になし	特になし	個人情報保護方針 研修会資料
	大量の個人データを蓄積した電磁気録の取扱いに関し、規程を定め、適切に運用しているか。		規程に基づく運用を行っている。	学校サーバーに対する不正アクセスの危険。	不正アクセス防止のさらなる強化。	
	学校が開設したサイトの運用にあたって、情報漏洩等の防止策を講じているか。		サイト管理者において情報漏洩防止策を講じている。	特になし	特になし	
	教職員・学生に個人情報管理に関する啓発および教育を実施しているか。		教職員には研修の機会を設けるとともに、学生には都度、啓発および教育を行っている。	教職員および学生の個人情報管理にかかる意識の希薄。	個人情報管理に関する啓発および教育の徹底。	
				記載責任者　職・氏名	教務部長　　味　村　吉　浩	

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
個人情報の保護については規定に基づいて徹底した管理を行っているが、複数サーバーの存在が不正アクセスの侵入口を増やしている原因となっている。不正アクセス防止のためのセキュリティは講じているが、進化する不正アクセスに対するさらなるセキュリティ強化が必要と考えられる。	経年劣化したサーバーの交換を必要とする。

記載責任者　職・氏名	教務部長　　味　村　吉　浩

９－34　学校評価

小項目	チェック項目	評定	現状の取組状況	課　　題	今後の改善方策	参考資料
9-34-1 自己評価の実施体制を整備し、評価を行っているか。	実施に関し、学則および規程等を整備し実施しているか。	3	自己評価の実施にかかる規程等が整備されていない。	自己評価実施にかかる規程等の整備が不十分である。	自己評価実施にかかる規程等の整備。	自己評価規程 評価スケジュール 自己評価報告書 結果公表資料
	実施にかかる組織体制を整備し、毎年度定期的に全学で取り組んでいるか。		教務部主導のもと、毎年度定期的に全学で取り組んでいる。	各部署における自己評価基準に若干の温度差が見受けられる。	各部署において自己評価実施担当者の選任および研修等の実施による評価基準の統一化。	
	評価結果に基づき、学校改善に取り組んでいるか。		評価結果をもとに改善に取り組んでいる。	評価結果の全てに改善策が講じられていない。	評価結果に対する改善担当委員会の設置。	
				記載責任者　職・氏名	教務部長　　味　村　吉　浩	

小項目	チェック項目	評定	現状の取組状況	課　　題	今後の改善方策	参考資料
9-34-2 自己評価結果を公表しているか。	評価結果を報告書に取りまとめているか。	4	報告書を作成している。	特になし	特になし	自己点検・自己評価報告書
	評価結果をホームページに掲載するなど広く社会に公表しているか。		ホームページ上に公表している。	特になし	特になし	
				記載責任者　職・氏名	教務部長　　味　村　吉　浩	

小項目	チェック項目	評定	現状の取組状況	課　　題	今後の改善方策	参考資料
9-34-3 学校関係者評価の実施体制を整備し、評価を行っているか。	実施に関し、学則および規程等を整備し実施しているか。	3	学校関係者評価の実施にかかる規程等が整備されていない。	学校関係者評価の実施にかかる規程等の整備が不十分である。	学校関係者評価の実施にかかる規程等の整備。	学校関係者評価委員会議事録 結果公表資料
	実施のための組織体制		学校関係者評価委員会	特になし	特になし	

	を整備しているか。		を組織している。			
	設置課程･学科の関連業界等から委員を適切に選任しているか。		選任している。	各設置学科に関連した業界等から委員が選任されていない。	各設置学科に関連した業界等からの委員選任。	
	評価結果に基づく学校改善に取り組んでいるか。		評価結果をもとに改善に取り組んでいる。	評価結果の全てに改善が見出せていない。	評価結果に対する改善担当委員会の設置。	
				記載責任者　職・氏名	教務部長　　味　村　吉　浩	

小項目	チェック項目	評定	現状の取組状況	課　　題	今後の改善方策	参考資料
9-34-4 学校関係者評価結果を公表しているか。	評価結果を報告書に取りまとめているか。	4	報告書を作成している。	特になし	特になし	学校関係者評価委員会議事録 学校関係者評価報告書
	評価結果をホームページに掲載するなど広く社会に公表しているか。		ホームページ上に公表している。	特になし	特になし	
				記載責任者　職・氏名	教務部長　　味　村　吉　浩	

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
自己評価および学校関係者評価はともに実施しているが、これらを実施する上での規程等の整備が必要。また、各評価に対する改善策を策定し、それを有効に実行するための体制づくりを強化する必要がある。	特になし

記載責任者　職・氏名	教務部長　　味　村　吉　浩

９－35　教育情報の公開

小項目	チェック項目	評定	現状の取組状況	課　　題	今後の改善方策	参考資料
9-35-1 教育情報に関する情報公開を積極的に行って	学校の概要、教育内容、教職員等の教育情報を積極的に公開している	4	学校ホームページや学校案内を用いて公開している。	特になし	特になし	学校ホームページ 学校案内

いるか。	か。					
	学生、保護者、関連業界等広く社会に公開しているか。		学校ホームページや学校案内を用いて公開している。	特になし	特になし	
				記載責任者　職・氏名	教務部長　　味　村　吉　浩	

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
学校の概要、教育内容、教職員の教育情報については学校ホームページ等を用いて広く公開できている。今後、学校ホームページ等の閲覧者の側に立って、教育情報についてより理解しやすいものへと改良することを心がけている。	特になし

記載責任者　職・氏名	教務部長　　味　村　吉　浩

基準 10　社会貢献・地域貢献　【平均評価：３．３】

小項目	チェック項目	評定	現状の取組状況	課　　題	今後の改善方策	参考資料
10-36-1 学校の教育資源を活用した社会貢献･地域貢献を行っているか。	産・学・行政・地域等との連携に関する方針･規程等を整備しているか。	2	当該規程は整備されていない。	当該規程の整備を図る必要がある。	当該規程の整備。	学校施設貸与規程
	企業や行政と連携した教育プログラムの開発、共同研究の実績はあるか。		実績がない。	教育プログラムの開発や共同研究にかかる連携要請がない。	該当しない。	
	国の機関からの委託研究および雇用促進事業について積極的に受託しているか。		受託していない。	雇用促進事業については本校の事情に合わせて受託している。	引き続き同様の取扱いとする。	
	学校施設・設備等を地域・関連業界・卒業生等に開放しているか。		関連業界から施設使用にかかる申出を受けて貸与している。	特になし	特になし	
	高等学校等が行うキャ		高等学校からの要請に	特になし	特になし	

	リア教育の実施に教員を派遣するなど積極的に協力・支援しているか。		基づき教員を派遣している。			
	学校の実習施設を活用するなど高等学校の職業教育の実施に協力・支援しているか。		高等学校からの申出を受託するかたちで職業教育の実施に協力・支援している。	特になし	特になし	
	地域の受講者等を対象とした「生涯学習講座」を開講しているか。		地域の受講者等を対象とした講座は開講していない。	特になし	特になし	
	環境問題など重要な社会問題の解決に貢献するための活動を行っているか。		市の清掃活動等に参加するなどして環境問題の解決にかかわっている。	特になし	特になし	
	教職員・学生に対し、重要な社会問題に対する問題意識の醸成のための研修・教育に取り組んでいるか。		特に取り組んでいない。	教職員や学生が、重要な社会問題に対する問題意識の醸成のための研修や教育に取り組む必要がある。	今後の検討課題とする。	
				記載責任者　職・氏名	教務部長　　味　村　吉　浩	

小項目	チェック項目	評定	現状の取組状況	課　　題	今後の改善方策	参考資料
10-36-2 国際交流に取り組んでいるか。	海外の教育機関との国際交流の推進に関する方針を定めているか。	4	定めている。	特になし	特になし	
	海外の教育機関と教職員の人事交流・共同研究等を行っているか。		今後、人事交流を図る予定である。	特になし	特になし	
	海外の教育機関と留学生の受入れ、派遣、研修の実施など交流を行っているか。		海外教育機関学生の研修受入れにより交流を図っている。	特になし	特になし	
	留学生の受入れのため、学修成果、教育目標を明		留学生を対象とした学修成果、教育目標の明	特になし	特になし	

	確化し、体系的な教育課程の編成に取り組んでいるか。		確化、体系的な教育課程の編成に取り組んでいる。			
	留学生の受入れを促進するために学校が行う教育課程、教育内容・方法等について国内外に積極的に情報発信を行っているか。		学校ホームページによる公開、海外事業部による広報活動によって情報発信に努めている。	特になし	特になし	
				記載責任者　職・氏名	教務部長　　味　村　吉　浩	

小項目	チェック項目	評定	現状の取組状況	課　　題	今後の改善方策	参考資料
10-37-1 学生のボランティア活動を奨励し、具体的な活動支援を行っているか。	ボランティア活動など社会活動について、学校として積極的に奨励しているか。	4	奨励している。	活動日が授業日や授業時間帯と重なり、就学に支障を来しかねないこと。	検討中	
	活動の窓口の設置など、組織的な支援体制を整備しているか。		窓口を設置しているが、組織的な支援体制とはなっていない。	ボランティア支援体制の組織化。	検討中	
	ボランティア活動実績を把握しているか。		把握している。	特になし	特になし	
	ボランティアの活動実績を評価しているか。		卒業年次に評価して、表彰を行うなどの措置を講じている。	特になし	特になし	
	ボランティアの活動結果を学内で共有しているか。		教職員レベルの情報共有にとどまっている。	結果報告の機会を設ける必要がある。	検討中	
				記載責任者　職・氏名	教務部長　　味　村　吉　浩	

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
学校施設・設備等の開放については学校安全の観点からこれに至っていないが、申請を経て審査の上、随時貸与のかたちを取っている。留学生数の増加に伴って、受入れ体制も整備されてきている。ボランティア活動については学生のみ	

ならず教職員も参加するようにしているが、授業日や授業時間帯と重なることによって公認欠席扱いとはするものの、学生の学修成果に不安を残す。	

記載責任者　職・氏名	教務部長　　味　村　吉　浩